

ETOSWEB SERVER V6.3 導入ガイド

ご 注 意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは、禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一御不審な点や誤り、記載漏れなどお気付きのことがありましたらご連絡ください。
- (4) 運用した結果の影響について(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

Microsoft、Windows、Windows Server、Visual C++、Visual Studio、ActiveX は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

帳楽は、NEC ソリューションイノベータ株式会社の登録商標です。

ETOSJX、FontAvenue、PrintBridge、BizReporting、ネットワークマネージャは、日本電気株式会社の登録商標です。

本マニュアルに掲載されている会社名、商品名は、一般に各社の商標または登録商標です。



警告

CD-ROM 媒体は、CD-ROM 対応プレーヤー以外では絶対に使用しないでください。大音量によって耳に障害を被ったり、スピーカーを破損するおそれがあります。

© NEC Corporation 1998, 2017

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は、外国為替および外国貿易管理法の規定により、戦略物資等輸出規制品に該当します。従って、日本国外に持出す際には日本国政府の輸出許可申請等必要な手続きをお取り下さい。

はしがき

本書は ETOSWEB SERVER のセットアップについて説明します。

ETOSWEB SERVER は、パーソナルコンピュータ等を使用し、社内外からインターネット／イントラネットを経由し、NEC 製ホストコンピュータ (ACOS など) に接続し、各種オンライン業務を行うことを可能とするサーバソフトウェアです。

マニュアルの読み方については、[本製品のマニュアル構成] をご覧ください。

本製品をご利用になるには、ネットワークマネージャが必要です。
ネットワークマネージャがない場合、動作できませんのでご注意ください。

本製品のマニュアル構成

本製品のマニュアルは、導入ガイド、操作ガイドから構成されています。
目的に応じて、それぞれのマニュアルを以下のようにご利用ください。

導入ガイド

ETOSWEB SERVER を購入されてから業務開始までに必要な作業手順について説明しています。

ETOSWEB SERVER をインストールする前に必ずお読みください。

操作ガイド

基本的な操作方法と各機能の操作方法について説明しています。

ETOSWEB SERVER を使用する前にお読みください。

リファレンスマニュアル

ETOSWEB SERVER の各機能について詳しく説明しています。

使用目的や業務内容に応じて必要な部分をお読みください。

マニュアル上の表現と用語の説明

本マニュアルでは、本文中の字句の意味を明確にするために、次のような表記方法を使用しています。

また、入力文字数の制限は、特に指定がない場合半角での文字数を示します。

表記	意味
ActiveX 版	「ETOSWEB SERVER ActiveX 版」のこと。 ACOS ホスト画面表示/入力機能を ActiveX コントロールとして提供することでクライアントの Web ブラウザから利用が可能。
GW サーバ	ActiveX 版で使用する「ETOSWEB GW SERVER」のこと。 ActiveX 版のアクセス制限の設定、接続クライアントの表示、サーバ/クライアント間のデータ通信を行うプログラム。
ネットワーク マネージャ	ACOS ホストコンピュータと端末を接続するための通信基盤ソフトウェア。

本マニュアルで、使用する用語の説明をします。

用語	意味
ActiveX	Microsoft 社が提唱する Internet 対応アプリケーションや Internet コンテンツを開発するための技術の総称。
ActiveX コントロール	Web ページに埋め込むことで、HTML だけでは不可能なボタンやアニメ、マルチメディアプレーヤーなどの動きのある機能を追加できるソフトウェア・コンポーネント。
ASP	Active Server Pages の略。 Microsoft 社が提供する IIS 環境で動作する Web サーバと Web ブラウザ間通信制御インタフェース。
HTML	HyperText Markup Language の略 Web サーバでのドキュメントを記述するための言語。
HTTP	HyperText Transfer Protocol の略 Internet の Web サービスにおいて、Web サーバから Web クライアントに対して HTML で記述されたドキュメントを送受信するための通信プロトコル。
IIS	Internet Information Services の略。 Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012、Windows Server 2012 R2 および Windows Server 2016 上で動作する Web サーバを示す。
RAS	Remote Access Services の略。 専用回線または公衆回線を使って、サーバ/クライアント間を接続する通信形態。
URL	Uniform Resource Locator の略。 Internet 上のリソースのロケーションを指し示す記述様式。
Web サーバ	WWW 上である特定のサービスを提供するシステムやコンピュータ。
WWW	World Wide Web の略。 欧州核物理学研究所 (European Center for Nuclear Research, CERN) で開発されたドキュメントシステム。

目次

はしがき	ii
本製品のマニュアル構成	iii
マニュアル上の表現と用語の説明	iv
目次	vi
第1章 ETOSWEB SERVER とは	2
1.1 ETOSWEB SERVER とは	2
1.2 利用形態	4
第2章 動作環境	12
2.1 サーバ環境	12
2.2 クライアント環境	13
2.3 ネットワーク環境	15
第3章 インストール	17
3.1 インストールの流れ	17
3.2 Web サーバのセットアップ	18
3.3 ETOSWEB SERVER の登録	20
3.4 ライセンスの追加と削除	28
3.4.1 ライセンスの追加	28
3.4.2 ライセンスの削除	30
3.5 インストールモジュールの変更	32
3.6 ETOSWEB SERVER の削除	35
3.6.1 ETOSWEB SERVER のアンインストール	35
3.6.2 クライアントモジュールのアンインストール	39
第4章 環境設定	41
4.1 環境設定の手順	41
4.2 GW サーバの設定	42
4.2.1 GW サーバとは	42
4.2.2 GW サーバを起動する	42
4.2.3 パラメータを設定する	43
4.3 クライアントで接続状態を参照する	52
4.4 HTML ファイルについて	55
4.5 使用する Web ブラウザについて	57
4.6 N5200 系コードの印刷で障害通知を行う場合	58
4.6.1 ドライバをダウンロードする	58
4.6.2 ETOSJX 専用プリンタ登録を起動する	59
4.6.3 専用プリンタを登録する	60
4.6.4 専用プリンタを登録せずに終了する	63
4.6.5 出力先を変更する	63
4.7 64bit 分散アプリケーションを使用する場合	65
第5章 PG パラメータ設定	69
5.1 パラメータファイルとは	69
5.2 ETOSJX-PG とは	69
5.3 パラメータファイルの作成手順	69
5.4 ETOSJX-PG を起動する	70
5.5 基本パラメータを入力する	71
5.6 拡張パラメータを入力する	73
5.6.1 簡易操作機能の指定をする	74
5.6.2 初期動作を指定する	75
5.6.3 キーをカスタマイズする	76
5.6.4 ファンクションスイッチ機能を指定する	85

5.6.5	COMI-2 パス拡張機能を指定する	91
5.6.6	ID カードリーダ機能を指定する	103
5.6.7	回線接続に関するパラメータを指定する	104
5.6.8	プリンタ情報を設定する (COMI-2 パス)	105
5.6.9	プリンタ情報を設定する (UA パス)	117
5.6.10	ハードコピー機能を指定する	118
5.6.11	クライアント起動時の表示情報を指定する	120
5.6.12	クライアント起動時の画面補助機能をカスタマイズする	122
5.6.13	表示フォントを指定する	131
5.6.14	画面表示色を指定する	133
5.6.15	データ連携の区切り文字を指定する	137
5.6.16	入力モードを指定する	138
5.6.17	マクロファイルを指定する	141
5.6.18	ブザー鳴動を指定する	143
5.6.19	ETOS 制御 API 機能を指定する	145
5.6.20	DCS プリンタの起動を指定する	146
5.6.21	クライアントパラメータを指定する	147
5.7	リソースパラメータを入力する	148
5.7.1	ローカル画面機能の指定をする	149
5.7.2	UA パス機能を指定する	150
5.7.3	UA パスファイル受信終了時の自動起動アプリケーションを設定する	151
5.7.4	コード変換テーブルを設定する	152
5.7.5	DCS エラー鳴動を設定する	153
5.8	全パラメータに既定値をセットする	154
5.9	ヘルプを使う	155
5.10	作成したファイルを保存する	158
5.11	作成したファイルを開く	161
5.12	パラメータファイルを印刷する	163
5.13	ファイル作成を終了する	166
第6章	UA パスプリンタ設定	169
6.1	PGD ファイルとは	169
6.2	DCS プリンタとは	169
6.3	PGD ファイルを作成する前	169
6.4	DCS プリンタを起動する	170
6.5	PGD ファイルを新規作成する	171
6.6	パラメータを設定する	172
6.6.1	通信情報を設定する	173
6.6.2	プリンタを設定する	174
6.6.3	コード変換テーブルを使用する	192
6.6.4	オフライン印刷ファイルの出力先を指定する	193
6.6.5	エラー発生時の動作を指定する	194
6.6.6	クライアントパラメータの設定	195
6.7	ヘルプを使う	196
6.8	作成したファイルを保存する	198
6.9	作成したファイルを開く	200
6.10	PGD ファイルを印刷する	201
6.11	ファイル作成を終了する	202
第7章	パラメータファイルを変換する	204
7.1	PG コンバータとは	204
7.2	パラメータファイルの変換手順	204
7.3	PG コンバータを起動する	205
7.4	パラメータファイルを変換する	206

7.5	バージョン情報を表示する	208
7.6	PGコンバータを終了する	209
第8章	LU定義ファイルの作成	211
8.1	LU定義ファイルとは	211
8.2	LU定義ツールを起動する	211
8.3	LU定義ファイルを新規作成する	212
8.4	LU定義ファイルを更新する	214
8.5	LU定義リストを印刷する	219
8.6	エラーメッセージ	222
第9章	INIファイル編集ツール	225
9.1	INIファイル編集ツールとは	225
9.2	INIファイル編集ツールの起動/終了	225
9.2.1	INIファイル編集ツールを起動する	225
9.2.2	INIファイル編集ツールを終了する	226
9.3	サーバ情報を変更する	228
9.4	クライアント情報を変更する	230
9.5	ActiveX版起動設定を変更する	231
9.5.1	ActiveX版クライアントの起動設定を変更する	231
9.5.2	PGリストの表示内容を変更する	233
9.5.3	ActiveX版クライアントの起動設定をカスタマイズする	235
9.6	ログ採取設定を変更する	239
第10章	拡張機能の設定	241
10.1	9ポイント文字の印刷設定	241
10.2	PrintBridgeを経由して印刷する	243
10.3	BizReportingを経由して印刷する	245
第11章	トラブルシューティング	248
11.1	インストールでのトラブル	248
11.2	パラメータ設定でのトラブル	249
付録A	ETOSWEB SERVER 導入時の注意事項	251
付録B	ETOSWEB SERVER 使用時の注意事項	253
付録C	障害発生時のお願い	259
付録D	コード変換テーブル	265
付録E	N5200系コード対応プリンタ	268

第1章

ETOSWEB SERVER とは

この章では、ETOSWEB SERVER の製品説明と位置づけについて説明します。

- 1. 1 ETOSWEB SERVER とは
- 1. 2 利用形態

第1章 ETOSWEB SERVER とは

1.1 ETOSWEB SERVER とは

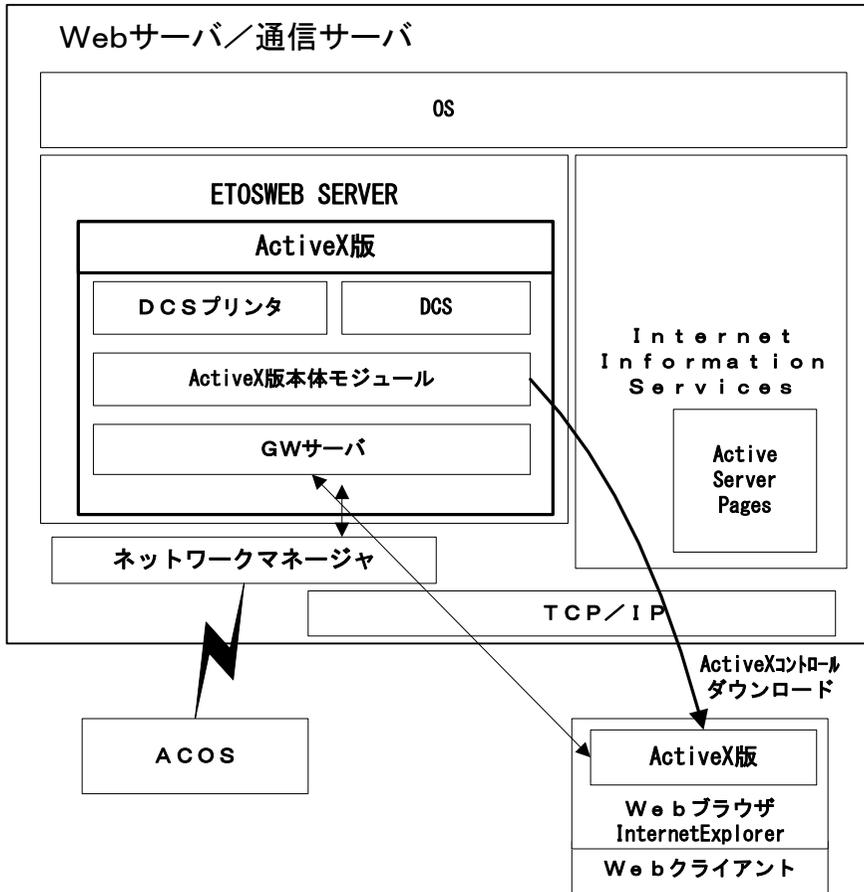
ETOSWEB SERVER は、Web ブラウザから対 ACOS ホスト通信を可能とするサーバソフトウェアです。

ETOSWEB SERVER では、ActiveX コントロールを Web ブラウザでダウンロードする ActiveX 版が利用可能です。

以降、ETOSWEB SERVER の動作するシステム概要を説明します。

●ActiveX 版

ActiveX コントロールを Web ブラウザでダウンロードすることで、ETOSJX for シフト JIS V5.3 と同等機能が利用可能です。



[ActiveX 版システム概要図]

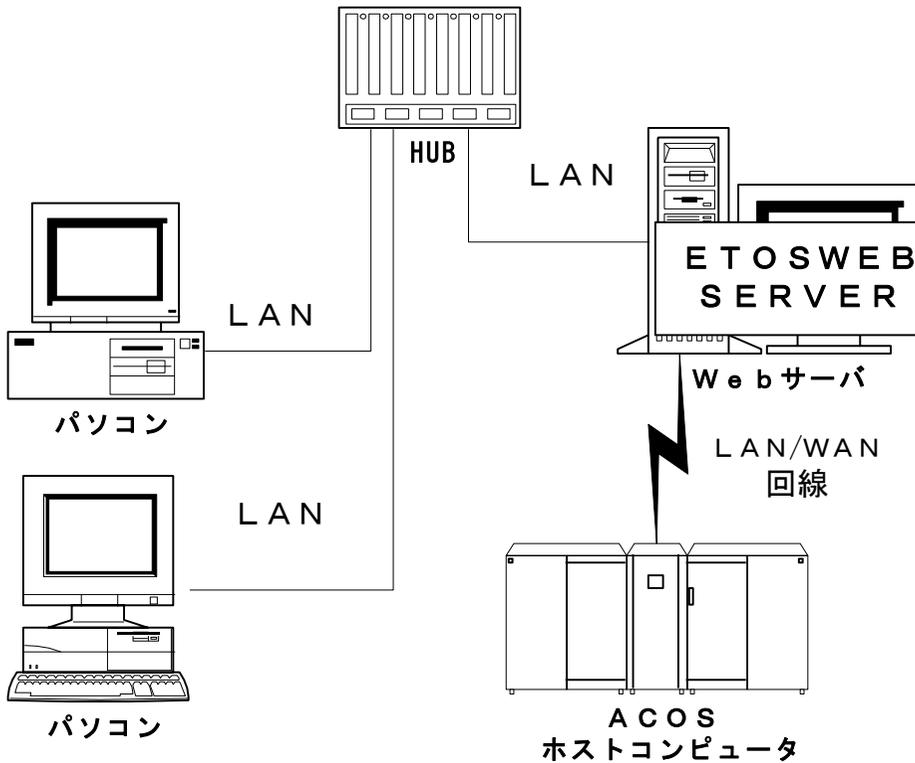
- (注意)
- (a) ActiveX 版では、UA パス ファイル転送/ローカル画面転送機能は通信サーバ上で動作します。
 - (b) 下記機能についてはサポートしていません。
 - ・サスペンド拒否機能
 - ・WS 番号指定
 - (c) 1 通信リソースあたり最大 252LU(01~FF の範囲で 21、31、41 を除く 252 個)まで接続できますが、使用するサーバ機器のスペックによっては本値に達する前に接続できなくなる場合があります。

1.2 利用形態

ETOSWEB SERVER の運用例を説明します。

(1) 社内 LAN を使用したイントラネット運用

社内 LAN に接続されたサーバで ETOSWEB SERVER を運用することにより、ホスト業務をイントラネット内で共有できます。

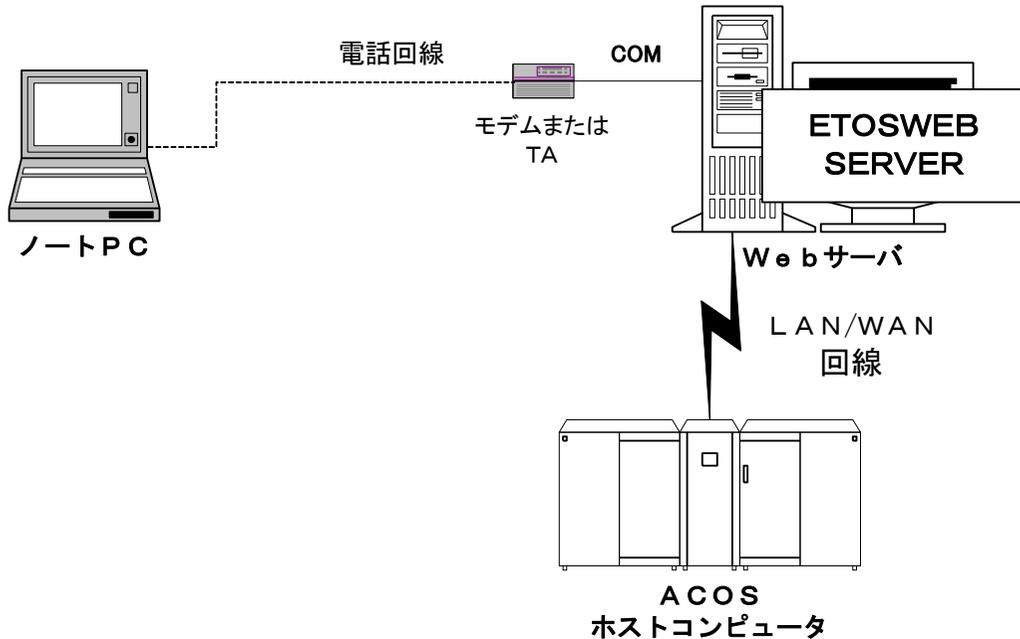


(注意) 説明図は LAN 回線が 10BASE-T の場合の構成です。

10BASE-2/5 の LAN 回線を使用する場合は、上記構成とは異なります。

(2) RAS(リモートアクセスサービス)接続によるモバイル運用

外出先から電話/ISDN 回線、携帯電話、PHS などを利用して、会社の ETOSWEB SERVER へアクセスし、ホスト業務を行うことができます。



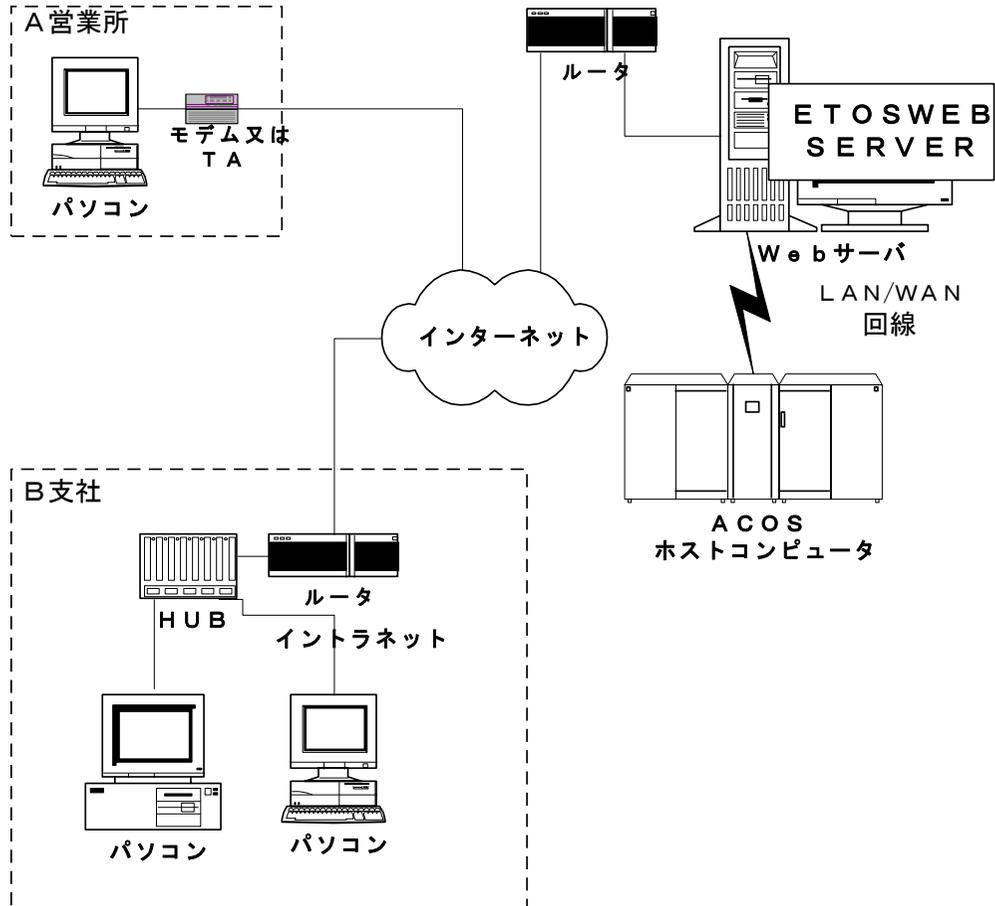
(注意)

- 1) 電話回線でサーバクライアント接続を行う場合は、クライアント/サーバの双方でモデムが必要です。
- 2) デジタル携帯電話を使用する場合は、デジタルセルラカードが必要です。
- 3) PHSを使用する場合は、PHS用データ通信カードが必要です。
- 4) ISDN回線でサーバクライアント接続を行う場合は、クライアント/サーバの双方でISDN-TA(ターミナルアダプタ)が必要です。
- 5) リモートアクセスで同時に接続できるクライアント数は、サーバ側の電話回線数およびISDN回線数、PCサーバのCOMポートの数に依存します。

(3) インターネットに接続した拠点運用

ETOSWEB SERVER を運用するサーバをインターネットに接続することにより、ホスト業務を多拠点で共有できます。

運用にあたっては、厳重にセキュリティ管理を行ってください。



(注意)

- 1) インターネットへ接続する場合は、ISP(インターネットサービスプロバイダ)へ接続契約を結ぶ必要があります。
- 2) LAN 回線をルータ経由でインターネット接続する場合は、接続サービス等の契約が必要です。

第2章

動作環境

この章では、ETOSWEB SERVER を使用する場合に必要なハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク環境について説明します。

- 2. 1 サーバ環境
- 2. 2 クライアント環境
- 2. 3 ネットワーク環境

第2章 動作環境

2.1 サーバ環境

ETOSWEB SERVER を動作させるために以下のハードウェア、ソフトウェアが必要です。

本体	下記の必要OS/ソフトウェアが動作する Express5800/100シリーズ Express5800/ftサーバシリーズ
必要メモリ サイズ	7.5MB以上 (接続先ホストが異なる毎に5MB必要、 1セッション追加毎に0.2MB必要)
	OS、Active Server Pages、ネットワークマネージャを含まない 動作に最低限必要なメモリ容量
必要ハード ディスク	空き容量として15MB以上 (1クライアント起動毎に0.1MB必要)
	OS、Active Server Pages、ネットワークマネージャを含まない 動作に最低限必要なディスク容量
必要OS/ ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> ・ Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard/Enterprise 日本語版 (注) ・ Microsoft Windows Server 2012 Standard 日本語版 (注) ・ Microsoft Windows Server 2012 R2 Standard 日本語版 (注) ・ Microsoft Windows Server 2016 Standard 日本語版 (注) ・ Internet Information Services ・ Active Server Pages ・ Visual C++ Redistributable for Visual Studio 2012 ・ ネットワークマネージャ
その他 ハードウェア	<ul style="list-style-type: none"> ・ クライアントと通信するための通信機器(モデム、TA、LANカード等) ・ ホストと通信するための通信機器(ネットワークマネージャに依存) ・ CD-ROMユニット(インストール時に必要)

(注)Server Core はサポート対象外です。

また、仮想環境やリモートデスクトップ上での動作も保証しておりません。
お客様責任でご利用いただくことは可能ですが、障害等が発生しても、標準の利用環境(物理環境等)で同様の事象が発生しない場合は、問い合わせ対応等のサポートは行いませんので、あらかじめご了承ください。
なお、標準の利用環境における事象の再現確認については、お客様(または弊社担当 SE)で実施していただく必要がありますので、ご注意ください。

2.2 クライアント環境

ETOSWEB SERVER を動作させるクライアントマシンとして以下のハードウェア、ソフトウェアが必要です。

【クライアント環境】

本体	下記の必要OS／ソフトウェアが動作する PC98-NXシリーズ Express5800/50シリーズ
必要メモリ サイズ	22MB以上 OS及びWebブラウザを含まない動作に最低限必要なメモリ容量
必要ハード ディスク	空き容量として26MB以上 プログラム及びデータファイルのインストールに必要なディスク 容量
必要OS／ ソフトウェア	<p>【OS】 (注1) (注2) (注3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Microsoft® Windows 7 Professional 日本語版 ・ Microsoft® Windows 8 Pro 日本語版 ・ Microsoft® Windows 8.1 Pro 日本語版 ・ Microsoft® Windows 10 Pro 日本語版 Microsoft® Windows 10 Pro バージョン1511 日本語版 (注4) Microsoft® Windows 10 Pro バージョン1607 日本語版 (注5) <p>【ランタイム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Visual C++ Redistributable for Visual Studio 2012 <p>【Webブラウザ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Internet Explorer 11.0 <p>【JIS78フォント使用時】</p> <p>FontAvenue JIS78/90文字セット (注6)</p>
その他 ハードウェア	<ul style="list-style-type: none"> ・ サーバマシンと通信するための通信機器 (モデム、TA、LANカード等) <p>【IDカードリーダー使用時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NEC製IDカードリーダー (COMポート接続) ・ NECトーキン製IDカードリーダー (COMポート接続)

(注意)

- 1) 仮想環境やリモートデスクトップ上での動作は保証しておりません。
お客様責任でご利用いただくことは可能ですが、障害等が発生しても、標準の利用環境(物理環境等)で同様の事象が発生しない場合は、問い合わせ対応等のサポートは行いませんので、あらかじめご了承ください。
なお、標準の利用環境における事象の再現確認については、お客様(または弊社SE)で実施していただく必要がありますので、ご注意ください。
- 2) 64bitOSでのプリンタ障害通知機能は、Windows 8以降のOSでサポートしています(Windows 7(x64)は、プリンタ障害通知機能は未サポートです)。ただし、ご利用には「64bit障害通知対応prライセンス」が必要です。
- 3) ActiveX版クライアントを利用する場合は、以下の点に注意してください。(詳細は製品同梱のセットアップカードをご覧ください)
 1. ご利用になる前に Internet Explorer の設定を変更する必要があります
 - ・ 信頼済みサイトに信頼するサイトの URL (WEB サーバの URL) を追加
 - ・ 署名された ActiveX コントロールのダウンロードを「有効」に変更
 2. ETOSWEB SERVER を初めて利用する場合、Internet Explorer を管理者として実行し ETOSWEB SERVER を登録する必要があります
 3. 業務にて使用する各種ファイルは、全ログオンユーザが参照可能なフォルダへ格納することを推奨します
- 4) Windows 10 Pro バージョン1511でLPTポートを使用した印刷を行う場合は、ビルド番号「10586.164」以降が必須です(ビルド番号は、コマンドプロンプトで「winver」を実行して確認してください)。
- 5) Windows 10 Pro バージョン1607 は、ビルド番号「14393.10」以降が必須です(ビルド番号は、コマンドプロンプトで「winver」を実行して確認してください)。
- 6) 通常ACOSホストではJIS78を使用していますが、Windows 7/Windows 8/Windows 8.1/Windows 10ではJIS2004を標準使用しています。
使用フォントをJIS78に合わせる場合は、JIS90からJIS78への切り替え機能を提供する、FontAvenue JIS78/90文字セットが必要です。

2.3 ネットワーク環境

ここでは、Web サーバ～Web クライアント間通信のネットワーク環境について説明します。
Web サーバ～ACOS 間の通信環境については、ネットワークマネージャのマニュアルを参照願います。

使用可能な 接続回線 I/F	<ul style="list-style-type: none"> ・ LAN 接続 ・ RAS (リモートアクセスサービス) 接続 ・ ISP (インターネットサービスプロバイダ) 接続
回線種別	<ul style="list-style-type: none"> ・ LAN 接続の場合 サーバ側：LAN 回線 クライアント側：Web サーバ側と同じ ・ RAS 接続の場合 サーバ側：ダイヤルアップ回線 (公衆回線/ISDN 回線交換) 専用線/直結 クライアント側：Web サーバ側と同じ ・ ISP 接続の場合 サーバ側：インターネット回線 LAN 経由での接続が可能 クライアント側：ダイヤルアップ回線 (公衆回線/ISDN 回線交換) LAN 経由での接続が可能

第3章

インストール

この章では、ETOSWEB SERVER で使用するソフトウェアの設定及びインストール方法について説明します。

- 3. 1 インストールの流れ
- 3. 2 Web サーバのセットアップ
- 3. 3 ETOSWEB SERVER の登録
- 3. 4 ライセンスの追加と削除
- 3. 5 インストールモジュールの変更
- 3. 6 インストールモジュールの修復
- 3. 7 ETOSWEB SERVER 削除

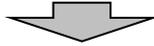
第3章 インストール

3.1 インストールの流れ

ETOSWEB SERVER をインストールするまでの手順は以下の通りです。

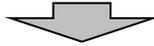
Web サーバ (IIS) をセットアップする

「3. 2 Web サーバのセットアップ」
を参照してください。



Active Server Pages をセットアップする

「3. 2 Web サーバのセットアップ」
を参照してください。



ネットワークマネージャをインストールする

ネットワークマネージャの「ユーザーズマニュアル」
を参照してください。



ネットワークマネージャの設定をする

ネットワークマネージャの「ユーザーズマニュアル」
を参照してください。



ETOSWEB SERVER を登録する

「3. 3 ETOSWEB SERVER の登録」
を参照してください。

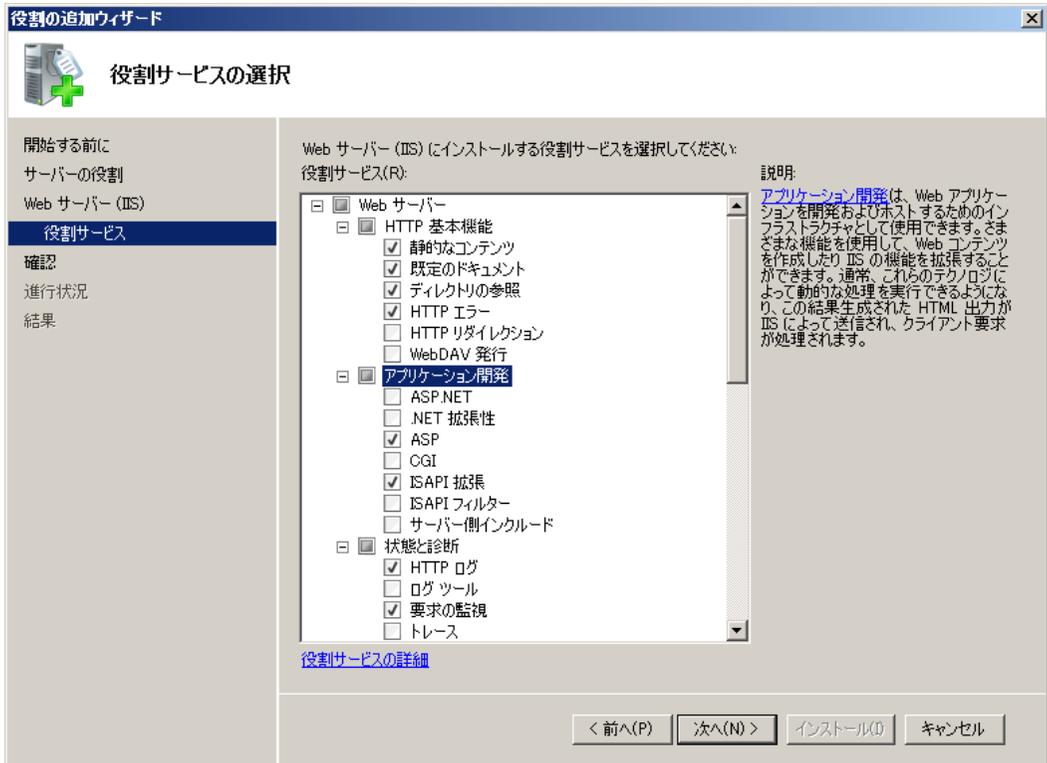
3.2 Web サーバのセットアップ

Web サーバのインストール方法について説明します。

サーバに IIS と ASP 機能を追加してください。機能の追加方法は OS のマニュアル等を参照願います。ETOSWEB SERVER は、Web サーバ環境として、Microsoft Internet Information Services (IIS) が利用できます。なお、IIS.NET はサポートしておりません。

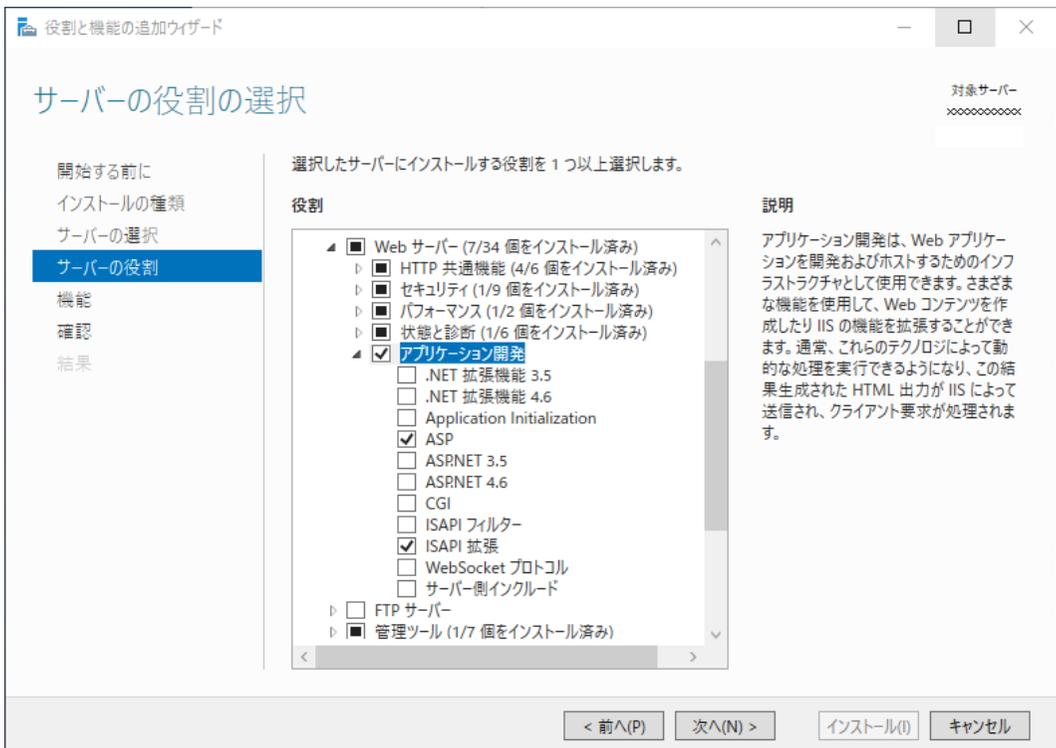
Microsoft Windows Server 2008 R2 で ETOSWEB SERVER を使用する場合には、以下の設定確認および必要に応じ設定変更を行ってください。

- ① [スタート]メニューから[管理ツール]－[サーバー マネージャー] を起動します。
- ② [役割]－[Web サーバ (IIS)] をクリックします。
- ③ [役割サービス]－[アプリケーション開発] に「ASP」および「ISAPI 拡張」がインストールされていない場合、[役割サービスの追加] で「ASP」および「ISAPI 拡張」をインストールしてください。
インストールされている場合、設定変更の必要はありません。



Microsoft Windows Server 2012、Microsoft Windows Server 2012 R2 および Microsoft Windows Server 2016 で ETOSWEB SERVER を使用する場合には、以下の設定確認および必要に応じ設定変更を行ってください。

- ① [サーバー マネージャー] を起動します。
- ② [ローカルサーバー] をクリックします。
- ③ [役割と機能] に「ASP」および「ISAPI 拡張」がインストールされていない場合、[役割と機能の追加] で「ASP」および「ISAPI 拡張」をインストールしてください。
インストールされている場合、設定変更の必要はありません。



3.3 ETOSWEB SERVER の登録

ETOSWEB SERVER のインストール方法について説明します。

ETOSWEB SERVER のインストール

ETOSWEB SERVER の動作には下記ソフトウェアが必要です。

インストール済みかどうかを確認した後、ETOSWEB SERVER のインストールを行ってください。

- Microsoft Internet Information Services
- Microsoft Active Server Pages
- Visual C++ Redistributable for Visual Studio 2012
- ネットワークマネージャ

ETOSWEB SERVERは、Windows Installerを使用してプログラムをインストールします。

ETOSWEB SERVERのセットアップは“既定のWEBサイト”のセキュリティ情報を引き継ぎ、仮想ディレクトリを登録します。そのため、ETOSWEB SERVERをインストールする前に“既定のWEBサイト”のディレクトリセキュリティをあらかじめクライアント端末から参照できる様に設定しておくか、インストール後に参照できる様に設定し直す必要があります。

また、ETOSWEB SERVER のインストール先のサーバを別の用途で Web サーバマシンとして利用している場合は、インターネットサービスを一時停止するため動作不可となりますので、ご注意ください。

(注意)

- 1) ETOSWEB SERVER および ETOSWEB SERVER 関連モジュールの動作中には登録削除ができません。
- 2) ETOSWEB SERVER のインストール後、OS を再起動してください。
- 3) インストールは Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012、Windows Server 2012 R2 または Windows Server 2016 をインストール済みのマシンに対して行ってください。Windows 7、Windows 8、Windows 8.1、Windows 10 がインストール済みのマシンに対してもインストールは可能ですが、その場合はユーティリティのみがインストール対象となります。
- 4) 本導入ガイドで指定されている以外の方法では、セットアップを起動しないでください。

ETOSWEB SERVER のインストールは、以下の手順で行ってください。

(1) 次の CD-ROM をあらかじめ用意してください。

- ETOSWEB SERVER V6.3

(2) 本体の電源を ON にして、OS を起動します。

(3) ETOSWEB SERVER の CD-ROM 媒体を本体の CD-ROM ドライブに挿入します。

(4) ETOSWEB SERVER のインストーラが起動されます。

※起動しない場合は「SETUP.EXE」を実行してください。



(5) セットアップタイプを選択してください。

[完全]を選択した場合は(8)の画面に進みます(クライアントにインストールする場合は(9)に進みます)。

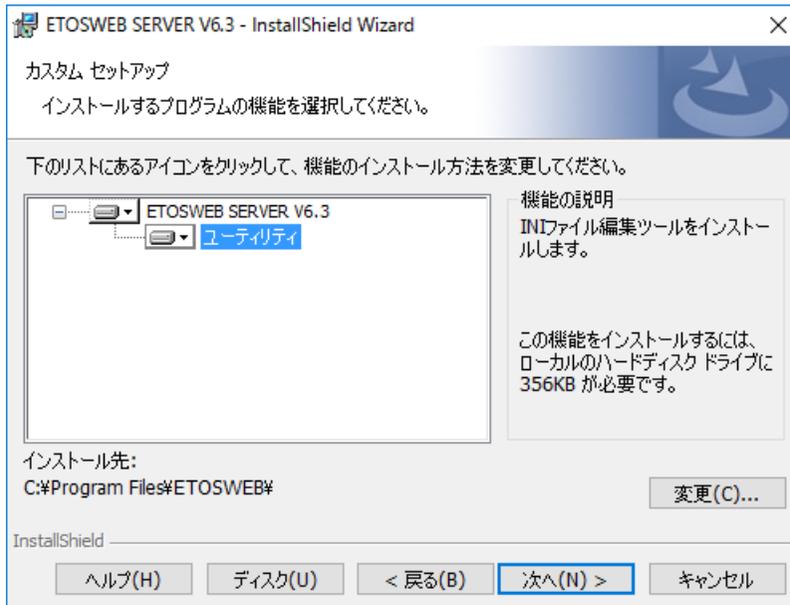


(6) インストール先フォルダを選択してください。

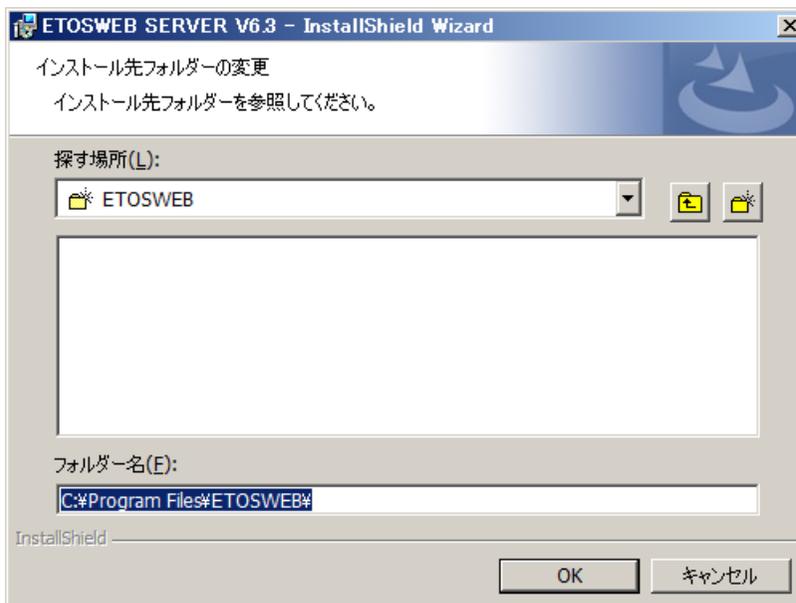
Windows Server 2008 R2/Windows Server 2012/Windows Server 2012 R2/Windows Server2016にインストールする場合は以下の画面が表示されます。



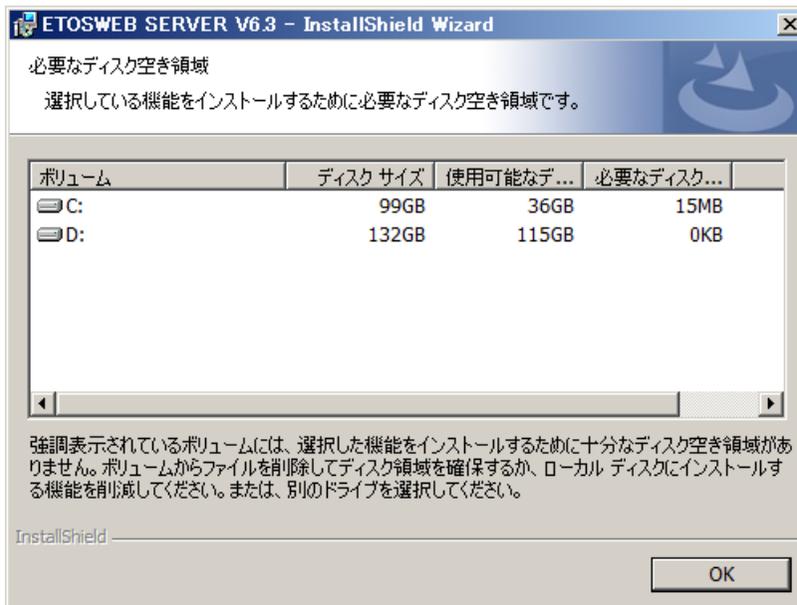
Windows 7/Windows 8/Windows 8.1/Windows 10 にインストールする場合は以下の画面が表示されます。



- ・ [変更] ボタンを押すとインストール先フォルダを変更できます。

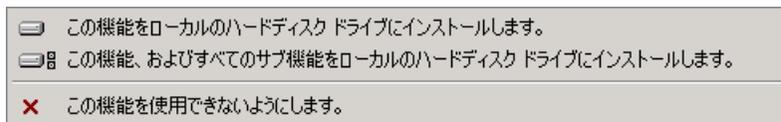


- ・ [ディスク] ボタンを押すと各ディスクの状況が確認できます。



- (7) インストールするモジュールを選択してください。

インストールするモジュールを選択するには、リスト内にあるアイコンをクリックします。アイコンをクリックすると、以下のドロップメニューが表示されます。



- ・ ETOSWEB SERVER をインストールする場合には、項番(8)へ。
- ・ ETOSWEB SERVER をインストールしない場合は、項番(9)へ。

- (8) ETOSWEB SERVER をインストールする場合には、下記項目の入力または、選択を行ってください。
- ・サーバの IP アドレスを入力してください。
 - ・サーバ - クライアント間の“ポーリング機能”を使用する場合は、[指定する] をチェックし、ポーリング間隔を入力してください。最小 1 分から最大 1440 分 (24 時間) まで、1 分間隔で指定します。
ポーリングを行わない場合には、[指定する] のチェックをはずします。
 - ・クライアントライセンスの管理をコンピュータの IP アドレスで管理するか、コンピュータ名で管理するかを選択してください。
 - ・クライアントライセンスを自動登録したい場合は、[ライセンス自動登録] をチェックしてください。手動登録する場合は、チェックをはずします。

ETOSWEB SERVER V6.3 - InstallShield Wizard

ETOSWEB GW Server の設定

IP アドレス、ポート番号、ポーリング指定、ライセンス管理方式を設定してください。

サーバ IP アドレス XXX . XXX . XXX . XXX

ポート番号 65000 (1024 ~ 65535)

ポーリング指定

指定する

ポーリング間隔 20 分 (1 ~ 1440)

ライセンス管理方式

IP 管理方式 コンピュータ名管理方式

ライセンス自動登録

InstallShield

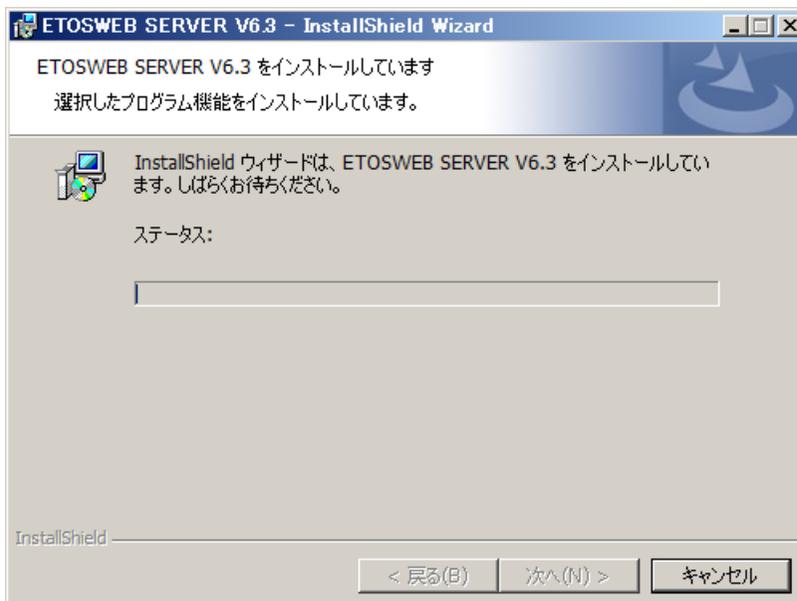
< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

[次へ] を押して、項番(9)へ。

- (9) インストール準備完了の画面が表示されます。
[インストール] を押すと、ETOSWEB SERVER のインストールが行われます。



- (10) インストール中は、以下の画面が表示されます。



注)インストールの終了に多少時間がかかる場合があります。

(11) 次の画面が表示されたら [完了] を押してください。



(12) 次の画面が表示されたら、インストールは完了です。



(13) インストール内容を有効にするために、システムを再起動してください。

インストール終了後、導入ガイドの第4章以降を参照し、環境設定を行ってください。

3.4 ライセンスの追加と削除

ETOSWEB SERVER のライセンスの追加と削除について説明します。

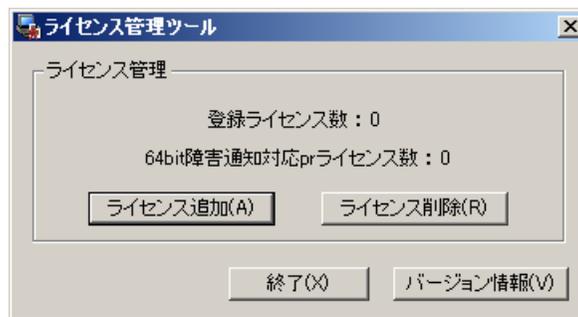
3.4.1 ライセンスの追加

ETOSWEB SERVER をインストールした時点では、ライセンスは登録されていません。ETOSWEB SERVER を使用するには、ライセンスを追加する必要があります。

また、64bit OS (Windows 7/Windows 8.1 /Windows 10) 環境で N5200 系コード印刷の障害通知機能を利用する場合は、「64bit 障害通知対応 pr ライセンス」を追加する必要があります。

ライセンスの追加は、以下の手順で行ってください。製品に添付されている 1 ユーザライセンスの追加を例として説明します(ユーザ追加パック、64bit 障害通知対応 pr ライセンスも同様の流れになります)。

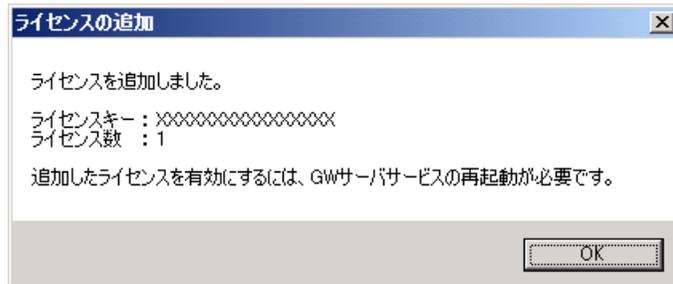
- (1) Windows のメニューからライセンス管理ツールを選択し、ライセンス管理ツールを起動します。



- (2) [ライセンス追加 (A)] ボタンを押します。
- (3) 「ライセンスの追加」画面が表示されます。
登録するライセンスキーを入力して [追加] を押してください。



- (4) ライセンス追加完了画面が表示されます。[OK] ボタンを押してください。

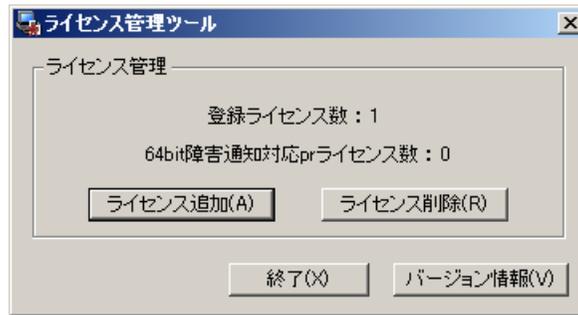


- (5) 再度、「ライセンスの追加」画面が表示されます。続けてライセンスを登録する場合は、(3)～(4)の操作を繰り返してください。
ライセンスの登録を終了する場合は、「ライセンスの追加」画面で [終了] ボタンを押してください。
- (6) ライセンス情報を有効にするために、システムを再起動してください。

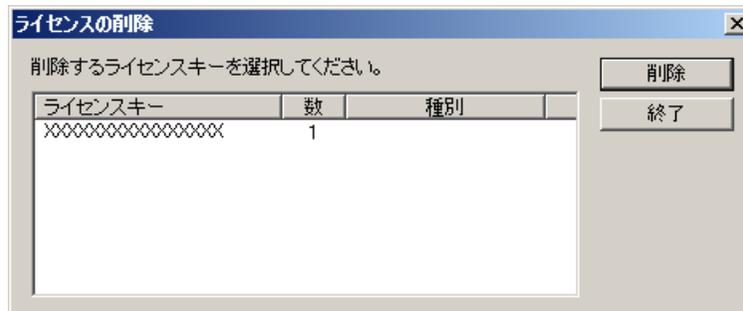
3.4.2 ライセンスの削除

ライセンスの削除は、以下の手順で行ってください。

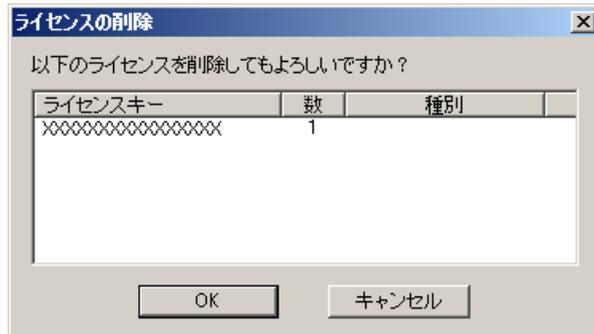
- (1) Windows のメニューからライセンス管理ツールを選択し、ライセンス管理ツールを起動します。



- (2) [ライセンス削除(R)] ボタンを押します。
- (3) 「ライセンスの削除」画面が表示されます。
登録されているライセンスキーの一覧から、削除するライセンスキーを選択し[削除]ボタンを押してください。



- (4) ライセンス削除の確認画面が表示されます。
表示されているライセンスキーを確認後、[OK] ボタンを押してください。



- (5) ライセンスの削除完了画面が表示されます。[OK] ボタンを押してください。



- (6) ライセンスの削除を終了する場合は、「ライセンスの削除」画面で [OK] ボタンを押してください。
- (7) ライセンス情報を有効にするために、システムを再起動してください。

3.5 インストールモジュールの変更

ETOSWEB SERVER のインストールモジュールの変更について説明します。

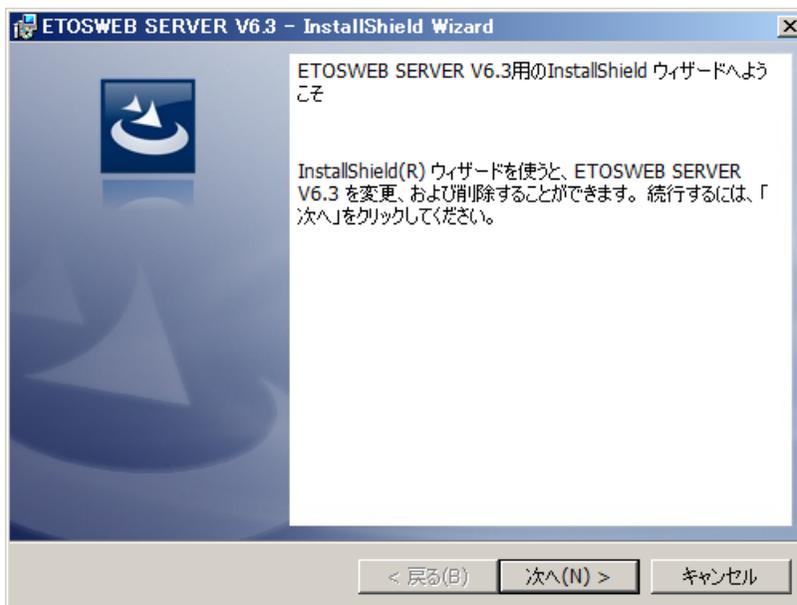
インストールモジュールの変更

ETOSWEB SERVER をインストールした後、インストールモジュールの追加／削除を行うことができます。

ETOSWEB SERVER の変更を行うサーバを別の用途で Web サーバマシンとして利用している場合は、インターネットサービスを一時停止するため動作不可となりますので、ご注意願います。

インストールモジュールの変更は以下の手順で行ってください。

- (1) ETOSWEB SERVER の CD-ROM 媒体を本体の CD-ROM ドライブに挿入します。
- (2) ETOSWEB SERVER のインストーラが起動されます。
※起動しない場合は「SETUP.EXE」を実行してください。



(3) プログラムの保守画面で「変更」を選択してください。



(4) 追加／削除を行いたいモジュールを選択してください。



- (5) 追加を行う場合は、「3. 3 ETOSWEB SERVER の登録」をお読みください。
削除を行う場合は、「3. 6 ETOSWEB SERVER の削除」をお読みください。
- (6) 以下の画面が表示されると、インストールモジュールの変更は終了です。



- (7) 追加を行った場合は、インストール内容を有効にするために、システムを再起動してください。

インストール終了後、導入ガイドの第4章以降を参照し、環境設定を行ってください。

3.6 ETOSWEB SERVER の削除

ETOSWEB SERVER のアンインストール方法について説明します。

3.6.1 ETOSWEB SERVER のアンインストール

ETOSWEB SERVER のアンインストール処理を行う前に、下記ソフトウェアをアンインストールしないでください(存在しない場合、ETOSWEB SERVER のアンインストールが行えません)。

- Microsoft Internet Information Services

(注意) ETOSWEB SERVER のアンインストール先のサーバを別の用途で Web サーバマシンとして利用している場合は、インターネットサービスを一時停止するため動作不可となります。

ETOSWEB SERVER アンインストールは、以下の手順で行ってください。

- (1) 次の CD-ROM をあらかじめ用意してください。
 - ETOSWEB SERVER V6.3
- (2) ETOSWEB SERVER V6.3 の CD-ROM 媒体を本体の CD-ROM ドライブに挿入します。
- (3) ETOSWEB SERVER のインストーラが起動されます。
※起動しない場合は「SETUP.EXE」を実行してください。



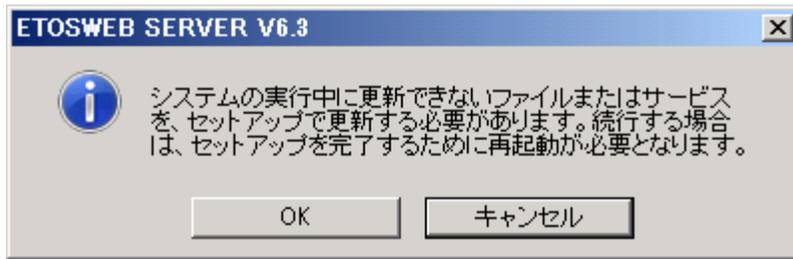
- (4) プログラムの保守画面で「削除」を選択してください。インストールモジュールがすべて削除されます。



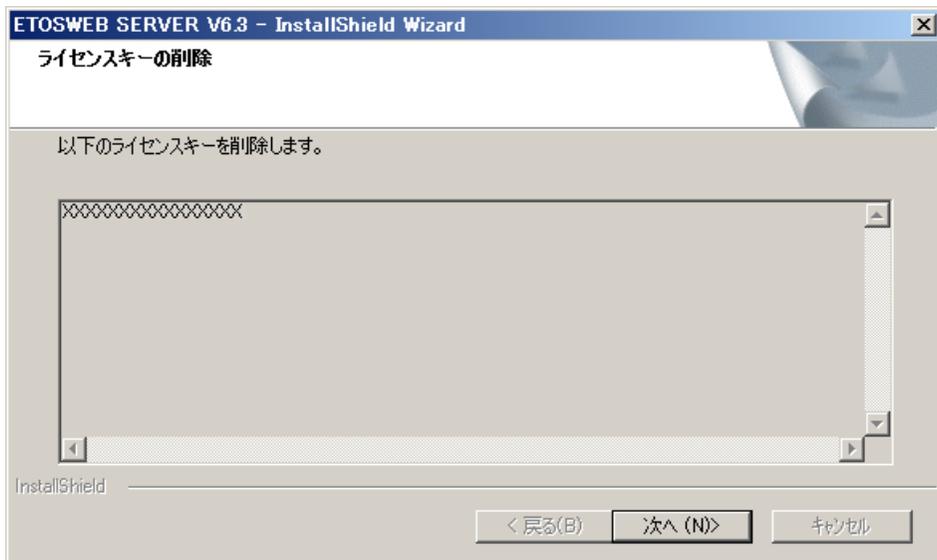
(5) SG ファイルも削除する場合には、[SG ファイルを削除する] をチェックします。



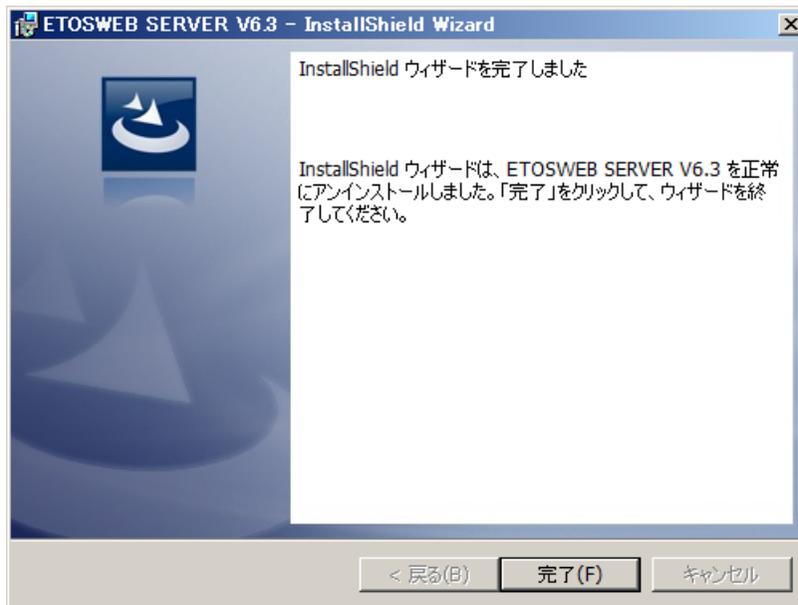
- (6) GW サーバサービスが起動中の場合は以下の画面が表示されることがあります。
 確認後、[OK] を押してください。



- (7) ライセンスが追加されている場合には、以下の画面が表示されます。
 確認後 [次へ] を押してください。



(8) 以下の画面が表示されたら削除は終了です。



(9) システム情報を有効にするために、システムを再起動してください。

3.6.2 クライアントモジュールのアンインストール

クライアントにダウンロードされたモジュールを削除します。

クライアントモジュールのアンインストール方法については、以下の2通りがあります。

- ・トップページの“ETOSWEB SERVER ActiveX 版クライアントモジュールを削除します。”をクリックする。
- ・コマンドラインから、システムフォルダにあるアンインストーラを起動する。
アンインストーラ (ETCLUNINS.EXE) を起動するには、起動引数 -B を指定します。

<例> 32bit OS 環境 C:¥Windows¥System32¥ETCLUNINS.EXE -B

64bit OS 環境 C:¥Windows¥SysWow64¥ETCLUNINS.EXE -B

以下にアンインストール手順について説明します。

- (1) トップページ(URL: “http://(Web サーバのホスト名または IP アドレス)/ETOSWEB/ETSI NDEX.HTM”) の“ETOSWEB SERVER ActiveX 版クライアントモジュールを削除します。”をクリック、またはコマンドラインから、アンインストーラを起動します。
- (2) SG ファイルを削除するかどうかを決めます。



(注意) [SG ファイルを削除する] をチェックすると ETOSWEB SERVER インストールディレクトリ配下の“PGC”ディレクトリ内の SG ファイルが削除されます。

- (3) アンインストール終了後、システム情報を有効にするために、システムを再起動してください。

第4章

環境設定

この章では、環境設定について説明します。

- 4. 1 環境設定の手順
- 4. 2 GW サーバの設定
- 4. 3 クライアントで接続状態を参照する
- 4. 4 HTML ファイルについて
- 4. 5 使用する Web ブラウザについて
- 4. 6 N5200 系コードの印刷で障害通知を行う場合

第4章 環境設定

4.1 環境設定の手順

ActiveX 版を動作させるまでの手順は以下の通りです。

PG ファイルを作成する

「第5章 PG パラメータ設定」、「第6章 UA パスプリンタ設定」を参照してください。



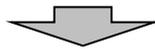
LU 定義ファイルを作成する

「第8章 LU 定義ファイルの作成」を参照してください。



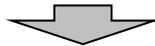
GW サーバの設定をする

「4. 2 GW サーバの設定」を参照してください。



Web ブラウザの設定を確認する

「4. 5 使用する Web ブラウザについて」を参照してください。



N5200 系コードの印刷で障害通知を行う場合の設定をする

「4. 6 N5200 系コードの印刷で障害通知を行う場合」を参照してください。

4.2 GW サーバの設定

4.2.1 GW サーバとは

GW サーバとは、アクセス制限の設定、接続クライアントの表示、サーバークライアント間で ActiveX 版のデータ(ホストデータ, ローカル画面データ等)通信を行うためのプログラムです。

アクセス制限とは、クライアントからのサーバへのアクセスを IP アドレスやコンピュータ名によって制限するための設定です。本設定により、ActiveX 版を使用できるクライアントを制限することができます。

4.2.2 GW サーバを起動する

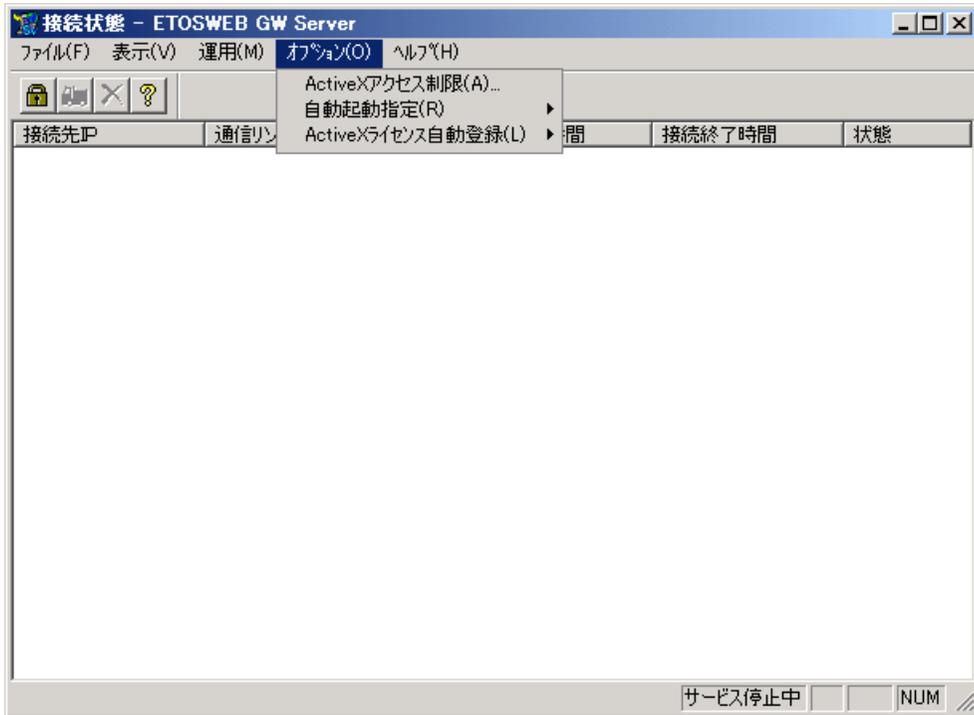
アクセス制限を設定するために、GW サーバを起動します。

- ① Windows の [スタート] メニューから [ETOSWEB SERVER] - [ETOSWEB GW Server] を選択します。
- ② GW サーバのウィンドウがオープンする。
GW サーバの画面が表示されます。

4.2.3 パラメータを設定する

パラメータの設定を行います。

パラメータは、[オプション] メニューのメニューコマンドを使用して設定します。



(1) アクセス制限を設定する

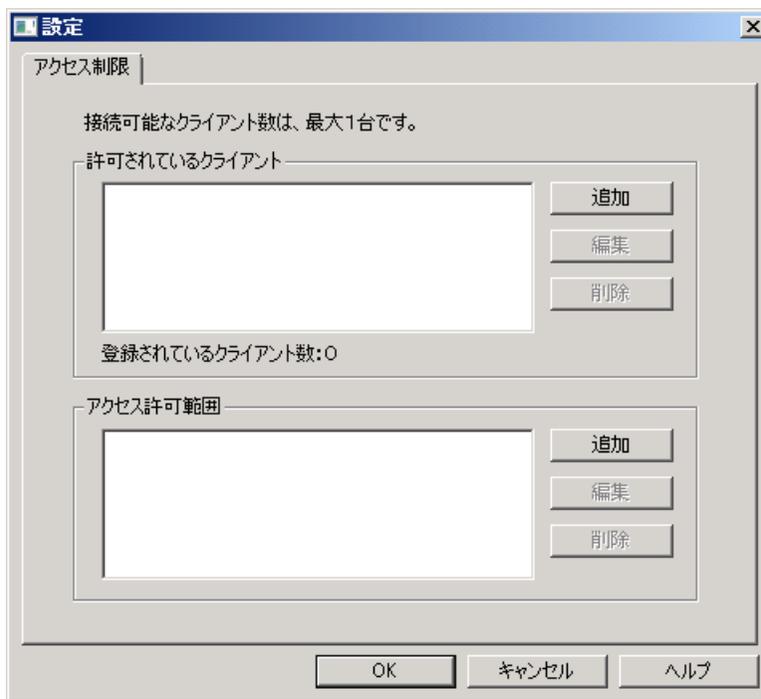
ActiveX 版クライアントからのアクセスを制限するために、アクセス制限情報を設定します。

[オプション] メニューの [ActiveX アクセス制限] を選択する。

[アクセス制限] のプロパティシートがオープンします。64bit 障害通知対応 pr ライセンスの登録有無により、表示する画面は以下のようになります。

<64bit 障害通知対応 pr ライセンス未登録の場合>

サーバに接続できるクライアントの最大台数とサーバにアクセス許可されているクライアントの IP アドレス (またはコンピュータ名) の一覧、および「ActiveX ライセンス自動登録」の設定が「自動登録する」となっている場合にライセンスの自動登録を許可する範囲 (IP アドレス) を表示します。

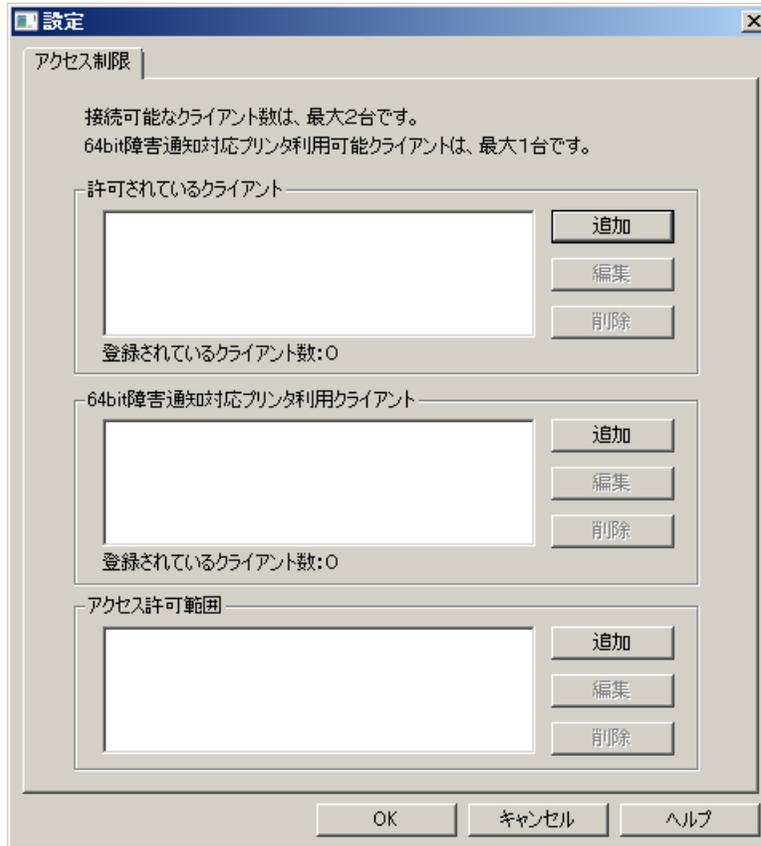


以下の条件でクライアントから GW サーバへの接続を行った場合、IP アドレス (または、コンピュータ名) は自動的に、「許可されているクライアント」へ登録されます。

- ・「ActiveX ライセンス自動登録」の設定が「自動登録する」
- ・「許可されているクライアント」に未設定
- ・クライアント接続最大数に達していない

<64bit 障害通知対応 pr ライセンス登録済みの場合>

サーバに接続できるクライアントの最大台数、64bit 障害通知対応プリンタを利用するクライアントの最大台数とサーバにアクセス許可されているクライアントの IP アドレス (またはコンピュータ名) の一覧、64bit 障害通知対応プリンタを利用するクライアントの IP アドレス (またはコンピュータ名) の一覧、および「ActiveX ライセンス自動登録」の設定が「自動登録する」となっている場合にライセンスの自動登録を許可する範囲 (IP アドレス) を表示します。



以下の条件で64bit 障害通知対応プリンタを利用するクライアントからGWサーバへの接続を行った場合、IPアドレス (または、コンピュータ名) は自動的に、「許可されているクライアント」、「64bit 障害通知対応プリンタ利用クライアント」の両方へ登録されます。

- ・「ActiveX ライセンス自動登録」の設定が「自動登録する」
- ・「64bit 障害通知対応プリンタ利用クライアント」に未設定
- ・64bit 障害通知対応プリンタ利用クライアント接続最大数に達していない

(注意)

- 1) アクセス許可範囲が未設定の場合、すべてのIPアドレスがアクセス許可となります。
- 2) 不正なアクセスから保護するために、アクセス許可範囲を設定しておくか、ライセンス数分のクライアントを予め登録しておくことをお勧めします。
- 3) クライアントの最大台数はライセンス数によって異なります。
- 4) 「許可されているクライアント」に登録してある場合は、アクセス許可範囲外であってもアクセス許可となります。

< IP 管理方式使用時 >

1) サーバにアクセス許可するクライアントを設定する。

① クライアントを追加する

「許可されているクライアント」の [追加] ボタンを選択する。

[IP アドレス追加] ダイアログボックスがオープンします。

アクセス許可する IP アドレスを設定してください。

以下の2つの設定方法があります。

- IP アドレス直接指定

IP アドレスを直接指定します。

例：111.111.111.111

- IP アドレス範囲指定

IP アドレスを範囲で指定します。

例：111.111.111.111～111.111.111.115

本設定を行なうためには、5 ライセンス必要になります。

② 設定済みのクライアントを編集する。

「許可されているクライアント」のコンピュータ IP アドレスを選択後、[編集] ボタンを選択する。

[IP アドレス編集] ダイアログボックスがオープンします。

IP アドレスを編集してください。

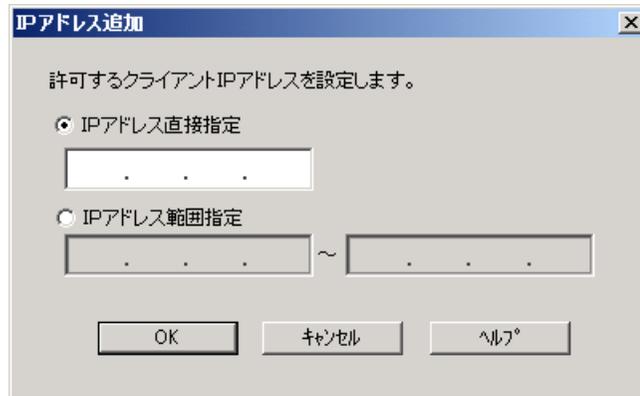
③ 設定済みのクライアントを削除する。

「許可されているクライアント」の IP アドレスを選択後、[削除] ボタンを選択する。
一覧からクライアントの IP アドレスが削除されます。

2) 64bit 障害通知プリンタを利用するクライアントを設定する (64bit 障害通知対応 pr ライセンス登録済みの場合)。

① クライアントを追加する

「64bit 障害通知対応プリンタ利用クライアント」の [追加] ボタンを選択する。
[IP アドレス追加] ダイアログボックスがオープンします。
アクセス許可する IP アドレスを設定してください。



IPアドレス追加

許可するクライアントIPアドレスを設定します。

IPアドレス直接指定

IPアドレス範囲指定

~

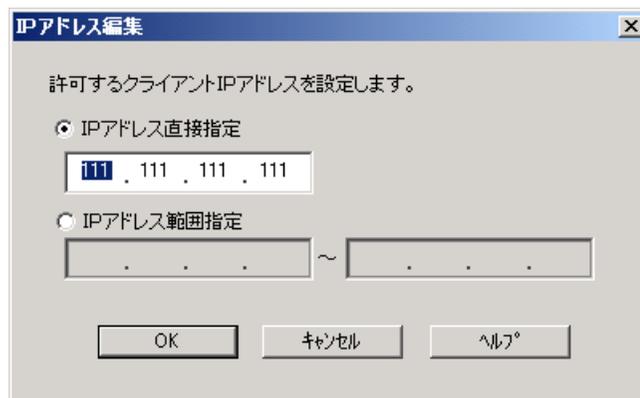
OK キャンセル ヘルプ

(注意) IP アドレスを範囲指定は使用できません。IP アドレスを直接指定してください。

② 設定済みのクライアントを編集する。

「64bit 障害通知対応プリンタ利用クライアント」のコンピュータ IP アドレスを選択後、[編集] ボタンを選択する。

[IP アドレス編集] ダイアログボックスがオープンします。
IP アドレスを編集してください。



IPアドレス編集

許可するクライアントIPアドレスを設定します。

IPアドレス直接指定

IPアドレス範囲指定

~

OK キャンセル ヘルプ

③ 設定済みのクライアントを削除する。

「64bit 障害通知対応プリンタ利用クライアント」の IP アドレスを選択後、[削除] ボタンを選択する。

一覧からクライアントの IP アドレスが削除されます。

(注意)

- ・ IP 情報は最大 3840 までです。
- ・ ライセンス数を越える設定はできません。
- ・ IP アドレスの設定は 10 進数で指定してください。
“111.111.111.011” と設定しても “111.111.111.11” として扱います。

<コンピュータ名管理方式使用時>

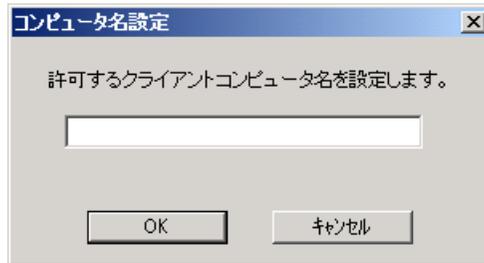
1) サーバにアクセス許可するクライアントを設定する。

① クライアントを追加する

「許可されているクライアント」の [追加] ボタンを選択する。

[コンピュータ名設定] ダイアログボックスがオープンします。

アクセス許可するコンピュータ名を入力してください。



② 設定済みのクライアントを編集する。

「許可されているクライアント」のコンピュータ名を選択後、[編集] ボタンを選択する。

[コンピュータ名設定] ダイアログボックスがオープンします。

アクセス許可するコンピュータ名に変更してください。

③ 設定済みのクライアントを削除する。

「許可されているクライアント」のコンピュータ名を選択後、[削除] ボタンを選択する。

一覧からクライアントのコンピュータ名が削除されます。

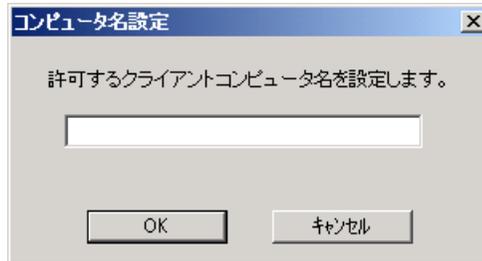
2) 64bit 障害通知プリンタを利用するクライアントを設定する (64bit 障害通知対応 pr ライセンス登録済みの場合のみ)。

① クライアントを追加する

「64bit 障害通知対応プリンタ利用クライアント」の [追加] ボタンを選択する。

[コンピュータ名設定] ダイアログボックスがオープンします。

64bit 障害通知対応プリンタ利用クライアントのコンピュータ名を入力してください。



② 設定済みのクライアントを編集する。

「64bit 障害通知対応プリンタ利用クライアント」のコンピュータ名を選択後、[編集] ボタンを選択する。

[コンピュータ名設定] ダイアログボックスがオープンします。

64bit 障害通知対応プリンタを利用するコンピュータ名に変更してください。

③ 設定済みのクライアントを削除する。

「64bit 障害通知対応プリンタ利用クライアント」のコンピュータ名を選択後、[削除] ボタンを選択する。

一覧からクライアントのコンピュータ名が削除されます。

(注意)

- ・クライアント情報は最大 3840 までです。
- ・ライセンス数を越える設定はできません。
- ・「64bit 障害通知対応プリンタ利用クライアント」にクライアントを追加した場合、自動的に「許可されているクライアント」に追加されます。

<アクセス許可範囲>

「ActiveX ライセンス自動登録」の設定が「自動登録する」となっている場合に、ライセンスの自動登録を許可する範囲 (IP アドレス) を設定します。

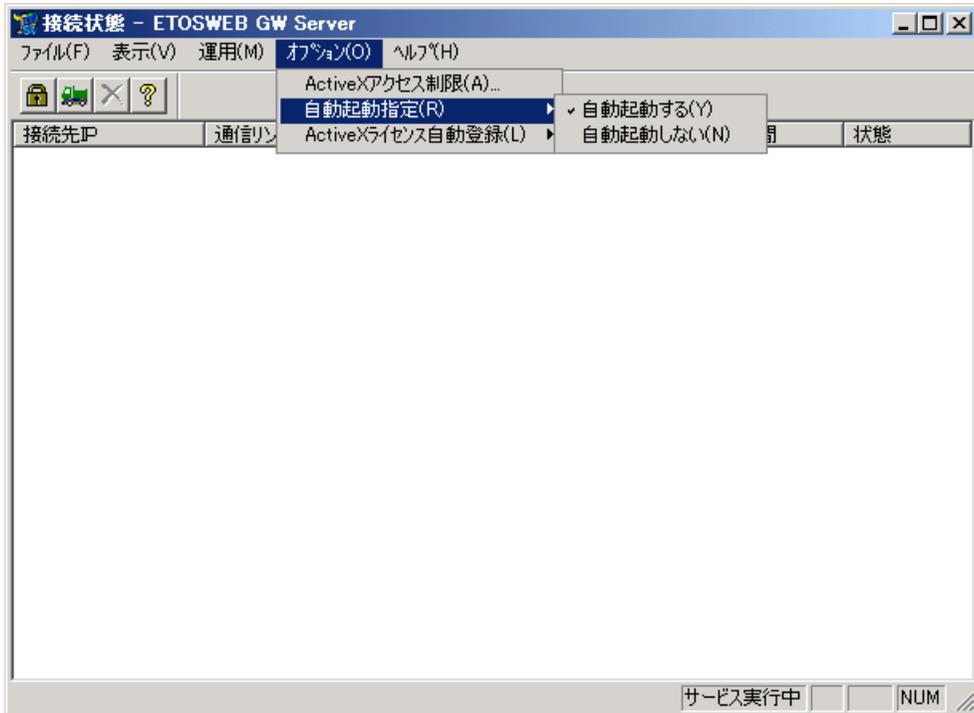
許可範囲を設定しない場合、すべての IP アドレスについて自動登録が可能となります。

(2) 自動起動指定を設定する

GW サービスの起動属性を指定します。

なお、現在の GW サービスの状態は、ステータスバーに表示されます。

- ① [オプション] メニューの [自動起動指定] を選択する。
- ② システム起動時に GW サービスを起動する場合は [自動起動する] を選択する。
[自動起動する] にチェックマークが付加され、接続状態画面に戻ります。
- ③ 手で GW サービスを起動する場合は、[自動起動しない] を選択する。
[自動起動しない] にチェックマークが付加され、接続状態画面に戻ります。



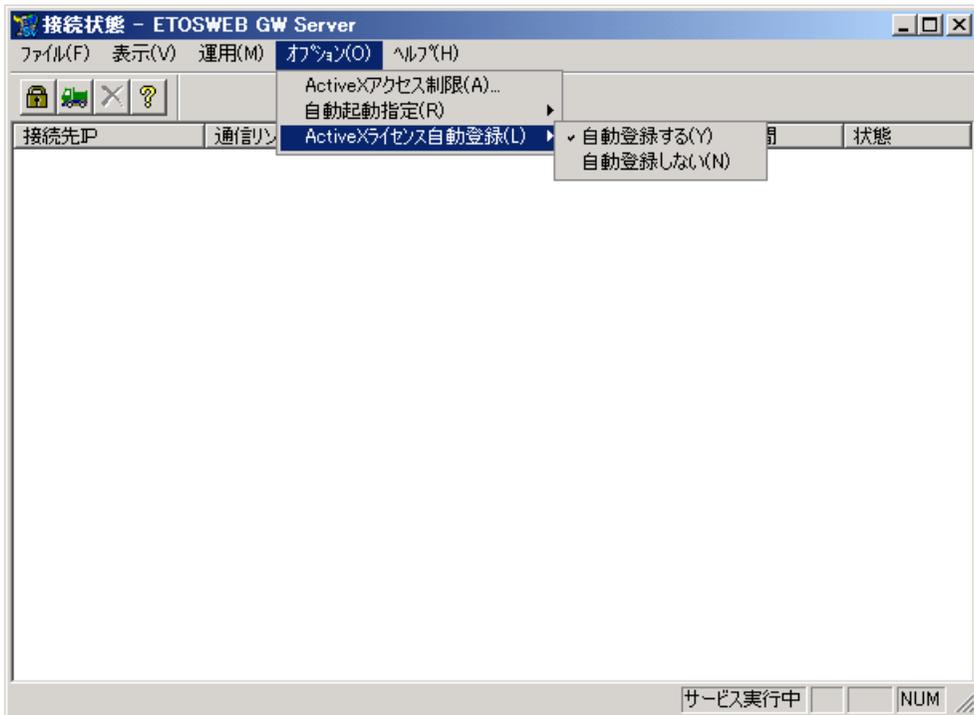
自動起動指定を [自動起動しない] に設定した場合、GW サービスを実行するために手動で GW サービスを実行する必要があります。

[運用] メニューの [GW サービスの実行] を選択し、GW サービスを実行して下さい。

(注意) GW サービスが実行されていない場合、ActiveX 版を使用することができません。

(3) ActiveX 版クライアントライセンスの登録方法を設定する
ActiveX 版のクライアントライセンスの登録方法を指定します。

- ① [オプション] メニューの [ActiveX ライセンス自動登録] を選択します。
- ② クライアントにて初回 ActiveX 版起動時に、クライアントの IP アドレス(またはコンピュータ名)を [アクセス制限] 一覧に自動登録する場合は、[自動登録する] を選択してください。
[自動登録する] にチェックマークが付加されます。
- ③ 手で [アクセス制限] 一覧に使用するクライアントコンピュータの IP アドレス(またはコンピュータ名)を登録する場合は、[自動登録しない] を選択してください。
[自動登録しない] にチェックマークが付加されます。



4.3 クライアントで接続状態を参照する

ActiveX 版の接続状態をクライアントで参照することができます。

(注意) クライアント GW サーバビューアはサーバに接続中の全クライアント情報を参照し切断することができるため、本機能はシステム管理者だけが使用するようにしてください。また、本機能は必要時にのみ起動するようにしてください。

- ① ActiveX 版の接続状態を参照したいクライアントの Web ブラウザ (Internet Explorer) より、クライアント GW サーバビューア^(注1)の URL 「[http://\(Webサーバのホスト名または IP アドレス\)/ETOSWEB/CLGWVIEW.ASP](http://(Webサーバのホスト名またはIPアドレス)/ETOSWEB/CLGWVIEW.ASP)」に接続します。
- ② 以下のパスワード^(注2)入力の画面が表示されます。



(注1) クライアント GW サーバビューアとは、クライアントで ActiveX 版の接続状態を参照するためのモジュールです。

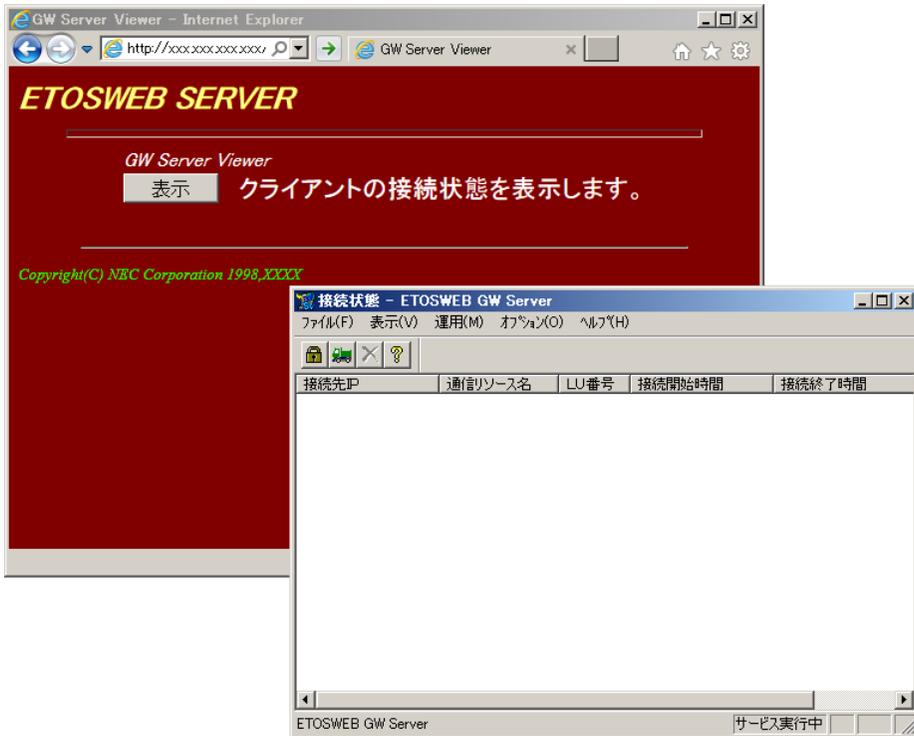
(注2) パスワードの設定

[http://\(Webサーバのホスト名または IP アドレス\)/ETOSWEB/PASSWDIN.ASP](http://(Webサーバのホスト名またはIPアドレス)/ETOSWEB/PASSWDIN.ASP)
上記の URL に接続し、Web ブラウザ上で設定を行います。

- ③ パスワードを入力し、[送信] ボタンを押すと、クライアント GW サーバビューアを起動するためのページが表示されます。



- ④ [表示] ボタンを押すとクライアント GW サーバビューアが起動され、接続状態が表示されます。



4.4 HTML ファイルについて

ActiveX 版で使用する HTML ファイルおよび ASP ファイルは以下のものがあります。

- ・ ETOSWEB SERVER インストールディレクトリ内
 - ① ETSINDEX. HTM
 - ② ETSIDXNG. HTM
 - ③ INSPRIPC. HTM
 - ④ CLGWVIEW. ASP
- ・ ETOSWEB SERVER インストールディレクトリ配下の PGS ディレクトリ内
 - ⑤ INSPRMDL. ASP
 - ⑥ (PG ファイル名). HTM

① ETSINDEX. HTM

ActiveX 版のトップページです。

作成した PG ファイルの一覧が表示され、このページから ActiveX 版を起動します。

このページの記述は下記の個所を除いて変更しても構いません。

下記の個所を変更すると ActiveX 版が起動できなくなる場合がありますので変更する際は注意して下さい。

【変更不可の記述】

- ・ <SCRIPT ~> から </SCRIPT> までの記述
 - ・ <OBJECT ~> から </OBJECT> までの記述
- ただし、<OBJECT>タグの“WIDTH”の値と“HEIGHT”の値は変更可能。

<OBJECT>タグの“WIDTH”の値と“HEIGHT”の値を変えることによって PG ファイルの一覧を表示している領域の大きさを変えることができます。

なお、このファイルはアンインストールの際には“SG ファイルを削除する”の設定に関係なく削除されますので、内容を変更された時にはファイル名を変更して使用するか、バックアップを取っておくことをお勧めします。

② ETSIDXNG. HTM

ActiveX 版を実行しようとしたマシンに、本製品以外の ETOSJX がインストールされている等で ActiveX 版が実行できない場合に表示されます。

このページが表示された場合は、そのマシンの環境を確認し、本製品以外の ETOSJX がインストールされている場合は、削除してから再度実行して下さい。

なお、このページの記述は変更しないで下さい。

③ **INSRIPC. HTM**

クライアントで N5200 系障害通知を利用するプリンタ出力を行う際に、ActiveX 版が使用するプリンタドライバをダウンロードするためのコントロールが記述されているページです。

このページの記述は変更しないで下さい。

内容を変更するとプリンタドライバのダウンロードができなくなる場合があります。

④ **CLGWVIEW. ASP**

クライアントで Active 版の接続状態を参照するためのコントロールが記述されているページです。

このページの記述は変更しないで下さい。

⑤ **INSRMDL. ASP**

クライアントでプリンタ出力を行う際に、ActiveX 版が使用するプリントモジュールをダウンロードするためのコントロールが記述されているページです。

[DCS プリンタ起動指定] を [起動する] と設定した PG ファイルを使用して ActiveX 版を起動した時、このページを表示し、プリントモジュールをダウンロードします。その後自動で ActiveX 版のコントロールが記述されたページを開きます。

このページの記述は変更しないで下さい。

内容を変更するとプリントモジュールのダウンロードができなくなる場合があります。

⑥ **(PG ファイル名). HTM**

ETOSJX-PG で PG ファイルを作成した時に PG ファイル毎に作成されるファイルです。ActiveX 版を起動する時に使用するページで、ETOSWEB SERVER ActiveX 版のコントロールが記述されています。

このページを直接開くと、クライアントの環境をチェックしないで ActiveX 版を起動します。その為、クライアントに本製品以外の ETOSJX が存在するとその環境が不正になる恐れがあります。

このページの記述は変更しないで下さい。内容を変更すると ActiveX 版が起動できなくなる場合があります。

4.5 使用する Web ブラウザについて

ActiveX 版で使用可能な Web ブラウザは、次の通りです。

Microsoft Internet Explorer 11.0

Internet Explorer を使用する場合は以下の設定を行ってください。

[保存しているページの新しいバージョンがあるかどうかの確認] の設定 (注)

サーバで新しい PG ファイルを作成した (PG ファイル一覧 (PG リスト) が更新された) 場合に、クライアントの PG ファイル一覧 (PG リスト) が更新されるタイミングは下記の様になります。

- 「Web サイトを表示するたびに確認する」の時 (推奨)
ETSINDEX. HTM ファイルを表示している Web ブラウザで「最新の情報に更新」を実行することにより PG ファイル一覧 (PG リスト) が更新されます。
- 「Internet Explorer を開始するたびに確認する」の時
ETSINDEX. HTM ファイルを表示している Web ブラウザの再起動後に PG ファイル一覧 (PG リスト) が更新されます。
- 「自動的に確認する」の時
「Internet Explorer を開始するたびに確認する」とほぼ同じ動作となりますが、クライアントでブラウザが起動中に ETOSWEB SERVER ActiveX 版の設定が変更された場合、新しい設定情報がクライアントに反映されません。
- 「確認しない」の時
既にクライアントにダウンロードされている PG ファイル一覧 (PG リスト) は、更新されません。

(注) [ツール] メニューの [インターネット オプション] - [全般] - [閲覧の履歴] - [設定] - [保存しているページの新しいバージョンがあるかどうかの確認]

4.6 N5200系コードの印刷で障害通知を行う場合

4.6.1 ドライバをダウンロードする

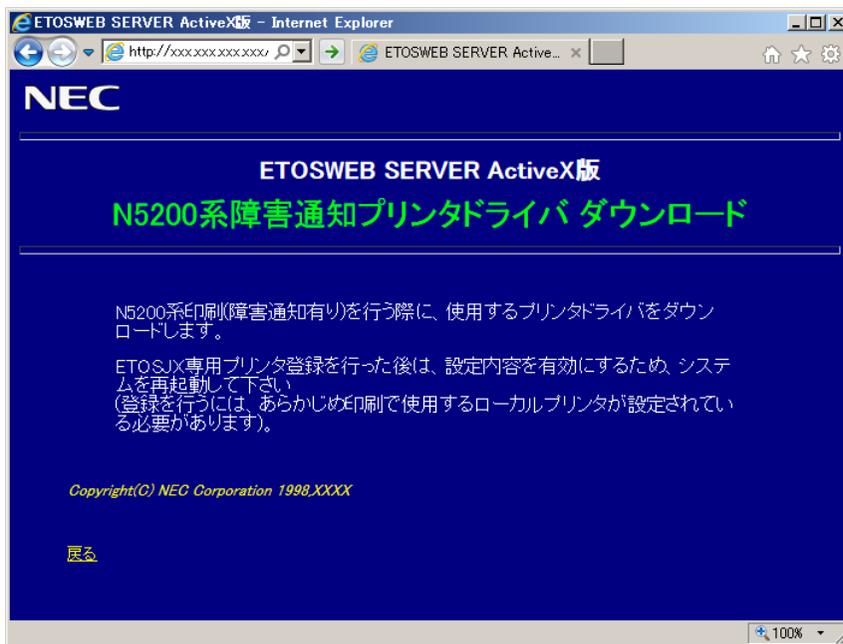
ActiveX版にてN5200系コードのプリンタ障害通知機能を使用する場合は、あらかじめプリンタドライバをダウンロードしておく必要があります。

プリンタドライバのダウンロードは、クライアント環境が32bit OSの場合のみ可能です。

Windows 8.1(x64)、Windows 10(x64)でプリンタ障害通知機能を使用する場合は、製品同梱のCD-ROM媒体から別途インストールする必要があります。また、「64bit 障害通知対応 pr ライセンス」が必要となります。

※Windows 7(x64)では、プリンタ障害通知機能は未サポートです。

プリンタドライバをダウンロードするには、トップページ(URL: “http://(Webサーバのホスト名またはIPアドレス)/ETOSWEB/ETSINDEX.HTM”)の“N5200系印刷で障害通知機能をご使用になる場合のドライバ(32bit用)をダウンロードします。”を選んで、“N5200系障害通知プリンタドライバダウンロード”のページを表示します。



ページが表示された後、ドライバがダウンロードされインストールされます。

ETOSJXでN5200系コードのプリンタ障害通知機能を使用する場合、印刷を行うプリンタ（パラレルポートに接続されたプリンタ：本章ではローカルプリンタと呼びます）に対し、ETOSJX専用プリンタを登録（紐づけ）する設定が必要です。

登録作業は次項「4.6.2 ETOSJX専用プリンタ登録を起動する」以降で行います。

4.6.2 ETOSJX 専用プリンタ登録を起動する

前項「**4.6.1 ドライバをダウンロードする**」でドライバのダウンロードが完了すると、自動的に ETOSJX 専用プリンタ登録が起動されます。または、システムドライブの” ¥Program Files¥ETOSWEB¥” にある” REGETSPRN.EXE” を実行してください。起動後、登録画面が表示されます。

起動時にローカルプリンタが1つも登録されていない場合、登録を中止します。プリンタ登録後に再度、ETOSJX 専用プリンタ登録を起動してください。

4.6.3 専用プリンタを登録する

出力先プリンタに対応した専用プリンタを登録します。

ETOSJX専用プリンタ登録

N5200系印刷の障害通知機能を利用するための専用プリンタを登録します。
出力先のローカルプリンタを選択してください:

LPT1: NEC MultiWriter8450N NPDL

LPT2: ポート未使用

LPT3: ポート未使用

登録 キャンセル

- ① N5200 系コード印刷での出力先プリンタを選択する。

ETOSJX専用プリンタ登録

N5200系印刷の障害通知機能を利用するための専用プリンタを登録します。
出力先のローカルプリンタを選択してください:

LPT1: NEC MultiWriter8450N NPDL

LPT2: NEC MultiImpact 201HX
NEC MultiImpact 700JX3

LPT3: 登録しない

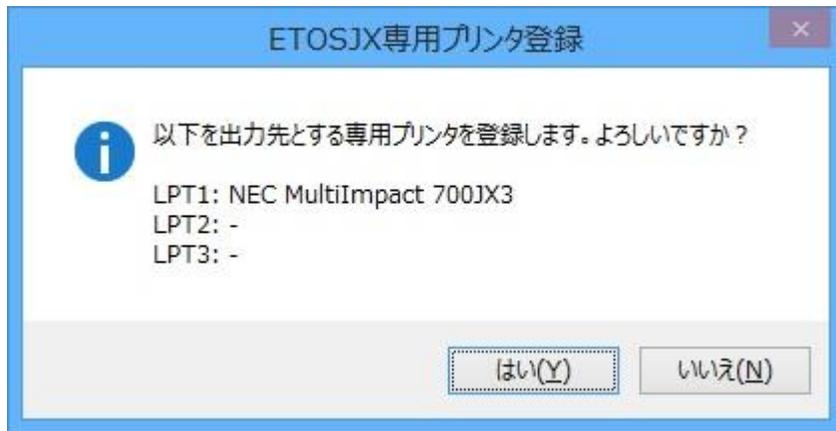
登録 キャンセル

プルダウンリストに OS に登録されているローカルプリンタ名の一覧が表示されますので、該当プリンタを選択してください。

N5200 系コード印刷の出力先として使用しないポートでは「登録しない」を選択してください。

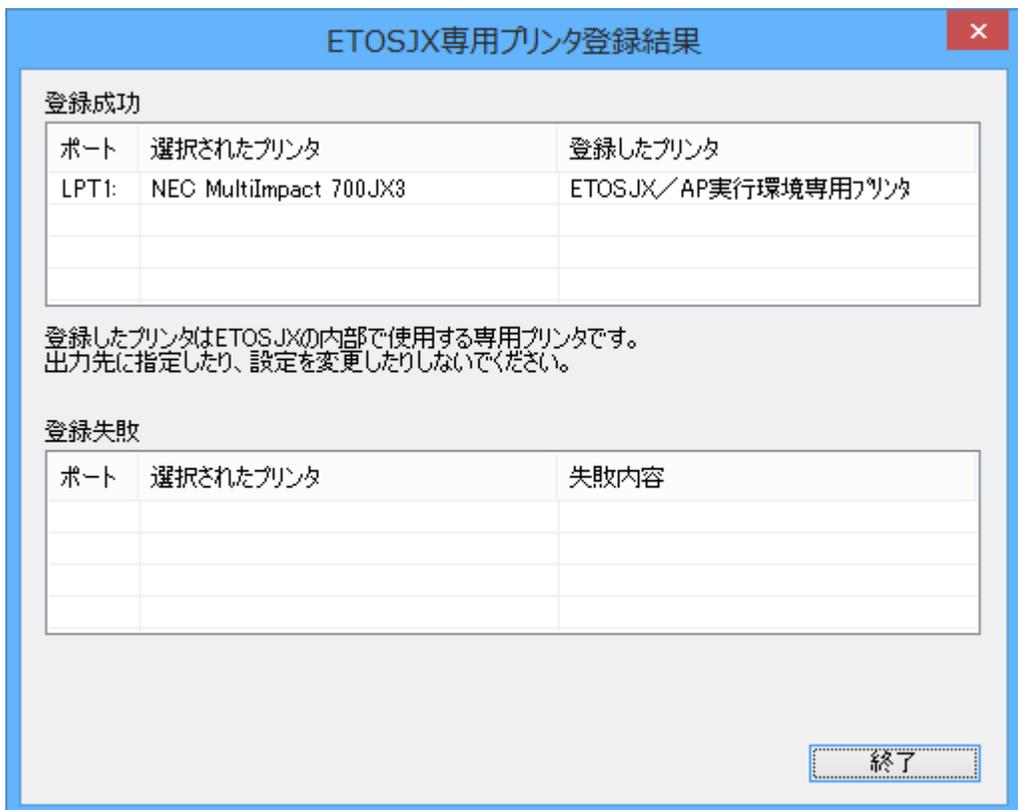
- ② 専用プリンタを登録する。

[登録] ボタンを押すと、確認画面を表示します。



選択したプリンタ名が表示されていることを確認し、[はい] ボタンを押します。
[いいえ] ボタンを押すと、登録画面に戻ります。

- ③ 登録結果を確認する。



専用プリンタの登録に成功すると、登録成功一覧に出力先として選択されたポートとプリンタ名、登録した専用プリンタ名が表示されます。

[終了] ボタンを押すと、ETOSJX 専用プリンタ登録を終了します。

<登録に失敗した場合>



登録失敗一覧に出力先として選択されたポートとプリンタ名、登録に失敗した理由または内容が表示されます。登録画面で選択したプリンタについて、以下の点を確認してください。

- ・ インストールした NEC 製のプリンタドライバを使用しているか
(OS 標準添付のドライバは選択しないでください)
- ・ 本ツール起動後に、OS 側でプリンタの状態を変更していないか

[再登録] ボタンを押すと、登録画面に戻ります。出力先に別のプリンタを選択する場合、再度、登録を実行してください。OS 側でプリンタの状態を変更した場合、[終了] ボタンを押して一度 ETOSJX 専用プリンタ登録を終了し、改めて登録を実行してください。

4.6.4 専用プリンタを登録せずに終了する

ETOSJX専用プリンタ登録

N5200系印刷の障害通知機能を利用するための専用プリンタを登録します。

出力先のローカルプリンタを選択してください:

LPT1: 登録しない

LPT2: ポート未使用

LPT3: ポート未使用

登録 キャンセル

「キャンセル」ボタンを押すと、終了確認メッセージが表示されます。

終了確認メッセージで「はい」ボタンを押すと、ETOSJX 専用プリンタ登録を終了します。「いいえ」ボタンを押すと、登録画面に戻ります。

4.6.5 出力先を変更する

ETOSJX専用プリンタ登録

N5200系印刷の障害通知機能を利用するための専用プリンタを登録します。

出力先のローカルプリンタを選択してください:

LPT1: 登録済み(変更しない)

LPT2: NEC MultiWriter8450N NPDL

LPT3: NEC MultiImpact 201HX

登録 キャンセル

すでに専用プリンタが登録されている場合、「登録済み(変更しない)」と表示されます。以前の登録時から N5200 系コード印刷の出力先プリンタを変更した場合、新たに出力先とするプリンタ名を選択して登録し直してください。

(注意) 以前のバージョンで登録した専用プリンタが残っている場合も「登録済み(変更しない)」と表示されます。出力先に変更がない場合、そのまま使用しても問題はありませんが、念のため登録し直すことをお勧めします。

(参考) 意図しないポートが「登録済み(変更しない)」となっても、問題はありません。ただし、OS に未使用のプリンタが残ることになりますので、削除したい場合は下記のプリンタを OS から削除してください。

LPT1:用専用プリンタ：「ETOSJX/AP 実行環境専用プリンタ」

LPT2:用専用プリンタ：「ETOSJX/AP 実行環境専用プリンタ 1」

LPT3:用専用プリンタ：「ETOSJX/AP 実行環境専用プリンタ 2」

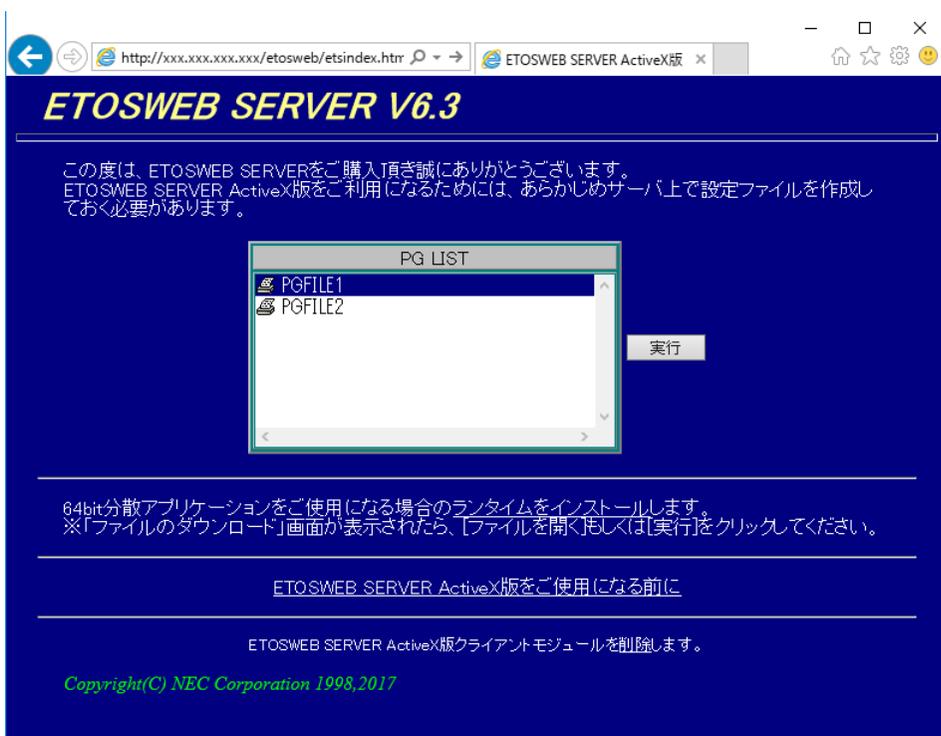
4.7 64bit 分散アプリケーションを使用する場合

ActiveX 版では、64bit OS 環境上で動作する分散アプリケーションとして、32bit 版、64bit ネイティブ版の両方に対応しています。

ただし、64bit ネイティブ版の分散アプリケーションを動作させるには、別途ランタイムのインストールが必要です。

ランタイムは、以下の手順に従ってインストールしてください。

- (1) トップページ(URL: “http://(Web サーバのホスト名または IP アドレス)/ETOSWEB/ETSINDEX.HTM”) の “64bit 分散アプリケーションをご使用になる場合のランタイムをインストールします。” を選んでください。



ランタイムインストーラがダウンロードされます。

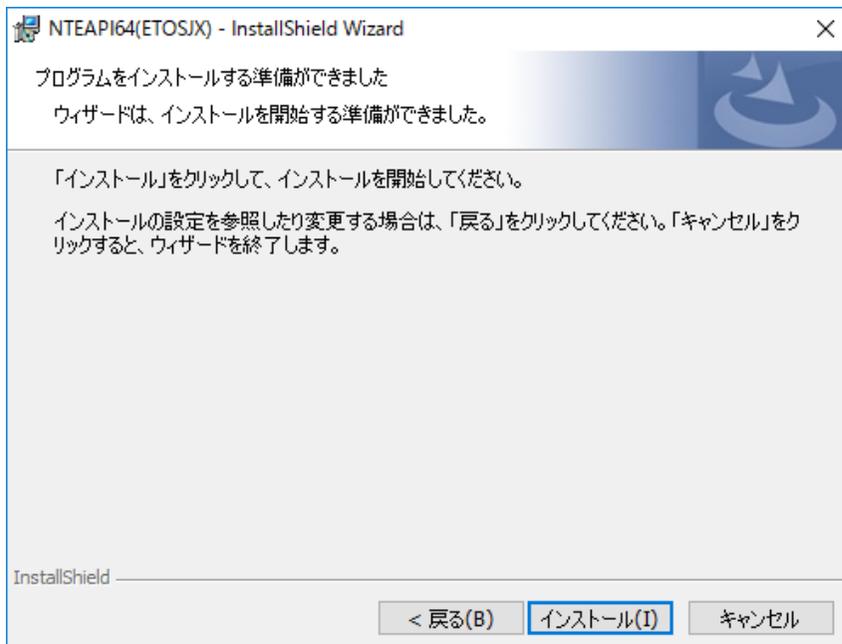
以下の画面が表示された場合は、[実行(R)] を選択してインストールを実行してください。



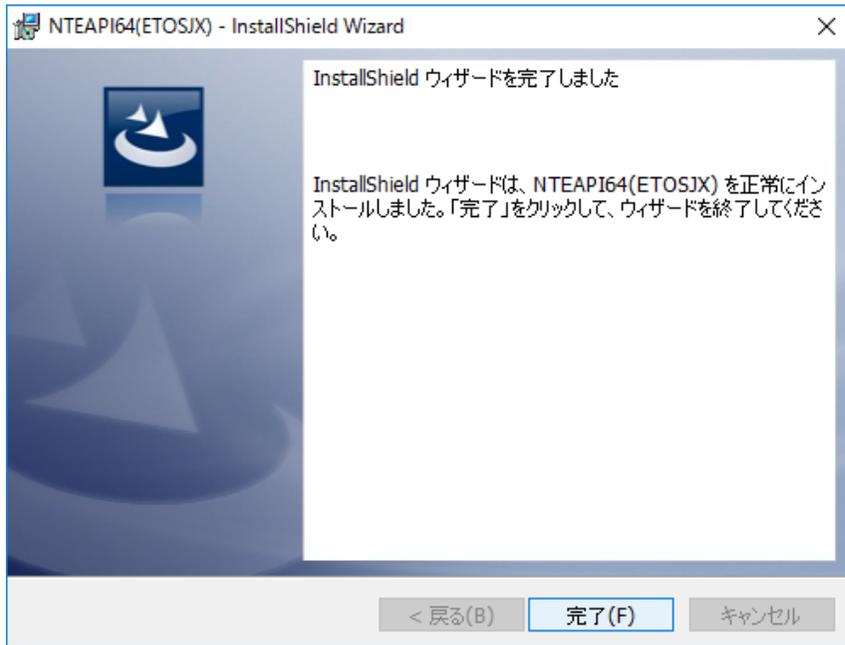
(2) NTEAPI64(ETOSJX)のインストーラが起動します。[次へ]を選択してください。



(3) インストール準備完了画面が表示されます。[インストール]を選択すると、インストールが開始します。



- (4) 次の画面が表示されたら、インストールは完了です。[完了]を選択すると、インストーラを終了します。



第5章

PG パラメータ設定

この章では、ETOSWEB SERVER の使用形態を設定する ETOSJX-PG の操作方法について説明します。

5. 1 パラメータファイルとは
5. 2 ETOSJX-PG とは
5. 3 パラメータファイルの作成手順
5. 4 ETOSJX-PG を起動する
5. 5 基本パラメータを入力する
5. 6 拡張パラメータを入力する
5. 7 リソースパラメータを入力する
5. 8 全パラメータに既定値をセットする
5. 9 ヘルプを使う
5. 10 作成したファイルを保存する
5. 11 作成したファイルを開く
5. 12 パラメータファイルを印刷する
5. 13 ファイル作成を終了する

第5章 PG パラメータ設定

5.1 パラメータファイルとは

パラメータファイルとは、ETOSWEB SERVER が動作するために必要なシステム情報を格納しておくためのファイルです。パラメータファイルを作成するには、ETOSJX-PG を使用します。

5.2 ETOSJX-PG とは

ETOSJX-PG とは、パラメータファイルの作成、更新、印刷を行うためのユーティリティプログラムです。

5.3 パラメータファイルの作成手順

パラメータファイルを、次の手順で作成します。

- ① ETOSJX-PG を起動する。
- ② 基本パラメータを入力する。
ETOSWEB SERVER システムを動作させるために最低限必要なパラメータです。
- ③ 拡張パラメータを入力する。
拡張パラメータは、端末オペレータの操作性を向上させるために利用します。
- ④ リソースパラメータを入力する。
ローカル画面ファイル、UA パスファイル転送、コード変換テーブルファイル等、通信リソース(ホスト)ごとに一意な情報を設定します。
- ⑤ 作成したパラメータファイルを保存する。
- ⑥ ETOSJX-PG を終了する。

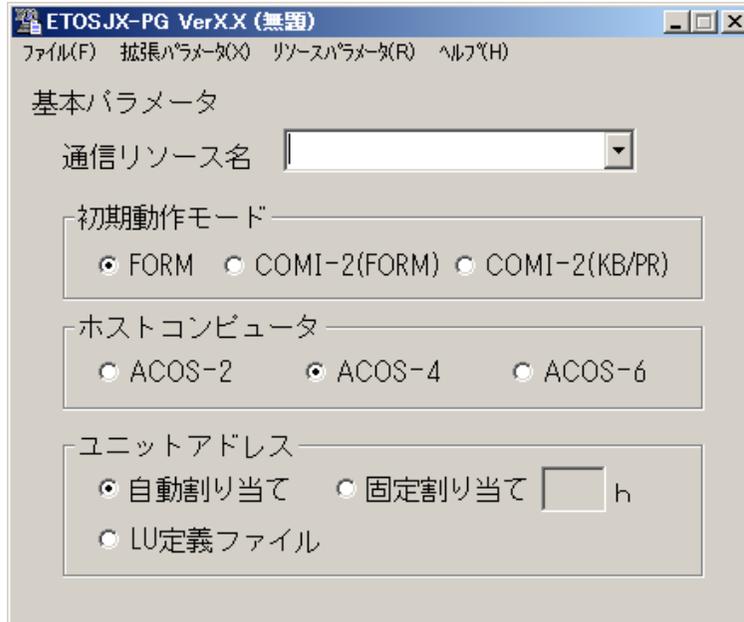
(注意)

- 1) システムのプリンタ情報を変更(ETOSWEB SERVER で使用するプリンタドライバの削除、プリンタ名やフォーム格納ディレクトリの変更など)した場合は、パラメータファイルの関連する項目の設定を行う必要があります。
- 2) 他のマシンからパラメータファイルをコピーして使用する場合は、コピー元のマシンと異なる設定項目(プリンタ名やフォーム格納ディレクトリ)については再度設定を行う必要があります。

5.4 ETOSJX-PG を起動する

パラメータファイルを作成するために、ETOSJX-PG を起動します。

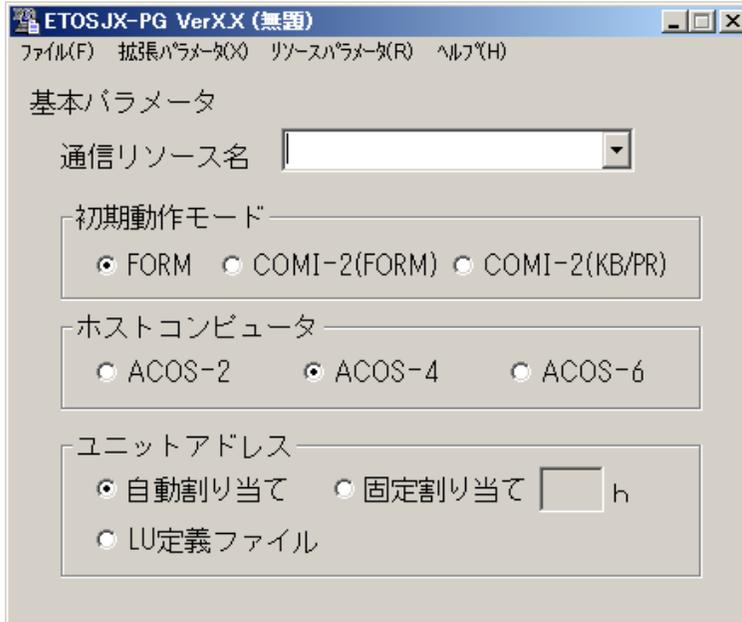
- ① [スタート] メニューから [ETOSWEB SERVER] - [ETOSJX-PG] を選択する。
- ② ETOSJX-PG のウィンドウがオープンする。
ETOSJX-PG の画面が表示されます(本画面を基本パラメータ入力画面と呼びます)。



5.5 基本パラメータを入力する

基本パラメータの設定を行います。

- ① 基本パラメータを入力する。
各パラメータの説明に従い、基本パラメータを入力してください。



The screenshot shows a dialog box titled "ETOSJX-PG VerX.X (無題)". The menu bar includes "ファイル(F)", "拡張パラメータ(X)", "リソースパラメータ(R)", and "ヘルプ(H)". The main content is titled "基本パラメータ" and contains the following settings:

- 通信リソース名: A dropdown menu.
- 初期動作モード: Radio buttons for FORM, COMI-2(FORM), and COMI-2(KB/PR).
- ホストコンピュータ: Radio buttons for ACOS-2, ACOS-4, and ACOS-6.
- ユニットアドレス: Radio buttons for 自動割り当て and 固定割り当て (with a text input field followed by "h"), and LU定義ファイル.

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
通信 リソース名	なし	同一端末上でユニークに指定するホストの名前です。必ずネットワークマネージャで定義した通信リソース名を指定してください。 通信リソース名は半角 16 文字(全角 8 文字)まで入力できますが、スペースを含めることはできません。(注1)	なし
初期動作 モード	<ul style="list-style-type: none"> ・FORM ・COMI-2 (FORM) ・COMI-2 (KB/PR) 	起動時の動作モードを指定します。	FORM
ホスト コンピュ ータ	<ul style="list-style-type: none"> ・ACOS-2 ・ACOS-4 ・ACOS-6 	ホストコンピュータを指定します。	ACOS-4
ユニット アドレス (注2)	<ul style="list-style-type: none"> ・自動割り当て ・固定割り当て ・LU 定義ファイル 	画面 LU のアドレス設定方法を指定します。 自動割り当て：ネットワークマネージャの LU 定義により割り当てられた値で動作します。 固定割り当て：このテキストボックスで指定した値で動作します。有効範囲は、00～FF です。 LU 定義ファイル：LU は LU 定義ファイルで定義した値で動作します。LU 定義ファイルについては「導入ガイド 第8章」を参照してください。	自動 割り当て

(注1) パラメータファイルを保存する際、ETOSJX-PG はパラメータファイルと同じディレクトリに基本パラメータ情報を格納するリソースファイルを作成します。

リソースファイルは、通信リソース名に拡張子” ETS” を付けてファイル名とします。

(例)通信リソース名 リソースファイル名

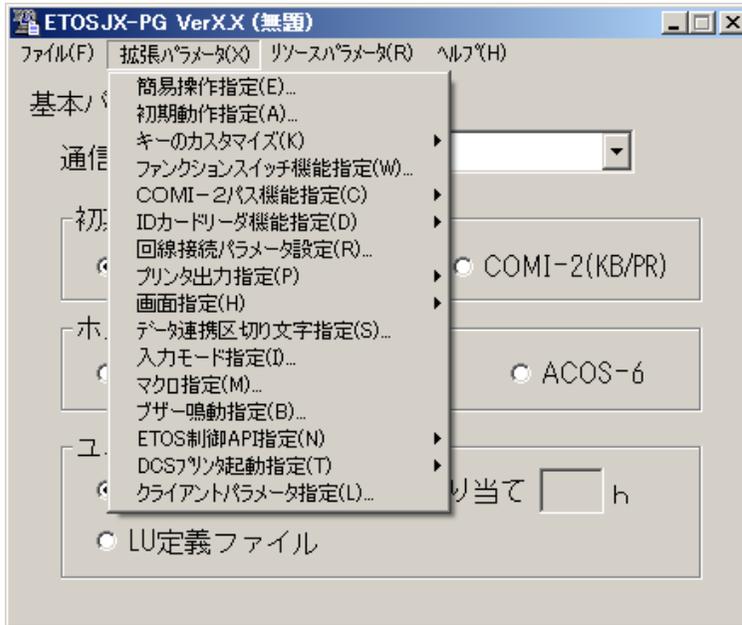
RESOURCE-1 RESOURCE-1. ETS

(注2) プリンタ LU については、本指定に関わらず LU 定義ファイルでの定義だけが有効となります。

5.6 拡張パラメータを入力する

拡張パラメータの設定を行います。

拡張パラメータは、[拡張パラメータ] メニューのメニューコマンドを使って設定します。



5.6.1 簡易操作機能の指定をする

簡易操作機能の指定を行います。各パラメータの説明に従い、パラメータを入力して下さい。

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
コマンドファイル名	なし	コマンドファイル名を 253 文字以内で指定します。拡張子は指定できません。指定するファイルが、カレントディレクトリにない場合には、ドライブやディレクトリも指定します。実際のコマンドファイル名は、本項目で指定したコマンドファイル名にコマンド識別子を付けた名となります。 (注)	E52CMD

- (注) 例えば、コマンドファイル名が“C:¥EOPTXT¥E52CMD”で、識別子が“01”なら、実際に使用するファイル名は、“C:¥EOPTXT¥E52CMD01”となります。
識別子の設定については、「**5. 6. 3 キーをカスタマイズする**」を参照してください。

5.6.2 初期動作を指定する

ETOSWEB SERVER クライアント起動時の初期動作を指定します。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力して下さい。

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
初期ローカル画面	なし	起動時にローカル画面を表示する場合、表示するローカル画面番号を数字3桁で指定します。ローカル画面番号の有効範囲は、拡張ローカル画面を使用する場合は000～999、使用しない場合は000～255です。	なし
初期簡易操作	なし	起動時に簡易操作を実行する場合、実行するコマンドファイルの識別子(英数およびカタカナ)を指定します。識別子は最大2文字まで指定できます。	なし
初期マクロ	なし	起動時にマクロを実行する場合、実行するマクロ番号を指定します。マクロ番号の有効範囲は、01～25です。	なし

(注意)

- 1) 各項目とも、何も指定しない場合には実行されません。
- 2) 複数の項目を指定した場合、起動時に実行される順番は以下の通りです。
初期ローカル画面 → 初期簡易操作 → 初期マクロ

5.6.3 キーをカスタマイズする

物理キーにファンクションキーを自由に割り当てます。また、PF1～PF24のファンクションキーに、ID送信機能、ローカル画面表示機能、簡易操作機能、マクロ機能を割り当てます。

(1) キーボードを選択する

使用するキーボードの種類を指定します。

① [拡張パラメータ] メニューの [キーのカスタマイズ] メニューコマンドを選ぶ。

② 98 配列 USB キーボードまたは 98 標準キーボードを使用する場合は [98 キーボード] を選択する。

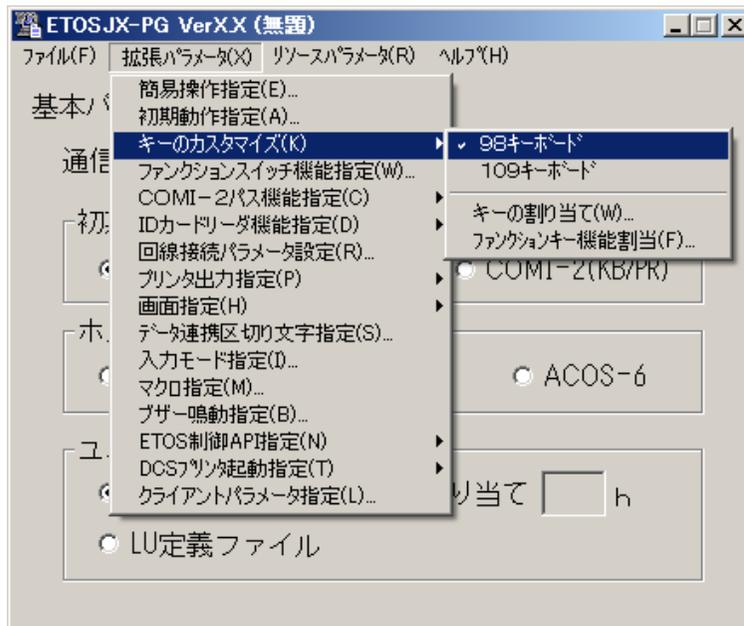
[98 キーボード] メニューにチェックマークが付加され、基本パラメータ入力画面に戻ります。

(注意) 動作するクライアントのキーボードの種類に合わせて設定されます。

1つのPGファイルで両方のキーボードのクライアントを使用したい場合は、“キーボードの種類を選択→キーの割り当て→もう一方のキーボードの種類を選択→キーの割り当て”の様に2度設定してください。

③ 109 キーボードまたは 106 キーボードを使用する場合は [109 キーボード] を選択する。

[109 キーボード] メニューにチェックマークが付加され、基本パラメータ入力画面に戻ります。



(2) 物理キーにファンクションキーを割り当てる

① [拡張パラメータ] メニューの [キーの割り当て] メニューコマンドを選ぶ。

② 物理キーにファンクションキーを割り当てる。

[キーの割り当て] ダイアログボックスが、オープンします。表示されるダイアログボックスは、キーボードの種類によって異なります。

各パラメータの説明に従い、物理キーにファンクションキーを割り当ててください。

<98 キーボード>

キー	機能	キー	機能	キー	機能
<input checked="" type="radio"/> f・1	PF1	<input type="radio"/> vf・2		<input type="radio"/> ESC	
<input type="radio"/> f・2	PF2	<input type="radio"/> vf・3		<input type="radio"/> TAB	Skip
<input type="radio"/> f・3	PF3	<input type="radio"/> vf・4		<input type="radio"/> BS	BackSkip
<input type="radio"/> f・4	PF4	<input type="radio"/> vf・5		<input type="radio"/> Enter	TAB
<input type="radio"/> f・5	PF5	<input type="radio"/> ROLL UP	STOP ID	切り換えキー	
<input type="radio"/> f・6	全消去(クリア)	<input type="radio"/> ROLL DOWN	HELP ID	<input checked="" type="radio"/> 単独	
<input type="radio"/> f・7	I	<input type="radio"/> HOME	項消去	<input type="radio"/> SHIFT	<input type="radio"/> CTRL
<input type="radio"/> f・8	II	<input type="radio"/> HELP	リセット	<input type="radio"/> SHIFT+CTRL	
<input type="radio"/> f・9	III	<input type="radio"/> APキー		機能選択項目一覧	
<input type="radio"/> f・10	実行/送信	<input type="radio"/> INS	挿入	未設定	
<input type="radio"/> vf・1	IMEモード切替	<input type="radio"/> DEL	削除	PF1	

機能選択項目一覧: 未設定, PF1, PF2, PF3

Buttons: OK, キャンセル, 既定値, 一括消去, ヘルプ

[既定値] ボタンを押すと、切り換えキーによって指定されたキーに既定値をセットします。

[一括消去] ボタンを押すと、切り換えキーによって指定されたキーの値を消去します。

各パラメータの説明

キー項目	機能項目	説明	既定値
<ul style="list-style-type: none"> • f・1～f・10 • SHIFT+f・1 ～SHIFT+f・10 • CTRL+f・1 ～CTRL+f・10 • SHIFT+CTRL+f・1 ～SHIFT+CTRL+f・10 • vf・1～vf・5 • SHIFT+vf・1 ～SHIFT+vf・5 • CTRL+vf・1 ～CTRL+vf・5 • SHIFT+CTRL+vf・1 ～SHIFT+CTRL+vf・5 • ROLL UP • SHIFT+ROLL UP • CTRL+ROLL UP • SHIFT+CTRL+ROLL UP • ROLL DOWN • SHIFT+ROLL DOWN • CTRL+ROLL DOWN • SHIFT+CTRL+ROLL DOWN • HOME • CTRL+HOME • SHIFT+HOME • SHIFT+CTRL+HOME • HELP • SHIFT+HELP • CTRL+HELP • SHIFT+CTRL+HELP • AP キー • SHIFT+AP キー • CTRL+AP キー • SHIFT+CTRL+AP キー • INS • SHIFT+INS • CTRL+INS • SHIFT+CTRL+INS • DEL • SHIFT+DEL • CTRL+DEL • SHIFT+CTRL+DEL • ESC • SHIFT+ESC • TAB • SHIFT+TAB 	<ul style="list-style-type: none"> • 未設定 • PF1～PF24 • 全消去(クリア) • I • II • III • 実行/送信 • セッション切替 • 割込 • 全項消去 • 復改 • コマンド入力 • パラメータ変更 • 再開 • チェックオフ • DEV CANCEL • ERASE EOF • STOP ID • HELP ID • 項消去 • カーソルホーム • IDENT • リセット • COPY ID • 挿入 • 削除 • HCopy 文字 • HCopy 文字+罫線 • HCopy すべて • HCopy グラフ • TAB • BackSkip • BackSpace • Skip • IME モード切替 	<p>物理キーに対応するファンクションキーを指定します。</p> <p>[機能選択項目一覧]のリストボックスから指定したいファンクションキーを選び、そのファンクションキーを物理キーに指定します。</p> <p>複数のキーに同じ機能を割り当てることもできます。</p> <p>SHIFT キー、CTRL キーを押しながら押すキーを指定する場合は、[切り換えキー]でSHIFT、CTRL、SHIFT+CTRLを指定してください。</p> <p>指定できないキーは、ハーフトーンで表示されます。</p>	<p>操作ガイド「キーボードを使う」を参照してください。</p>

<ul style="list-style-type: none">• CTRL+TAB• SHIFT+CTRL+TAB• BS• SHIFT+BS• CTRL+BS• SHIFT+CTRL+BS• Enter• SHIFT+Enter• CTRL+Enter• SHIFT+CTRL+Enter			
---	--	--	--

<109 キーボード>

キーの割り当て(109)

キー	機能	キー	機能	キー	機能
<input checked="" type="radio"/> F 1	PF1	<input type="radio"/> F 11	PF11	<input type="radio"/> TAB	Skip
<input type="radio"/> F 2	PF2	<input type="radio"/> F 12	PF12	<input type="radio"/> BS	BackSkip
<input type="radio"/> F 3	PF3	<input type="radio"/> Ins	挿入	<input type="radio"/> Enter	TAB
<input type="radio"/> F 4	PF4	<input type="radio"/> Del	削除	切り換えキー	
<input type="radio"/> F 5	PF5	<input type="radio"/> Home	項消去	<input checked="" type="radio"/> 単独	<input type="radio"/> SHIFT <input type="radio"/> CTRL
<input type="radio"/> F 6	PF6	<input type="radio"/> End	Ⅲ	<input type="radio"/> SHIFT+CTRL	
<input type="radio"/> F 7	PF7	<input type="radio"/> PageUp	I	機能選択項目一覧	
<input type="radio"/> F 8	PF8	<input type="radio"/> PageDown	実行/送信	未設定	
<input type="radio"/> F 9	PF9	<input type="radio"/> APキー		PF1	
<input type="radio"/> F 10	PF10	<input type="radio"/> ESC		PF2	
				PF3	

OK キャンセル 既定値 一括消去 ヘルプ

[既定値] ボタンを押すと、切り換えキーによって指定されたキーに既定値をセットします。
 [一括消去] ボタンを押すと、切り換えキーによって指定されたキーの値を消去します。

各パラメータの説明

キー項目	機能項目	説明	既定値
<ul style="list-style-type: none"> • F1～F12 • Shift+F1～Shift+F12 • Ctrl+F1～Ctrl+F12 • Shift+Ctrl+F12～ Shift+Ctrl+F12 • Insert • Shift+Insert • Ctrl+Insert • Shift+Ctrl+Insert • Delete • Shift+Delete • Ctrl+Delete • Shift+Ctrl+Delete • Home • Shift+Home • Ctrl+Home • Shift+Ctrl+Home • End • Shift+End • Ctrl+End • Shift+Ctrl+End • Page Up • Shift+Page Up • Ctrl+Page Up • Shift+Ctrl+Page Up • Page Down • Shift+Page Down • Ctrl+Page Down • Shift+Ctrl+Page Down • AP キー, Shift+AP キー • Ctrl+AP キー • Shift+Ctrl+AP キー • Esc, Shift+Esc • Tab, Shift+Tab • Ctrl+Tab • Shift+Ctrl+Tab • BackSpace • Shift+BackSpace • Ctrl+BackSpace • Shift+Ctrl+BackSpace • Enter, Shift+Enter • Ctrl+Enter • Shift+Ctrl+Enter 	<ul style="list-style-type: none"> • 未設定 • PF1～PF24 • 全消去(クリア) • I • II • III • 実行/送信 • セッション切替 • 割込 • 全項消去 • 復改 • コマンド入力 • パラメータ変更 • 再開 • チェックオフ • DEV CANCEL • ERASE EOF • STOP ID • HELP ID • 項消去 • カーソルホーム • IDENT • リセット • COPY ID • 挿入 • 削除 • HCopy 文字 • HCopy 文字+罫線 • HCopy すべて • HCopy グラフ • TAB • BackSkip • BackSpace • Skip • IME モード切替 	<p>物理キーに対応するファンクションキーを指定します。 [機能選択項目一覧] のリストボックスから指定したいファンクションキーを選び、そのファンクションキーを物理キーに指定します。</p> <p>複数のキーに同じ機能を割り当てることもできます。 Shift キー、Ctrl キーを押しながら押すキーを指定する場合は、[切り換えキー] でSHIFT、CTRL、SHIFT+CTRL を指定してください。</p> <p>指定できないキーは、ハーフトーンで表示されます。</p>	<p>操作ガイド「キーボードを使う」を参照してください。</p>

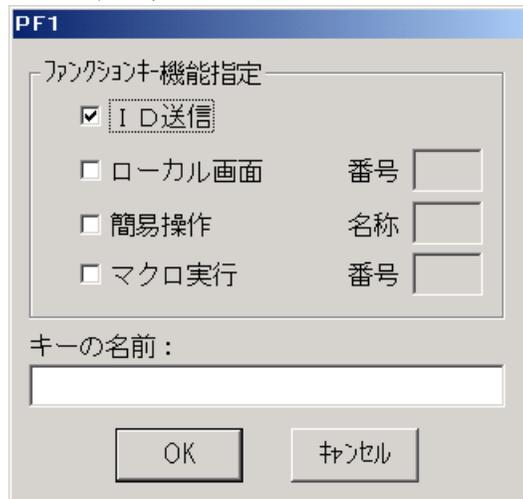
- ③ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保持し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

(3) PF1~PF24、I、II、IIIのファンクションキーに機能を割り当てる

- ① [拡張パラメータ] メニューの [キーのカスタマイズ] メニューコマンドを選ぶ。
- ② [ファンクションキー機能割当] メニューを選択する。
- ③ [ファンクションキー機能割当] ダイアログボックスがオープンする。



- ④ [ファンクションキー機能割当] ダイアログボックスで、設定する PF キーのボタンを選ぶ。
- ⑤ PF キーのダイアログボックスで、パラメータを入力する。
指定した PF キーのダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
ファンクションキー機能指定	<ul style="list-style-type: none"> ・ ID 送信 ・ ローカル画面 ・ 簡易操作 ・ マクロ実行 	<p>送信:PF キーに対する ID をホストに送信します。</p> <p>ローカル画面:表示するローカル画面番号を数字3桁で指定します。ローカル画面番号の有効範囲は、000～255です。ただし、拡張ローカル画面を使用する場合は、000～999 となります。</p> <p>簡易操作:実行するコマンドファイルの識別子(英数およびカタカナ)を指定します。何も指定しない場合、簡易操作は実行されません。識別子は最大2文字まで指定できます。</p> <p>マクロ実行:実行するマクロ番号を指定します。何も指定しない場合は実行されません。マクロ番号の有効範囲は01～25です。</p>	ID 送信
キーの名前	なし	PF キーの名前を変更します。キーの名前は、32 文字まで入力できます。ツールボタンの説明として、ステータスバーに表示されます。	なし

⑥ PF キーのダイアログボックスで [OK] ボタンを押す。
PF キーダイアログボックスで設定したパラメータを保存し、[ファンクションキー機能割当] ダイアログボックスに戻ります。

⑦ スイッチの使用の有無を選択する
各パラメータの説明に従い、スイッチの設定を行ってください。

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
スイッチの使用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使用する ・ 使用しない 	<p>使用する: ID 送信、ローカル画面、簡易操作、マクロ実行を複数同時に指定した場合、これらの機能を実行する優先順位を変更することができます。</p> <p>使用しない: ID 送信、ローカル画面、簡易操作、マクロ実行を複数同時に指定した場合、これらの機能を実行する優先順位は、マクロ実行、簡易操作、ローカル画面、ID 送信の順となります。</p>	使用しない

- ⑧ [ファンクションキー機能割当] ダイアログボックスで [OK] ボタンを押す。
基本パラメータ入力画面に戻ります。

(注意) 1つのPFキーに複数の機能を指定した場合、PFキーを押すと複数指定した機能の優先順位の高い機能のみを実行します。

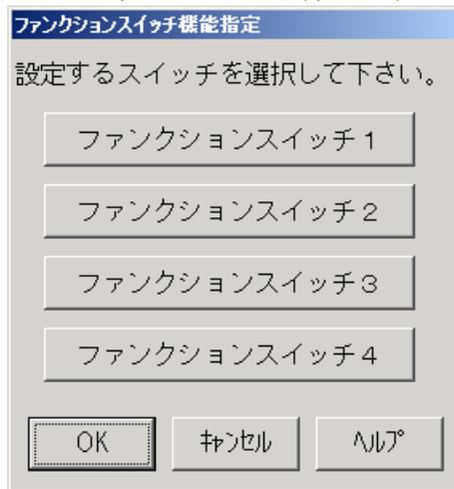
スイッチの使用		優先順位
使用する (注)	SW (ID)	ID 送信→マクロ実行→簡易操作→ローカル画面
	SW (MET)	マクロ実行→簡易操作→ローカル画面→ID 送信
	SW (EOP)	簡易操作→マクロ実行→ローカル画面→ID 送信
	SW (GFM)	ローカル画面→マクロ実行→簡易操作→ID 送信
使用しない		マクロ実行→簡易操作→ローカル画面→ID 送信

(注意) スイッチは **Ctrl** + **K** (**_CTRL** + **K**) を押すことによって切り換えます。
スイッチの状態は画面の制御領域に表示されます(詳細は操作ガイド「**画面フォーマット**」の制御領域の説明を参照して下さい)。

5.6.4 ファンクションスイッチ機能を指定する

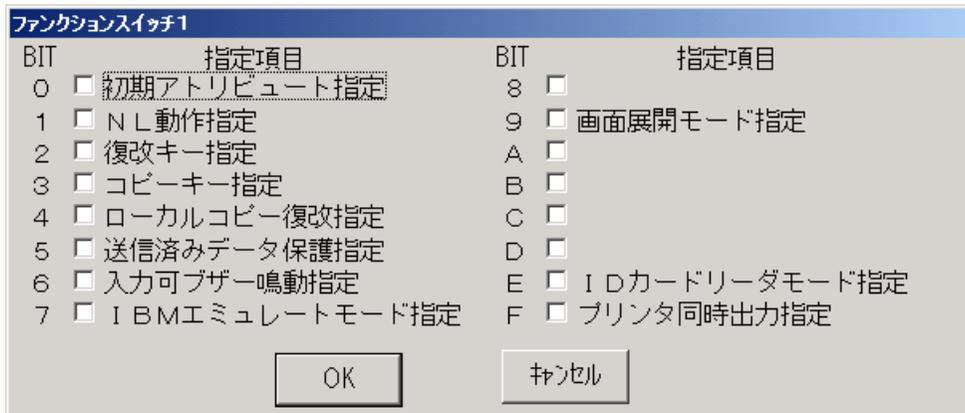
ファンクションスイッチの設定を行います。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [ファンクションスイッチ機能指定] メニューコマンドを選ぶ。
[ファンクションスイッチ機能指定] ダイアログボックスがオープンします。
設定するファンクションスイッチのボタンを押してください。



- ② 各ファンクションスイッチのダイアログボックスで、パラメータを入力する。
各ファンクションスイッチのダイアログボックスが、オープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力して下さい。

<ファンクションスイッチ1>



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
BIT 0 初期アトリビュート指定(注1)		YES：初期モードはアトリビュート非占有モードとなります。 NO：初期モードはアトリビュート占有モードとなります。	NO
BIT 1 NL動作指定(注1)		YES：ホストコンピュータから受信した画面へのメッセージ中のNLを画面に書き込み復改します。 NO：ホストコンピュータから受信した画面へのメッセージ中のNLを単なるデータとして扱い、画面に書き込みます。	NO
BIT 2 復改キー指定(注1)		YES：復改キーが押された時、NLを画面に書き込み復改します。 NO：復改キーが押された時、復改動作のみ行います。	NO
BIT 3 コピーキー指定(注1)	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES：コピーキーが押された時、端末ローカルでPRチャンネルに画面のハードコピーを印字出力します。 NO：コピーキーが押された時、ホストコンピュータにコピーキーメッセージを送信します。	NO
BIT 4 ローカルコピー復改指定(注1)		YES：端末ローカルに画面のハードコピーを出力する時、画面上のNLによって復改します。 NO：端末ローカルに画面のハードコピーを出力する時、画面の各行の終わりにNLを付加し復改します。	NO
BIT 5 送信済みデータ保護指定(注1)		YES：一度送信したフィールドは、送信キーおよびSOTでスキップされ何も送信されません。 NO：一度送信したフィールドは、送信キーおよびSOTによって、再度送信されます。	NO
BIT 6 入力可ブザー鳴動指定(注1)		YES：入力不可→入力可への変化時に、ブザーを鳴らします。ブザー音は、[拡張パラメータ] - [ブザー鳴動指定]で指定可能です。 NO：入力不可→入力可への変化に、ブザーを鳴らしません。	NO
BIT 7 IBMエミュレートモード指定(注1)		YES：IBM3270エミュレートモードへの切換コマンド受信時エミュレートモードとなり、PFキーを押した時に、各PFキーのIDだけでなく、送信キーを押した時と同様に画面のデータをホストに送信します。 NO：IBM3270エミュレートモードへの切換コマンドを受信してもエミュレートモードにはなりません。	NO
BIT 9 画面展開モード指定(注1)		YES：画面に対するテキストを受信ブロック単位に表示します。 NO：画面に対するテキストをすべて受信した後に表示します。	NO

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
BIT E IDカード リーダーモード指定	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES : IDカードリーダーをモデル 50N 互換モードで使用します。 NO : IDカードリーダーをモデル 55N 互換モードで使用します。 リファレンスマニュアル「アトリビュート文字」を参照。	NO
BIT F プリンタ同時出力指定 (注2)		YES : ホストからの画面への表示データまたはキーボードからの入力データを同時にプリンタへ出力します。 NO : ホストからの画面への表示データまたはキーボードからの入力データをプリンタへ出力しません。	NO

(注1) FORM、COMI-2 (FORM) モードのみ有効。

(注2) COMI-2 (KB/PR) モードでのみ有効。

<ファンクションスイッチ2>

BIT	指定項目	BIT	指定項目
0	<input type="checkbox"/>	8	<input type="checkbox"/> 倍画面使用指定
1	<input type="checkbox"/> 数字フィールドジャスティファイ指定	9	<input type="checkbox"/>
2	<input type="checkbox"/> マウス使用指定(ライトペン機能)	A	<input type="checkbox"/>
3	<input type="checkbox"/>	B	<input type="checkbox"/>
4	<input type="checkbox"/>	C	<input type="checkbox"/>
5	<input type="checkbox"/>	D	<input type="checkbox"/>
6	<input type="checkbox"/>	E	<input type="checkbox"/>
7	<input type="checkbox"/> 英小文字変換指定	F	<input type="checkbox"/>

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
BIT 1 数字フィールド ジャスティファイ 指定 (注1)	<input type="checkbox"/>	YES : 数字フィールドは ATR3 の J 指定にかかわらずジャスティファイ動作します。 NO : 数字フィールドは ATR3 で J 指定されていなければジャスティファイ動作しません。	NO
BIT 2 マウス使用指定	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES : ライトペン機能を使用します。(ATR1 の指定で BL、HL のどちらか一方のみ ON の場合にライトペンフィールドを生成します) NO : ライトペンフィールドを生成しません。	NO
BIT 7 英小文字変換指 定		YES : キーボードから入力された英小文字を英大文字に変換して表示します。 NO : 文字の変換を行いません。	NO
BIT 8 倍画面使用指 定		YES : 倍画面モードで動作します。 (全モードで有効) NO : 通常モードで動作します。	NO

※上記以外のパラメータは、指定しても無視されます。

(注1) FORM、COMI-2(FORM)モードでのみ有効です。

<ファンクションスイッチ 3 >

ファンクションスイッチ3			
BIT	指定項目	BIT	指定項目
0	<input type="checkbox"/>	8	<input type="checkbox"/>
1	<input type="checkbox"/> XFERキー送信機能指定	9	<input type="checkbox"/>
2	<input checked="" type="checkbox"/> 罫線補正指定	A	<input type="checkbox"/>
3	<input type="checkbox"/>	B	<input type="checkbox"/>
4	<input type="checkbox"/>	C	<input type="checkbox"/>
5	<input type="checkbox"/> 左クリック動作指定	D	<input type="checkbox"/>
6	<input type="checkbox"/>	E	<input type="checkbox"/>
7	<input type="checkbox"/>	F	<input type="checkbox"/>

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
BIT 1 XFER キー 送信機能指 定		YES : XFER キーを実行/送信キーとして扱います。 NO : XFER キーを実行/送信キーとして扱いません。	NO
BIT 2 罫線補正指 定	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES : 横罫線をカラムの中央から引きます。 NO : 横罫線をカラムの左端から引きます。	YES
BIT 5 左クリック 動作指定		YES: マウス左クリックにより入力位置カーソルを移動 可能とします。 NO : マウス左クリックでは入力位置カーソルを移動し ません。	NO

※上記以外のパラメータは、指定しても無視されます。

(注意)

- 1) BIT0「かな漢字変換モード切換指定」は、[入力モード指定] ダイアログボックスの「漢字フィールドかな漢起動」へ移動しました。
- 2) BIT6「BS キー機能指定」は削除しました。同等の機能を指定する場合は、[キーのカスタマイズ] - [キーの割り当て] ダイアログボックスを開き、キーの機能を指定してください。

<ファンクションスイッチ4>

ファンクションスイッチ4			
BIT	指定項目	BIT	指定項目
0	<input type="checkbox"/> モノクロディスプレイ互換モード	8	<input type="checkbox"/>
1	<input type="checkbox"/> WMSCファイル転送動作指定	9	<input type="checkbox"/>
2	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>
3	<input type="checkbox"/>	B	<input type="checkbox"/>
4	<input type="checkbox"/>	C	<input type="checkbox"/>
5	<input type="checkbox"/>	D	<input type="checkbox"/>
6	<input type="checkbox"/>	E	<input type="checkbox"/>
7	<input type="checkbox"/>	F	<input type="checkbox"/>

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
BIT 0 モノクロ ディスプレイ 互換モード	<input type="checkbox"/>	YES : ホストからの画面に対するカラー指定を無視します。 通常は、緑色で表示され、高輝度表示指定のフィールドのみ黄色で表示されます。 NO : ホストからの画面に対するカラー指定を有効にします。	NO
BIT 1 WMSCファイル 転送動作指定	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES : 1レコードを複数テキストに分割して送信するCOMI-2上り可変長ファイル転送において、1テキストのWMSC受信に対して、1レコード分の全テキストを送信して、MS-DOS版ETOSと同等の動作をします。 NO : 1レコードを複数テキストに分割して送信するCOMI-2上り可変長ファイル転送において、1テキストのWMSC受信に対して、1テキストのみ送信します。	NO

※上記以外のパラメータは、指定しても無視されます。

(注1) 本パラメータは無効です。

- ③ 指定したファンクションスイッチのダイアログボックスで [OK] ボタンを押す。
ダイアログボックスは消えます。
- ④ [ファンクションスイッチ機能指定] ダイアログボックスで [OK] ボタンを押す。
ダイアログボックスは消え、基本パラメータ入力画面に戻ります。

5.6.5 COMI-2 パス拡張機能を指定する

COMI-2 パスを使用する場合の各種機能の設定を行います。

(注意) クライアント上のファイルを指定してください。

(1) ファイル情報を定義する。

① [拡張パラメータ] メニューの [COMI-2 パス機能指定] メニューコマンドを選ぶ。

② [ファイル情報定義] メニューを選択する。

[ファイル情報定義] ダイアログボックスがオープンします。

各パラメータの説明に従い、パラメータを入力して下さい。

ファイル情報定義			
ファイル名	レコード長	ファイル名	レコード長
FI00	...	FI10	...
FI01	...	FI11	...
FI02	...	FI12	...
FI03	...	FI13	...
FI04	...	FI14	...
FI05	...	FI15	...
FI06	...	FI16	...
FI07	...	FI17	...
FI08	...	FI18	...
FI09	...	FI19	...

レコード長既定値

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
レコード長既定値	なし	レコード長の既定値を指定します。ファイル名直接指定の固定長ファイル転送やファイル名間接指定の\$CHGを使用した固定長モードファイル転送でレコード長が指定されていない場合、この値がレコード長となります。有効範囲は、1～999バイトです。	256
ファイル名	なし	ファイル名を指定します。指定するファイルが、カレントディレクトリにない場合には、ディレクトリも指定し、64文字以内で入力します。なお、本ファイル名はホストから指定されるファイル名と同じ文字列を指定する必要があります。	なし
レコード長	なし	ファイルのレコード長を指定します。ファイルは、本項目で指定されたレコード長で送信されます。有効範囲は、1～999バイトです。	なし

③ [OK] ボタンを押す。

設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

(2) 拡張機能を指定する

- ① [拡張パラメータ] メニューの [COMI-2 パス拡張機能] メニューコマンドを選ぶ。
- ② [拡張機能] メニューを選択する。
[拡張機能] ダイアログボックスが、オープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
送信データ圧縮指定 ・フロッピーディスク ・カードリーダー	・圧縮する ・圧縮しない	フロッピーディスクイメージデータ/カードリーダーイメージデータ送信時にデータの圧縮を行うかを指定します。	圧縮する
トレーラスペース削除	・削除する ・削除しない	トレーラスペースを削除するかを指定します。	削除する
COMI-2(間接指定)ファイル転送 ・ファイルアーケイション	・アロケートする ・アロケートしない	COMI-2 パスファイル転送(下り間接指定)において、ファイルが存在しない場合にファイルを作成するかを指定します。	アロケートしない
COMI-2(間接指定)ファイル転送 ・ファイル種別	・固定長モード ・可変長モード	COMI-2 パスファイル転送(間接指定)においてファイル転送のモードを指定します。 固定長モード：チャンネル指定のレコード長を有効とし、レコードサイズが固定となります。 可変長モード：CRLF までを1レコードとし、レコード長が可変となります。	固定長モード
不正コードエラー	・表示する ・表示しない	COMI-2 パスファイル転送で、扱うことのできないコード(G 1文字、NEC 付加文字、その他不正コード)を受信した時に、エラーを表示するか指定します。	表示しない

- ③ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

(3) 端末オペレータコマンドを指定する

端末オペレータコマンドの登録を行います。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [COMI-2 パス機能指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② [端末オペレータコマンド指定] メニューを選択する。
[端末オペレータコマンド指定] ダイアログボックスがオープンします。
設定したい登録番号のボタンを押してください。

- ③ 指定した登録番号のダイアログボックスで、パラメータを入力する。
指定した登録番号のダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。
また、登録した端末オペレータコマンドを削除したい場合には、[登録削除] ボタンを押してください。
その登録番号を未登録状態にし、ダイアログボックスは消えます。

各パラメータの説明

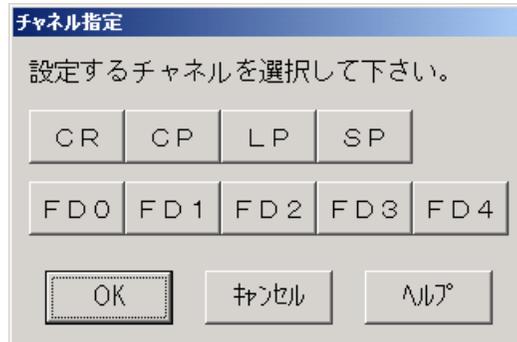
項目名	パラメータ	説明	既定値
イメージ	<ul style="list-style-type: none"> • キーボード • フロッピーディスク 	送信データイメージを指定します。	キーボード
入力装置	<ul style="list-style-type: none"> • キーボード • DRIVE A～Z 	<p>入力装置を指定します。</p> <p>キーボードを指定した場合、以降のパラメータを指定する必要はありません。</p> <p>キーボード: キーボード入力フィールドに入力されたデータがホストに送信されます。</p> <p>DRIVE A～Z: ファイル1レコード分のデータが、ホストに送信されます。</p>	キーボード
ファイル名	なし	<p>ファイル名を指定します。指定するファイルが、カレントドライブにない場合には、ドライブやディレクトリも指定します。([入力装置] で、DRIVE A～Z を指定した場合のみ指定してください。)</p> <p>64文字まで入力できます。</p>	なし
レコード長	なし	<p>ファイルのレコード長を指定します ([入力装置] で、DRIVE A～Z を指定した場合のみ指定してください)。</p> <p>有効範囲は、1～999バイトです。</p>	なし
データコード	<ul style="list-style-type: none"> • JIPS (J) SE • 内部 (J) 	<p>ファイル内に格納されているデータのコードを指定します ([入力装置] で、DRIVE A～Z を指定した場合のみ指定してください)。</p> <p>JIPS (J) SE: ホストと同じコード体系。 漢字コードの変換を行いません。</p> <p>内部 (J): ホストと異なるコード体系。 漢字コードの変換を行います。シフト JIS→JIPS (J) SE (送信時)</p>	JIPS (J) SE

(4) チャンネルを指定する (COMI-2 パスファイル名間接指定)

COMI-2 パスを使用してファイル転送(ファイル名間接指定)を行う場合、あらかじめファイル名を間接的に表すチャンネルにファイル名と入出力装置を設定する必要があります。

このチャンネルを指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [COMI-2 パス機能指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② [チャンネル指定] メニューを選択する。
[チャンネル指定] ダイアログボックスが、オープンします。



- ③ [チャンネル指定] ダイアログボックスで、指定するチャンネルを選ぶ。
各パラメータの説明に従い、チャンネルを選択してください。

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
チャンネル	<ul style="list-style-type: none"> • CR • CP • LP • SP • FD0 • FD1 • FD2 • FD3 • FD4 	設定したいチャンネルを指定します。 CR：カードリーダーチャンネル CP：カードパンチチャンネル LP：ラインプリンタチャンネル SP：シリアルプリンタチャンネル FD0～4：フロッピーディスクチャンネル	なし

- ④ 指定したチャンネルのダイアログボックスでパラメータを入力する
指定したチャンネルのダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。

<CR チャネル>

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
ファイル名	なし	ファイル名を指定します。指定するファイルが、カレントディレクトリにない場合には、ドライブやディレクトリも指定します。64文字まで入力できます。	C : DATAR
レコード長	なし	ファイルのレコード長を指定します。有効範囲は、1～999バイトです。	80
データコード	<ul style="list-style-type: none"> • JIPS(J)SE • 内部(J) 	ファイル内に格納されているデータのコードを指定します。 JIPS(J)SE : ホストと同じコード体系。 漢字コードの変換を行いません。 内部(J) : ホストと異なるコード体系。 漢字コードの変換を行います。シフト JIS→JIPS(J)SE(送信時)	JIPS(J)SE

<CP/LP/SP チャネル>

The screenshot shows a dialog box titled 'CP'. It contains the following elements:

- 出力装置**: Two radio buttons, one selected for 'プリンタ' (Printer) and one for 'DRIVE A~Z'.
- ファイル名**: A text input field with a browse button ('...').
- レコード長**: A text input field containing the value '80'.
- データコード**: Two radio buttons, one selected for 'JIPS(J)SE' and one for '内部(J)'.
- Buttons for 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) at the bottom.

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
出力装置	・プリンタ ・DRIVE A~Z	チャンネルの出力装置を指定します。	プリンタ
ファイル名	なし	ファイル名を指定します。指定するファイルが、カレントディレクトリにない場合には、ドライブやディレクトリも指定します。 64文字まで入力できます。 ([出力装置] で、DRIVE A~Z を指定した場合のみ指定してください。)	なし
レコード長	なし	ファイルのレコード長を指定します。 有効範囲は、1~999バイトです ([出力装置] で、DRIVE A~Z を指定した場合のみ指定してください。)	CP : 80 LP : 256 SP : 256
データコード (注1)	・JIPS(J)SE ・内部(J)	ファイル内へ格納するデータのコードを指定します ([出力装置] で、DRIVE A~Z を指定した場合のみ指定してください。) JIS(J)SE : ホストと同じコード体系。 漢字コードの変換を行いません。 内部(J) : ホストと異なるコード体系。 漢字コードの変換を行います。 JIPS(J)SE→シフト JIS(受信時)	JIPS(J)SE

(注1) LP/SPチャンネルの場合、内部(J)を指定しても無効となります。この場合、データコードはJIPS(J)SEで処理されます。

<FD0~FD4 チャネル>

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
ファイル名	なし	ファイル名を指定します。指定するファイルが、カレントディレクトリにない場合には、ドライブやディレクトリも指定します。64文字まで入力できます。	FD0 C:DATA0 FD1 C:DATA1 FD2 C:DATA2 FD3 C:DATA3 FD4 C:DATA4
レコード長	なし	ファイルのレコード長を指定します。有効範囲は、1~999バイトです。	256
データコード	<ul style="list-style-type: none"> ・ JIPS(J)SE ・ 内部(J) 	<p>ファイル内に格納されているデータのコードを指定します。</p> <p>JIPS(J)SE：ホストと同じコード体系。 漢字コードの変換を行いません。</p> <p>内部(J)：ホストと異なるコード体系。 漢字コードの変換を行います。</p> <p>JIPS(J)SE→シフト JIS(受信時)</p>	JIPS(J)SE

- ⑤ 指定したチャネルのダイアログボックスで [OK] ボタンを押す。
指定したチャネルのダイアログボックスで [OK] ボタンを押します。
設定したパラメータを保存し、ダイアログボックスは消えます。
- ⑥ [チャネル指定] ダイアログボックスで [OK] ボタンを押す。
ダイアログボックスは消え、もとの画面に戻ります。

(5) ファイル受信終了後の自動起動アプリケーションを指定する
COMI-2 パスを使用したファイル転送(ファイル名直接指定)終了後、起動するアプリケーションを指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [COMI-2 パス機能指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② [アプリケーション自動起動設定] メニューを選択する。
[アプリケーション自動起動設定] ダイアログボックスが、オープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
受信ファイル名	なし	COMI-2 パスファイル転送で受信するファイル名を指定します。 12文字まで入力できます。	なし
実行アプリケーション名	なし	COMI-2 パスファイル転送で受信したファイル名が、設定した受信ファイル名と一致した場合に起動するアプリケーションを指定します。(注1)	なし

(注1)

- 1) 指定したアプリケーションが実行される場合、実行ファイルの第1引数として、受信ファイル名が指定されます。
- 2) 実行アプリケーション名は、フルパスで指定してください。
- 3) ファイル名以外の引数を指定することはできません。

- ③ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

(6) ファイル転送ディレクトリを指定する

COMI-2 パスを使用したファイル転送(ファイル名直接指定)で使用するディレクトリをユニット番号毎に指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [COMI-2 パス機能指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② [ユニット番号ディレクトリ指定] メニューを選択する。
[ユニット番号ディレクトリ指定] ダイアログボックスが、オープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。

各パラメータの説明

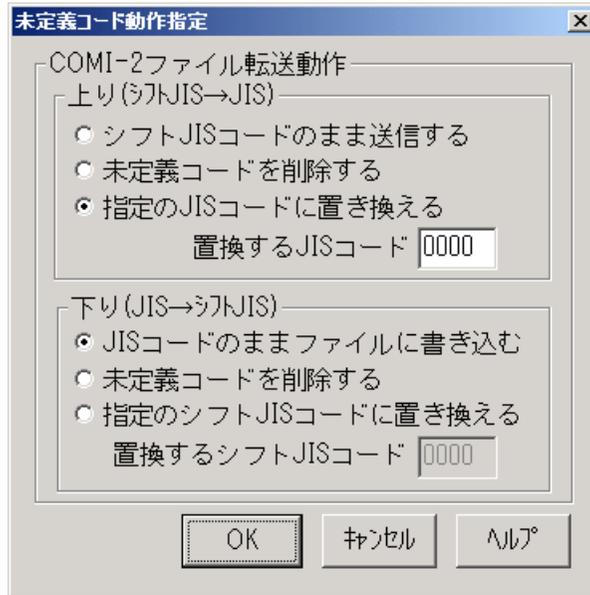
項目名	パラメータ	説明	既定値
転送ディレクトリ	なし	COMI-2 パスファイル転送で使用するディレクトリをユニット番号(ドライブ番号)毎に指定します。ユニット番号0~9はドライブ番号A~Jに対応します。本指定は、ファイル名直接指定でのみ有効です。 (注)転送ディレクトリはフルパスで指定してください。	なし

- ③ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

(7) ファイル転送時の未定義コード動作を指定する

コード変換テーブルを使用して COMI-2 パスファイル転送(バイナリデータ転送は除く)を行う場合、コード変換テーブルで未定義としたコードの取り扱いを指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [COMI-2 パス機能指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② [未定義コード動作指定] メニューを選択する。
[未定義コード動作指定] ダイアログボックスが、オープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
上り (シフト JIS →JIS)	<ul style="list-style-type: none"> シフト JIS コードのまま送信する 未定義コードを削除する 指定の JIS コードに置き換える 	ファイル内に存在する未定義コードをホストへ送信する際の動作を指定します。	指定の JIS コードに置き換える
	置換する JIS コード	上記で [指定の JIS コードに置き換える] を指定した場合、置き換える JIS コードを指定します。有効範囲は 0000～FFFF です。	0000
下り (JIS→ シフト JIS)	<ul style="list-style-type: none"> JIS コードのままファイルに書き込む 未定義コードを削除する 指定のシフト JIS コードに置き換える 	ホストから受信したデータ内に存在する未定義コードをファイルに書き込む際の動作を指定します。	JIS コードのままファイルに書き込む
	置換するシフト JIS コード	上記で [指定のシフト JIS コードに置き換える] を指定した場合、置き換えるシフト JIS コードを指定します。有効範囲は 0000～FFFF です。	0000

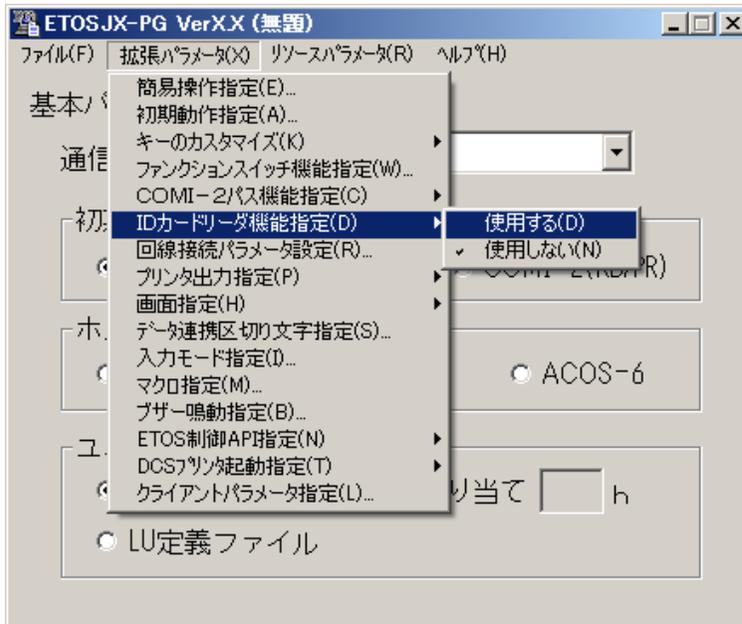
(注意)

- 置換する JIS コードは、ホスト側に影響がないコードを指定してください。
指定コードによっては、JIS の日本語コードにならない範囲があります。
 - 置換するシフト JIS コードは、Windows で使用する場合に影響がないコードを指定してください。
指定コードによっては、シフト JIS の日本語コードにならない範囲や字体がないコードになる範囲があります。
- ③ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

5.6.6 IDカードリーダー機能を指定する

IDカードリーダーを使用するかどうかを指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [IDカードリーダー機能指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② IDカードリーダーを使用する場合には [使用する] を選択する。
[使用する] メニューにチェックマークが付加され、基本パラメータ入力画面に戻ります。
- ③ IDカードリーダーを使用しない場合には [使用しない] を選択する。
[使用しない] メニューにチェックマークが付加され、基本パラメータ入力画面に戻ります。



(注意) IDカードリーダー使用時は、デバイスマネージャの通信ポート(COM1)の設定をIDカードリーダー機器の設定に合わせてください。

5.6.7 回線接続に関するパラメータを指定する

TCP/IP 手順使用時のコネクション確立の方法と、ETOSWEB SERVER クライアント起動時または回線切断時に、ETOSWEB SERVER から発行する接続要求の回数を設定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [回線接続パラメータ設定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② パラメータを入力する。
[回線接続パラメータ] ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
コネクションの確立	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動 ・ マニュアル 	TCP/IP 手順において、コネクションの確立を行う方法を指定します。「自動」を選択した場合、常にコネクションを確立しようとします。	自動
画面送信応答監視	<ul style="list-style-type: none"> ・ しない ・ する 	TCP/IP 手順で、画面送信、COMI-2 ファイル送信、分散テキスト送信の際、ホストへの到達確認を行うかを指定します。	しない
回線接続リトライ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無限 ・ 回数設定 	回線接続が失敗した場合の再接続試行回数を指定します。無限を選択した場合は回線接続完了まで、接続要求を繰り返します。	回数設定 0

- ③ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

5.6.8 プリンタ情報を設定する (COMI-2 パス)

[拡張パラメータ] メニューの [プリンタ出力指定] メニューで COMI-2 パスプリンタ出力機能の設定を行います。

(1) 出力方法の設定を行う

- ① [拡張パラメータ] メニューの [プリンタ出力指定] を選択する。
- ② [COMI-2 パス指定] 設定を選択する。
- ③ パラメータを入力する。

プリンタ制御コード指定ダイアログボックスがオープンします。各パラメータの説明に従い、パラメータを設定してください。

(注意) 出力先プリンタは指定できません。

既定値ではクライアントで指定されている“通常使うプリンタ”となります。それ以外のプリンタに出力したい場合は、ActiveX 版起動後、[オプション]メニューの [プリンタ情報の設定] にてプリンタを変更してください。

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
現在選択されている出力先プリンタ	プリンタ名	現在選択されているプリンタを表示します。	未設定
通常使うプリンタ	<input checked="" type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO	出力先プリンタを Windows で設定されている「通常使うプリンタ」に出力するかどうか指定します。 YES : Windows で指定された「通常使うプリンタ」に出力します。 NO : 現在選択されているプリンタに出力します。	YES
プリンタ言語	・N5200 系コード ・PC 系コード ・従来変換 ・無変換 ・イメージ変換	ホストから受信するプリンタ言語およびコード変換方法を指定します。 N5200 系コード : ホストから受信するデータが旧情報コードの場合指定します。 PC 系コード : ホストから受信するデータが 201PL または NPDL2 の時指定します。 従来変換 : 一部のホスト側制御コードを変換し、プリンタへ出力します。 無変換 : データの加工は一切行わず、プリンタへ出力します。 イメージ変換 : PC-PR201 系プリンタをエミュレートし、印字イメージデータをプリンタへ出力します。	従来変換
プリンタコードチェック	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	ホストからの印字データが設定にあっているかのチェックを行うか設定します。 YES:設定されているプリンタ言語では、使用不可能なコードを受信した場合に、エラーを表示し、プリンタ出力を中止します。 NO:設定されているプリンタ言語では、使用不可能なコードを受信しても、エラーを表示せず、プリンタ出力を継続します。	YES
障害通知の有無	・通知する ・通知しない	N5200 系コード選択時、プリンタの障害通知機能を選択します。 通知する : プリンタ障害発生時、ホストへ障害情報を通知します。(注 1) 通知しない : プリンタ障害発生時、プリントマネージャに処理をまかせます。	通知する

項目名	パラメータ	説明	既定値
障害通知 ・全て永久 障害で通知 する	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	上記で「通知する」を選択時、全て永久障害で通知するか否かを選択します。電源断、未接続を用紙切れやDSELで通知する場合があります。 YES:用紙切れを含む全ての障害を検出した場合、永久障害でホストへ障害通知します。 NO:用紙切れとその他の障害を区別してホストへ障害通知します。	NO
プリンタ 監視	・監視しない ・監視する	COMI-2 パスでのプリンタ出力をタイマ監視するか指定します。 監視しない：プリンタをオープン後、ETOSWEB SERVERを終了するまで、クローズを行いません。(注2) 監視する：プリンタ監視時間を指定して下さい。指定したプリンタタイマ監視時間を経過してもテキストがこなければプリンタをクローズします。 プリンタ監視時間の有効範囲は、1～9999秒です。(注3)	監視する 10秒

- (注1) 障害通知機能は、プリンタポートに直接接続されたローカルプリンタのみ使用可能です。ネットワークプリンタおよびUSB接続プリンタでは使用できません。
- (注2) プリンタ監視しない設定は、N5200系コード(障害通知する)の場合のみ使用して下さい。それ以外の設定で使用した場合、ETOSWEB SERVERが終了するまで印刷が開始されない場合があります。
- (注3) ホストからの印刷データが終了しても、この指定時間だけ待ってから印刷を開始します。N5200系コードの場合、プリンタ監視時間経過後および印刷開始時にプリンタ装置のリセットや用紙長の再設定(シリアルプリンタのみ)を行うため、極端に小さい値を設定するとプリンタ性能の悪化やページずれが発生する恐れがあります。業務ごとに適切な値を設定してください。

④ 詳細設定を行う。

[プリンタ出力指定 (COMI-2)] ダイアログボックスで [詳細設定] ボタンを選択し、コード変換パラメータを設定します。

表示されるダイアログボックスは、プリンタ言語、および印字方法によって異なります。

<N5200 系コード>

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
プリンタ機種名	プリンタ型番	リストボックスに PC-PTOS 対応プリンタが表示されます。一覧の中から使用するプリンタを指定します。(注 1) (注 4)	なし
初期化コード	・出力する ・出力しない	プリンタ出力開始時にプリンタの初期化を行うかを指定します。通常は、出力するを指定し、ホスト側にてプリンタを制御する場合に出力しないを指定します。	出力する
印字方向	・ポートレート ・ランドスケープ	用紙の印字方向を指定します。(注 2)	ポートレート
用紙位置	・中央 ・左端	用紙の位置を指定します。(注 2)	左端
外字	・Windows 標準外字 ・移行外字 (注 3)	N5200 系コード印刷で使用する外字を指定します。移行外字は、PTOS/A-VX5 の外字を「日本語文字拡張セット」を使用して変換したものです。	Windows 標準外字
用紙サイズ		用紙サイズを指定します。(注 2)	
給紙方法		給紙方法を指定します。(注 2)	

1 ページ の行数	行数	1 ページの行数を指定します。 本指定は、シリアルプリンタ使用時のみ有効となります。	66
自動復帰 改行	・ 復帰改行 ・ 復帰のみ	帳票印刷時、1 行分の印字データが最大印字桁数を越えた場合の動作を指定します。 復帰改行：印字位置を行の先頭へ移動し、改行します。 復帰のみ：印字位置を行の先頭へ移動します。	復帰のみ
連続する 同期 コード	・ 1 個に置換 ・ そのまま	印字データに連続する同期コード(00 ₁₆)が存在する場合の動作を指定します。 1 個に置換：ホストから受信した連続する同期コードを1 個にまとめて出力します。大量の同期コードが原因で、印字速度が遅い場合に指定してください。 そのまま：ホストから受信した同期コードをすべてプリンタへ出力します。	そのまま

(注1) N型番のプリンタ(N11xx と N78xx)は、Express5800 サーバに接続されている場合に、ネットワークプリンタとして利用可能であり、PC(PC9821, PC98-NX)には接続できません。

(注2) シリアルプリンタの場合、印字方向や用紙位置、用紙サイズ、給紙方法のパラメータは、レフトマージンを求めるための指定となります。従って、この設定によって、プリンタ本体の印字方向や用紙位置、用紙サイズ、給紙方法を変更することはできません。

プリンタ本体の設定を変更するには、ホストよりデータとして制御コードを送るか、追加コードの指定機能によって制御コードを出力するようにしてください。

(注3) 移行外字を選択した場合、コード変換テーブルは有効となりません。

(注4) PrintBridge/BizReporting と連携を行う場合の設定方法は、

「10.2 PrintBridge を経由して印刷する」

「10.3 BizReporting を経由して印刷する」も参照してください。

[追加コード] のボタンで初期化コード/終了コードを指定します

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
初期化コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES:プリンタ出力開始時に、制御コードを追加出力します。続くテキストボックスに、追加する制御コードを記述したテキストファイル名を入力します。(注1) NO:制御コードを追加出力しません。	NO
終了コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES:プリンタ出力終了時に、制御コードを追加出力します。続くテキストボックスに、追加する制御コードを記述したテキストファイル名を入力します。(注1) NO:制御コードを追加出力しません。	NO

(注1) 追加コードは N5200 系制御コードで記述してください。
また、追加コードファイルは、クライアント上のファイルを指定し、ファイルサイズは、最大 512 バイトです。

<PC系コード(従来変換)>

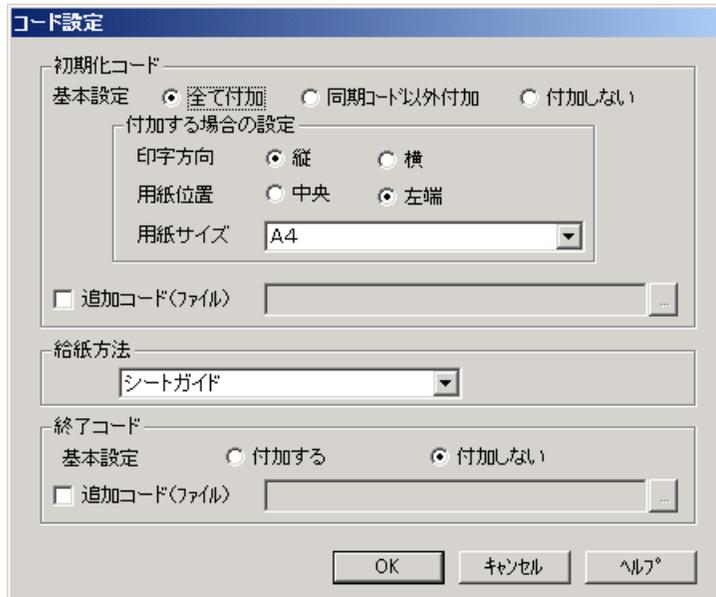
各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
プリンタ言語	<ul style="list-style-type: none"> • 201PL • NPDL2 	ホスト側で作成した印字データのプリンタ言語を指定します。	201PL
プリンタタイプ	<ul style="list-style-type: none"> • ODA • CENTRO 	プリンタの出力タイプを指定します。 ODA : ANK:半角:全角=1:1:2 CENTRO : ANK:半角:全角=1:0.75:1.5	ODA
外字変換方法	<ul style="list-style-type: none"> • ドットイメージ • ダウンロード文字 	外字を印字する際の出力方法を指定します。 ドットイメージ : 外字をドット列で印字します。 ダウンロード文字 : プリンタに外字を登録後、印字します。(注1)	ドットイメージ
縦罫線変換方法	<ul style="list-style-type: none"> • ドットイメージ • 縦罫線コード 	縦罫線コードの変換方法を指定します。 ドットイメージ : 縦罫線をドット列で印字します。このため、縦罫線で1ドット占有します。 縦罫線コード : 縦罫線コード(FS ;)に変換して出力します。(注2)	ドットイメージ

(注1) プリンタの外字領域(7620₁₆)を使用するため、他のAPでプリンタの外字を使用することができなくなります。

(注2) 縦罫線コードは、プリンタによってサポートされていない場合があります。

[コード設定] のボタンで初期化コード/終了コードを指定します



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
初期化コード ・基本設定	<ul style="list-style-type: none"> ・全て付加 ・同期コード以外付加 ・付加しない 	<p>プリンタ出力開始時にプリンタの初期化を行うかを指定します。</p> <p>全て付加：プリンタの初期化コードを付加します。</p> <p>同期コード以外付加：同期コード (FF 0D₁₆) 以外のプリンタ初期化コードを付加します。</p> <p>全て付加を指定してプリンタ出力開始時に白紙が一枚出力される場合に指定します。</p> <p>付加しない：プリンタの初期化コードを付加しません。ホスト側にてプリンタを制御する場合に指定します。</p>	全て付加
印字方向	<ul style="list-style-type: none"> ・縦 ・横 	初期化コードの基本設定で全て付加、または同期コード以外付加を指定した場合に、コードを生成するためのパラメータを設定します。	縦
用紙位置	<ul style="list-style-type: none"> ・中央 ・左端 		左端
用紙サイズ			A4

項目名	パラメータ	説明	既定値
初期化コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES: 初期化コードの基本設定に続けて指定した制御コードを追加出力します。(注) NO: 基本設定をそのまま初期化コードにします。	NO
給紙方法	・シートガイド ・トラクタ フィーダ ・シートフィーダ	プリンタの給紙機構を設定します。	シート ガイド
終了コード ・基本設定	・付加する ・付加しない	プリンタ出力終了時に、プリンタのバッファに残ったデータを全て出力するための制御コードを出力するかどうかを指定します。 付加する: プリンタの排出コードを付加します。 付加しない: プリンタの排出コードを付加しません。	付加しな い
終了コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES: 終了コードの基本設定に続けて指定した制御コードを追加出力します。(注) NO: 基本設定をそのまま初期化コードにします。	NO

(注) 追加する制御コードを記述したテキストファイル名を、続くテキストボックスに入力します。

<PC系コード(無変換)>

詳細設定(無変換)

初期化コード

追加コード

終了コード

追加コード

OK キャンセル ヘルプ

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
初期化コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES: プリンタ出力開始時に、制御コードを追加出力します。追加する制御コードを記述したテキストファイル名を、続くテキストボックスに入力します。(注) NO: 制御コードを追加出力しません。	NO
終了コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES: プリンタ出力終了時に、制御コードを追加出力します。追加する制御コードを記述したテキストファイル名を、続くテキストボックスに入力します。(注) NO: 制御コードを追加出力しません。	NO

(注) 追加コードファイルは、クライアント上のファイルを指定してください。

<PC系コード(イメージ変換)>

The dialog box 'PC系コード(イメージ変換)詳細設定' has the following settings shown:

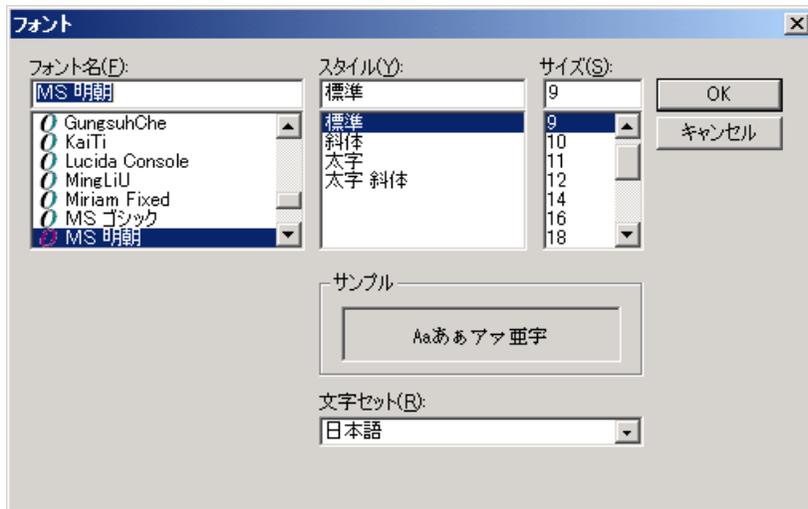
- プリンタタイプ: ODA, CENTRO
- CRコード動作指定: 復帰のみ, 復帰+改行
- 最大印字桁数: 136, 最大印字行数: 66
- バッファフル印字動作指定: 復帰のみ, 復帰+改行
- 初期化コード: 追加コード
- 終了コード: 追加コード

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
プリンタタイプ	・ODA ・CENTRO	プリンタの出力タイプを指定します。 ODA : ANK:半角:全角=1:1:2 CENTRO : ANK:半角:全角=1:0.75:1.5	CENTRO
CRコード動作指定	・復帰のみ ・復帰+改行	印字データに CR(OD ₁₆)コードが指定された場合の動作を指定します。 復帰のみ: CRコード受付時、印字位置を行の先頭へ移動します。 復帰+改行: CRコード受付時、印字位置を行の先頭へ移動し、改行します。	復帰のみ
最大印字桁数	桁数	1行の最大印字桁数を指定します。	136
最大印字行数	行数	1ページの最大印字行数を指定します。	66
バッファフル印字動作指定	・復帰のみ ・復帰+改行	1行分の印字データが最大印字桁数を越えた場合の動作を指定します。 復帰のみ: 印字位置を行の先頭へ移動します。 復帰+改行: 印字位置を行の先頭へ移動し、改行します。	復帰+改行
初期化コード・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES: プリンタ出力開始時に、指定した制御コードを追加出力します。(注) NO: 制御コードを追加出力しません。	NO
終了コード・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES: プリンタ出力終了時に、指定した制御コードを追加出力します。(注) NO: 制御コードを追加出力しません。	NO

(注) 追加する制御コードを記述したテキストファイル名を、続くテキストボックスに入力します。

[フォント指定] のボタンで印字に使用するフォントを指定します。
 書体の種類は、必ず「日本語」を指定してください。
 (なお、コード変換テーブルを使用する設定の場合は、コード変換テーブルで指定した
 フォントで印刷するため、この設定は無視されます。)



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
フォント名	Windows で組み込んだフォント名がパラメータとして表示されます。	表示するフォント名を指定します。新しいフォントを選ぶと [サンプル] 欄にそのフォントが表示されます。回転特性のあるフォントは未サポートです。動作は保証していません。	MS 明朝
スタイル	<ul style="list-style-type: none"> 標準 斜体 太字 太字 斜体 	本設定は無効。	標準
サイズ	フォントサイズのパラメータは、フォントによって異なります。	本設定は無効。	9 (既定値は変わる場合があります)
書体の種類	フォントの言語が表示されます。	必ず「日本語」を選択します。	日本語 (既定値は変わる場合があります)

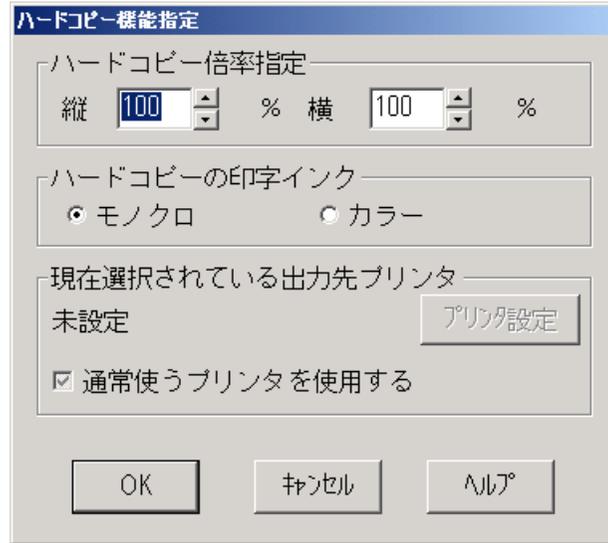
5.6.9 プリンタ情報を設定する(UA パス)

UA パス使用時のプリンタ情報の設定は、DCS プリンタにて行います。
詳細は、「UA パスプリンタ設定」を参照して下さい。

5.6.10 ハードコピー機能を指定する

グラフハードコピーの倍率およびハードコピーの印字インクを指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [ハードコピー機能指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② パラメータを入力する。
[ハードコピー機能指定] ダイアログボックスが、オープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。



- (注意) 出力先プリンタは指定できません。
既定値はクライアントで指定されている「通常使うプリンタ」となります。
それ以外のプリンタに出力したい場合は、ActiveX 版起動後、
[オプション] メニューの [ハードコピー機能指定] にてプリンタを変更してください。

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
ハードコピー倍率指定	・縦倍率 ・横倍率	ハードコピーの縦横倍率を指定します。倍率は、フォントサイズ 10 P を 100% とし、10% 単位で指定します。有効範囲は、10%～990% です。なお、フォントの種類により指定可能なサイズが異なります。	縦 100% 横 100%
ハードコピーの印字インク	・モノクロ ・カラー	白黒印字かカラー印字かを指定します。	モノクロ
現在選択されている出力先プリンタ	プリンタ名	現在選択されているプリンタを表示します。	未設定
通常使うプリンタ	<input checked="" type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO	出力先プリンタを Windows で設定されている「通常使うプリンタ」に出力するかどうか指定します。 YES : Windows で指定された「通常使うプリンタ」に出力します。 NO : 現在選択されているプリンタに出力します。	YES

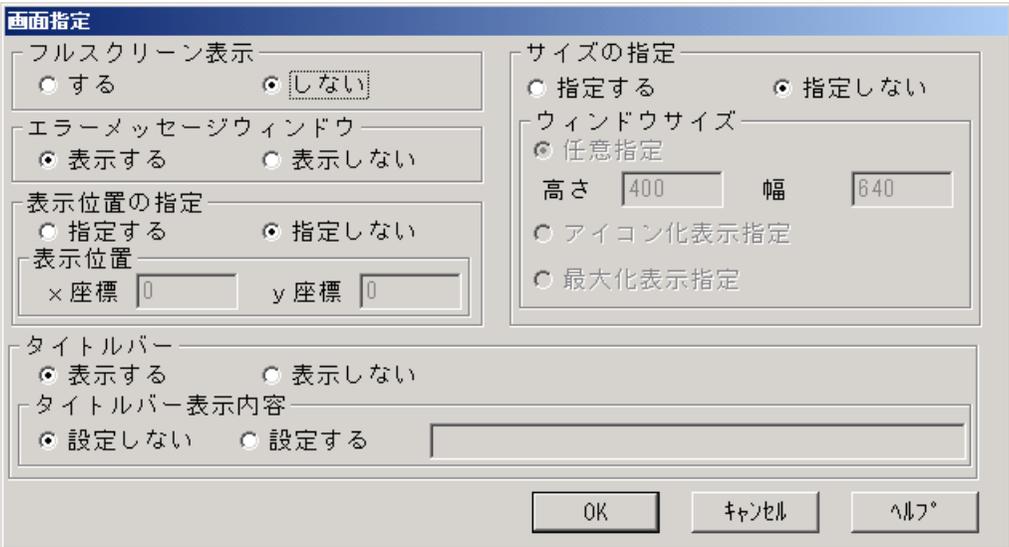
③ [OK] ボタンを押す。

設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

5.6.11 クライアント起動時の表示情報を指定する

ETOSWEB SERVER クライアント起動時のウィンドウ表示位置と表示情報を指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [画面指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② [画面指定] メニューを選択する。
- ③ パラメータを入力する。
「画面指定」ダイアログボックスがオープンします。各パラメータの説明に従い、パラメータを設定してください。



画面指定

フルスクリーン表示
 する しない

エラーメッセージウィンドウ
 表示する 表示しない

表示位置の指定
 指定する 指定しない

表示位置
x座標 y座標

サイズの指定
 指定する 指定しない

ウィンドウサイズ
 任意指定
高さ 幅

アイコン化表示指定
 最大化表示指定

タイトルバー
 表示する 表示しない

タイトルバー表示内容
 設定しない 設定する

OK キャンセル ヘルプ

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
フルスクリーン表示	・する ・しない	する：起動時にディスプレイ全体に表示します。なお、タイトルバーおよびメニューは表示されません。(注1) しない：ウィンドウ表示で起動します。ウィンドウ表示位置およびウィンドウサイズは、指定により異なります。	しない
エラーメッセージウィンドウ	・表示する ・表示しない	表示する：エラーが発生した時、エラーメッセージをポップアップウィンドウで表示します。 表示しない：エラーが発生した時、エラーメッセージを表示しません。(注2)	表示する
表示位置の指定	・指定する ・指定しない	指定する：起動時のウィンドウ表示位置を指定します。 指定しない：起動時のウィンドウ表示位置を指定しません。表示位置は Windows によって制御されます。	指定しない
表示位置	x 座標 y 座標	ウィンドウ表示位置を指定する時にウィンドウの左上の座標を指定します。	x 座標：0 y 座標：0
サイズの指定	・指定する ・指定しない	ウィンドウサイズを指定するかしないかを指定します。(注3) 指定する：起動時のウィンドウサイズを指定します。 指定しない：起動時のウィンドウサイズを指定しません。	指定しない
ウィンドウサイズ	・任意指定 ・アイコン化表示指定 ・最大化表示指定	起動時のウィンドウの状態を指定します。任意指定を選択した場合は、ウィンドウのサイズを指定します。(注4)	任意指定 高さ：640 幅：400
タイトルバー	・表示する ・表示しない	起動時、タイトルバーを表示するか指定します。	表示する
タイトルバー表示内容	・設定しない ・設定する	設定しない：起動時にリソース名をタイトルバーに表示します。 設定する：起動時に、続くテキストボックスに入力した文字をタイトルバーに表示します。	設定しない

(注1) 起動時にマウスカーソルは、画面右下へ位置付きます。

(注2) エラーコードはステータスバーにも表示されます。エラーメッセージを表示しない場合、[ヘルプ]メニューの[エラー詳細]を選択すると、エラーの内容を確認することができます。

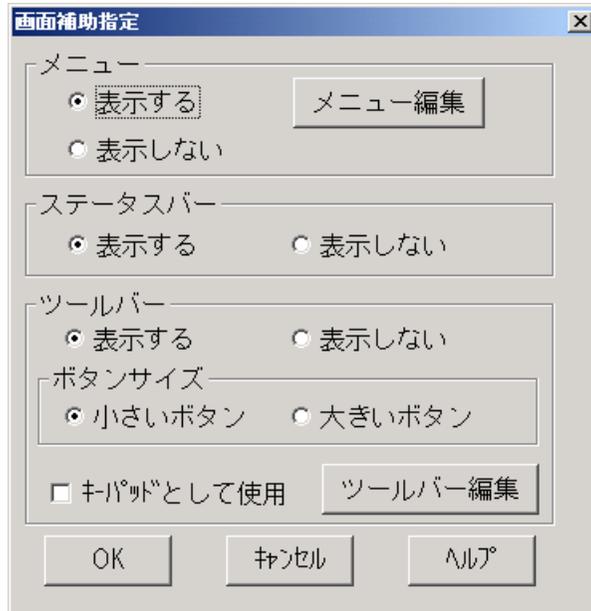
(注3) ウィンドウサイズは、フォント指定(可変/固定、フォントサイズ)によって異なります。可変フォントの場合、ウィンドウサイズを指定するとフォントサイズを補正して表示します。

(注4) ETOS 画面の仕様(80桁×24行、80桁×48行)により、設定した値に一番近い値でウィンドウ表示します。

5.6.12 クライアント起動時の画面補助機能をカスタマイズする

クライアント起動時のメニュー、ステータスバー、ツールバーの表示情報を指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [画面指定] を選ぶ。
- ② [画面補助指定] メニューを選択する。
- ③ パラメータを入力する。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
メニュー	・表示する ・表示しない	表示する：メニューを表示します。メニューの編集も可能です。 表示しない：メニューを表示しません。	表示する
ステータスバー	・表示する ・表示しない	表示する：ステータスバーを表示します。 表示しない：ステータスバーを表示しません。	表示する
ツールバー	・表示する ・表示しない	表示する：ツールバーを表示します。表示するツールバーの編集も可能です。 表示しない：ツールバーを表示しません。	表示する
ボタンサイズ	・小さいボタン ・大きいボタン	ツールバーで表示するボタンのサイズを指定します。	小さいボタン
キーパッドとして使用	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES：ツールバーをポップアップウィンドウとして ETOS 画面から切り離して起動します。 NO：ツールバーを ETOS 画面にドッキングさせて起動します。	NO

④ メニューの編集を行う。

[画面補助指定] ダイアログで [メニュー編集ボタン] を選択し、パラメータを設定します。

(本画面をメニューカスタマイズ メイン画面と呼びます)

メニューのカスタマイズ			
メニュー名	表示	使用	表示メニュー
送信	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	送信 詳細
セッション	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	セッション 詳細
ファイル転送	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	ファイル転送 詳細
簡易操作	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	簡易操作 詳細
編集	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	編集 詳細
表示	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	表示 詳細
マクロ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	マクロ 詳細
オプション	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	オプション 詳細
ヘルプ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	ヘルプ 詳細

送信機能 既定値 OK キャンセル ヘルプ 前画面 次画面

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
表示		YES : 該当するメニューを表示します。 NO : 該当するメニューを表示しません。	YES
使用	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES : メニューに割り当てられた機能をメニューから選択可能とします。なお「表示」項目で「NO」を選択した場合はここで「YES」を選択しても無効となります。 NO : メニューに割り当てられた機能をメニューから選択不可とします。	YES
表示メニュー	なし	ウィンドウのメニューに表示される文字列を指定します。指定できる文字の長さは最大半角 27 文字 (全角 13 文字) です。	それぞれ左端に表示されているメニュー名

[既定値] ボタンを押すと全てのパラメータが既定値にリセットされます。

[詳細] ボタンを押すと、該当メニューの下位レベルのメニューコマンドに対するカスタマイズのダイアログボックスが表示されます。メニューカスタマイズメイン画面での設定と同様にパラメータを設定してください。

送信メニューのカスタイズ 1 / 5			
メニュー名	表示	使用	表示メニュー
PF 1	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 1 <input type="button" value="詳細"/>
PF 2	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 2 <input type="button" value="詳細"/>
PF 3	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 3 <input type="button" value="詳細"/>
PF 4	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 4 <input type="button" value="詳細"/>
PF 5	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 5 <input type="button" value="詳細"/>
PF 6	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 6 <input type="button" value="詳細"/>
PF 7	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 7 <input type="button" value="詳細"/>
PF 8	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 8 <input type="button" value="詳細"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="button" value="詳細"/>

送信機能 既定値 キャンセル 戻る 前画面

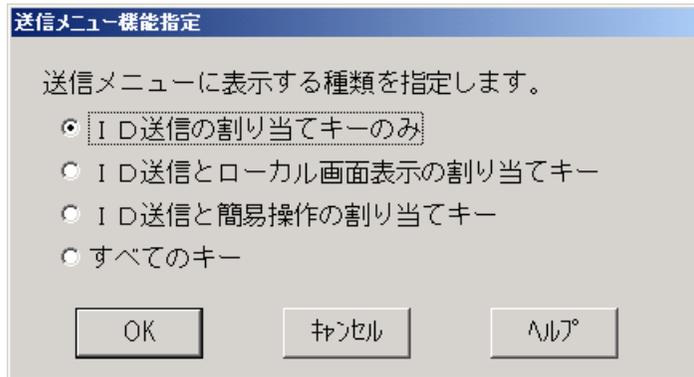
[既定値] ボタンを押すと全てのパラメータが既定値にリセットされます。
同一レベルのメニューコマンドが多数存在する場合 [次画面] ボタンが表示されます。

[次画面] ボタンを押すと、次のメニューコマンド画面が表示されます。この場合、[前画面] ボタンが表示されますので、[前画面] ボタンを押すことにより前のメニューコマンド画面へ戻ることができます。

送信メニューのカスタイズ 2 / 5			
メニュー名	表示	使用	表示メニュー
PF 9	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 9 <input type="button" value="詳細"/>
PF 10	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 10 <input type="button" value="詳細"/>
PF 11	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 11 <input type="button" value="詳細"/>
PF 12	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 12 <input type="button" value="詳細"/>
PF 13	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 13 <input type="button" value="詳細"/>
PF 14	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 14 <input type="button" value="詳細"/>
PF 15	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 15 <input type="button" value="詳細"/>
PF 16	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 16 <input type="button" value="詳細"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="button" value="詳細"/>

送信機能 既定値 キャンセル 戻る 前画面

メニューカスタマイズメイン画面で [送信機能] ボタンを押すと [送信メニュー機能指定] ダイアログボックスがオープンします。



[送信メニュー機能指定] ダイアログボックスでは、送信メニューに表示する設定内容を指定します。送信メニューで表示する形式を選択し、[OK] ボタンを押してください。メニューカスタマイズメイン画面で [OK] ボタンを押すと、設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面へ戻ります。

- ⑤ ツールバーを編集する
 [画面補助指定] ダイアログで [ツールバー編集] ボタンを選択し、使用するツールバーの登録/編集を行います。



- ツールバーにボタンを登録する
 [登録一覧] の登録する位置にカーソルを合わせます。
 [アイテム一覧] の登録するボタンにカーソルを合わせます。
 [←挿入] ボタンを選択し、ボタンを登録します([アイテム一覧] の登録するボタンのダブルクリックでも登録できます)。
- ツールバーからボタンを削除する
 [登録一覧] の削除する位置にカーソルを合わせます。
 [→削除] ボタンを選択し、ボタンを削除します([登録一覧] の削除するボタンのダブルクリックでも削除できます)。
- ツールバーのボタンの位置を移動する
 [登録一覧] の移動したいボタンにカーソルを合わせます。
 [↑へ移動] または [↓へ移動] ボタンを選択し、ボタンを移動します。
- ツールバーの設定を既定値へ戻す
 [既定値] ボタンを押します。

各パラメータの説明

項目名	説明
登録一覧	ツールバーで表示するボタンの一覧です。
アイテム一覧	ツールバーに登録可能なボタンの一覧です。 既に登録済みのボタンは表示されません。

各アイテムの説明

- ※ IME モード切替はツールバーから無くなりました
ETOS 画面の制御領域の「R」/「か」をダブルクリックすることで変更できます。

キー名称	ボタン	機能	既定値
ツールバー/ キーパッド 切替		登録したボタンをツールバーとして表示するか、キーパッドとして表示するかを切り替えます。	登録一覧
実行/送信		画面データを送信します。 (実行/送信キーと同じ動作)	
PF1 ～ PF15	 ～ 	PF1～PF15 機能を実行します。 (プログラムファンクションキー (PF1～PF15) と同じ動作)	
I II III	  	I、II、IIIキーを送信します。 (I、II、IIIキーと同じ動作) (注1)	
マクロ実行		[マクロファイルを選択] ダイアログを表示し、ここで指定したマクロを実行します。	
マクロ実行 (記録) 終了		<ul style="list-style-type: none"> マクロ実行中の場合、実行中のマクロを強制終了します。 マクロ記録中の場合、[マクロファイルの保存] ダイアログを表示し、操作内容を保存します。 	
マクロ 記録開始		マクロの記録を開始します。 このボタン押下後、マクロ記録終了ボタンを押すまでの操作が記録可能です。	
スナップショット ダンプ		スナップショットダンプを採取します。 障害発生時に資料を採取する際に使用します。	
パラメータ 情報保存		ETOSWEB SERVER ActiveX 版の現在の設定情報をクライアント固有の情報として PG ファイルに保存します。 (Ctrl+Sと同じ動作)	

キー名称	ボタン	機能	既定値
PF16 ～ PF24	 ～ 	PF16～PF24 機能を実行します。 (プログラムファンクションキー (PF16～PF24)と同じ動作) (注1)	アイテム一覧
割込		COMI-2 パスのファイル転送を中断します。 (割込キーと同じ動作)	
全項消去		全項目内の文字を消去します。 (全項消去キーと同じ動作)	
全消去 (クリア)		画面をクリアし、不定様式にします。 (全消去(クリア)キーと同じ動作)	
項消去		項目内の文字を消去します。 (項消去キーと同じ動作)	
チェック オフ		フィールドのチェックキーを無効にします。 (チェックオフキーと同じ動作)	
コマンド 入力		[コマンド入力] ダイアログを表示します。 (コマンド入力キーと同じ動作)	
COPY-ID		COPY キーID を送信します。 (注2)	
HELP-ID		HELP キーID を送信します。 (HELP ID キーと同じ動作) (注2)	
STOP-ID		STOP キーID を送信します。 (STOP ID キーと同じ動作) (注2)	
DEV CANCEL		DEV CANCEL キーID を送信します。 (DEV CANCEL キーと同じ動作) (注1)	
ERASE EOF		ERASE EOF キーID を送信します。 (ERASE EOF キーと同じ動作) (注1)	
IDENT		IDENT キーID を送信します。 (IDENT キーと同じ動作) (注1)	
復改		次行以降の入力フィールドに移動します。 (復改キーと同じ動作)	

キー名称	ボタン	機能	既定値
リセット		エラー表示のリセットを行います。 (リセットキーと同じ動作)	アイテム一覧
再開		中断していた処理を再開します。 (再開キーと同じ動作)	
セッション 切換		[セッション切換] ダイアログを表示します。 (セッション切換キーと同じ動作) (注1)	
ローカル画面 表示		[ローカル画面の表示(番号指定)] ダイアログを 表示し、ここで指定した番号のローカル画面を表示 します。	
ハードコピー (文字)		文字のハードコピーを取ります。 (HCOPY 文字と同じ動作)	
ハードコピー (すべて)		全情報のハードコピーを取ります。 (HCOPY 文字+罫線+グラフと同じ動作)	
ハードコピー (文字+罫線)		文字+罫線のハードコピーを取ります。 (HCOPY 文字+罫線と同じ動作)	
ハードコピー (グラフ)		グラフのハードコピーを取ります。 (HCOPY グラフと同じ動作)	
簡易操作実行		[簡易操作ファイルを選択] ダイアログを表示し、 ここで指定した簡易操作を実行します。	
簡易操作終了		簡易操作を強制終了します。	
複写		指定範囲の文字をクリップボードへコピーします。	
貼り付け		クリップボード上の文字を画面へ貼り付けます。 [編集] メニュー [文字貼り付け] メニューコマン ドの [項目] を選択した場合と同一の結果が得られ ます。	
カーソル右 移動		カーソルを1桁右へ移動します。 (カーソル右移動キーと同じ動作)	
カーソル左 移動		カーソルを1桁左へ移動します。 (カーソル左移動キーと同じ動作)	
カーソル下 移動		カーソルを1行下へ移動します。 (カーソル下移動キーと同じ動作)	
カーソル上 移動		カーソルを1行上へ移動します。 (カーソル上移動キーと同じ動作)	

キー名称	ボタン	機能	既定値
バックスペース		カーソル位置の 1 桁前の文字を削除します。 (バックスペースと同じ動作)	アイテム一覧
スキップ		次の入力フィールドに進みます。 (Skip と同じ動作)	
バックスキップ		前の入力フィールドに戻ります。 (BackSkip と同じ動作)	
挿入モード変更		挿入／上書きの切り替えを行います。 (挿入キーと同じ動作)	
削除		カーソル位置の文字を 1 文字削除します。 (削除キーと同じ動作)	
HOME		先頭の入力フィールドに移動します。 (カーソルホームキーと同じ動作)	
TAB		入力フィールドでの入力を終了します。 (TAB と同じ動作)	アイテム一覧
優先機能変更		優先機能(SW 状態)を変更します。 (SW キーと同じ動作) (注 3)	
パラメータ変更		[パラメータ変更] ダイアログを表示します。 (パラメータ変更キーと同じ動作)	
強制終了		ETOSWEB SERVER ActiveX 版を強制終了します。 (プログラム終了キーと同じ動作)	

(注1) IBM エミュレートモード時のみ使用可能か、通常と異なる機能となります。
IBM エミュレートモードについてはホスト側サポート状況等を確認してください。

(注2) ホスト側で本 ID をサポートしているか確認が必要です。

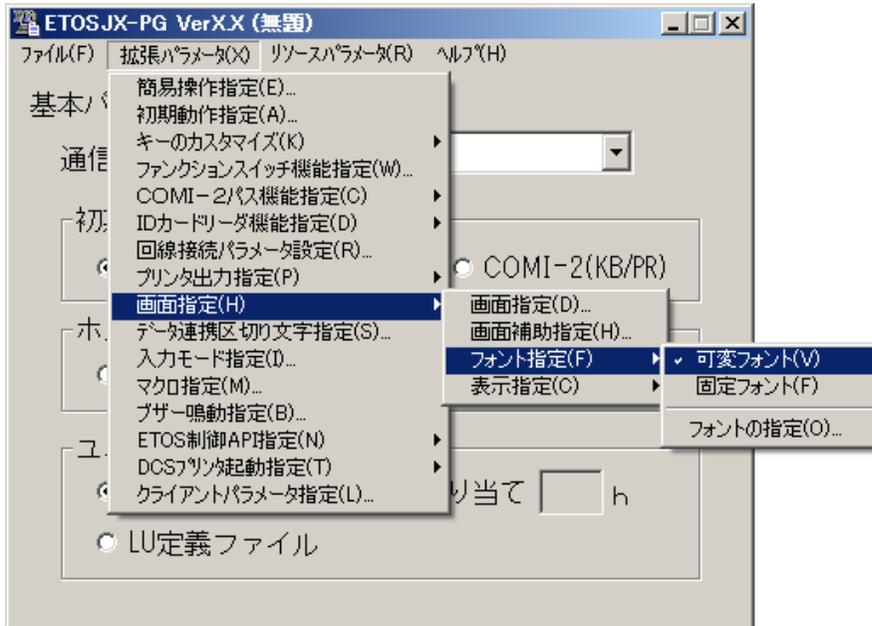
(注3) SW 状態は、制御領域に表示します。SW 状態による優先順位は以下の通りです。

SW 状態表示	高	←	優先順位	→	低
表示なし	マクロ		簡易操作	ローカル画面	ID 送信
SW (MET)	マクロ		簡易操作	ローカル画面	ID 送信
SW (EOP)	簡易操作		マクロ	ローカル画面	ID 送信
SW (GFM)	ローカル画面		マクロ	簡易操作	ID 送信
SW (ID)	ID 送信		マクロ	簡易操作	ローカル画面

5.6.13 表示フォントを指定する

ETOS 画面表示で使用されるフォントを指定します。

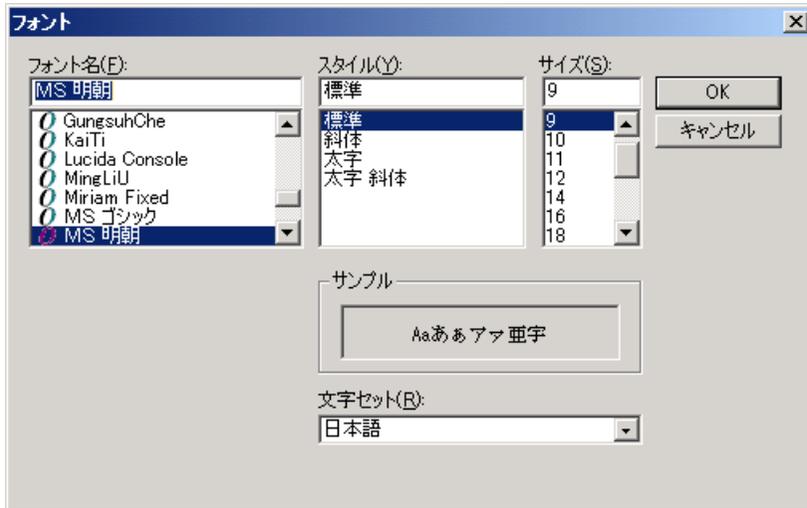
- ① [拡張パラメータ] メニューの [画面指定] メニューコマンドを選択する。
- ② 可変フォントを指定する場合には [フォント指定] メニューの可変フォントを選択する。
[可変フォント] メニューにチェックマークが付加され基本パラメータ入力画面に戻ります。
- ③ 固定フォントを指定する場合には [フォント指定] メニューの固定フォントを選択する。
[固定フォント] メニューにチェックマークが付加され基本パラメータ入力画面に戻ります。



- ④ フォントを指定する場合には、[フォント指定] メニューの [フォントの指定] メニューを選択する。

⑤ パラメータを入力する。

[フォントの指定] ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力して下さい。
書体の種類は必ず「日本語」を選択してください。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
フォント名	Windows で組み込んだフォント名が表示されます。	画面表示に使用するフォント名を指定します。新しいフォントを選ぶと [サンプル] 欄にそのフォントが表示されます。回転特性のあるフォントは未サポートです(指定しないでください)。	MS 明朝
スタイル	<ul style="list-style-type: none"> 標準 斜体 太字 太字 斜体 	フォントのスタイルを指定します。斜体、太字および太字 斜体は未サポートです。	標準
サイズ	フォントサイズのパラメータは、フォントによって異なります。	フォントのサイズを指定します。既定値は変わる場合があります。	9
書体の種類	フォントの言語が表示されます。	必ず「日本語」を選択します。既定値は変わる場合があります。	日本語

⑥ [OK] ボタンを押す。

設定したパラメータが保存され基本パラメータ入力画面に戻ります。

(注意) ActiveX 版起動時に、ETOSJX-PG で登録したフォントが Windows システム上にない場合には、システムで指定されているフォントを画面に表示します。
なお、MS 明朝およびMS ゴシックのフォントは必ず必要となりますので、削除しないでください。

5.6.14 画面表示色を指定する

(1) 画面のテキストの色指定を行う

- ① [拡張パラメータ] メニューの [画面指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② [表示指定] メニューの [テキスト表示指定] メニューを選択する。
[テキスト表示指定] ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力して下さい。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
背景色	・黒	画面の背景色を指定します。	黒
罫線色	・赤	画面の罫線色を指定します。	緑
テキスト表示色	・青 ・マゼンタ ・緑 ・黄 ・シアン ・白 ・暗いグレー ・暗い赤 ・暗い青 ・暗いマゼンタ ・暗い緑 ・茶 ・暗いシアン ・明るいグレー	テキスト表示色を指定します。 ETOS画面で使用するテキスト表示色を変更する場合、基本色7色に対してそれぞれ任意の色を指定します。 テキスト表示色は、テキスト背景色とは別の色にしてください。	赤：赤 青：青 マゼンタ：マゼンタ 緑：緑 黄：黄 シアン：シアン 白：白

- ③ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

(2) ブリンキング表示の指定を行う

- ① [拡張パラメータ] メニューの [画面指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② [表示指定] メニューの [ブリンキング表示指定] メニューを選択する。
[ブリンキング表示指定] ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力して下さい。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
表示方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ブリンキング表示 ・リバース表示 ・網掛け表示 	ブリンキング表示の表示方法を指定します。	網掛け表示
表示範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールド全体 ・文字のみ 	リバース表示、または網掛け表示を行う範囲を指定します。 文字のみを選択した場合、対象はブリンキングフィールド内の文字のみとなります(△、NULLは対象外)。	フィールド全体
網掛け表示色	<ul style="list-style-type: none"> ・黒 ・赤 ・青 ・マゼンタ ・緑 ・黄 ・シアン ・白 ・暗いグレー ・暗い赤 ・暗い青 ・暗いマゼンタ ・暗い緑 ・茶 ・暗いシアン ・明るいグレー 	網掛けの色を指定します。	白

- ③ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
背景色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 黒 ・ 白 	グラフ画面の背景色を指定します。	黒
グラフ表示色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 黒 ・ 赤 ・ 青 ・ マゼンタ ・ 緑 ・ 黄 ・ シアン ・ 白 ・ 暗いグレー ・ 暗い赤 ・ 暗い青 ・ 暗いマゼンタ ・ 暗い緑 ・ 茶 ・ 暗いシアン ・ 明るいグレー 	グラフ表示色を指定します。ETOS 画面で使用するグラフ表示色を変更する場合、基本色 7 色に対してそれぞれ任意の色を指定します。グラフ表示色は、グラフ背景色とは別の色にしてください。	赤：赤 青：青 マゼンタ：マゼンタ 緑：緑 黄：黄 シアン：シアン 白：白
グラフ表示モード	<ul style="list-style-type: none"> ・ 精細 ・ 高速 	グラフ描画を精細に行うか、高速に行うかを指定します。高速モードを指定した場合、表示される線種は制限されます(代替の線で表示されます)。	高速
グラフ解像度指定	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	グラフ表示時の解像度を指定します。 YES：以下のいずれかのグラフ解像度を指定します。 640×384：PC9800 DOS 互換モード 640×456：N5200/03 互換モード 1120×720：N5200/07 互換モード NO：グラフの解像度を指定しません。 Windows のディスプレイ解像度により、800×600 未満の場合は 640×384、800×600 以上の場合は 1120×720 となります。 (注) 倍画面モード(ファンクションスイッチ 2-8:0N)の時は 1120×1440 固定で動作します。	NO

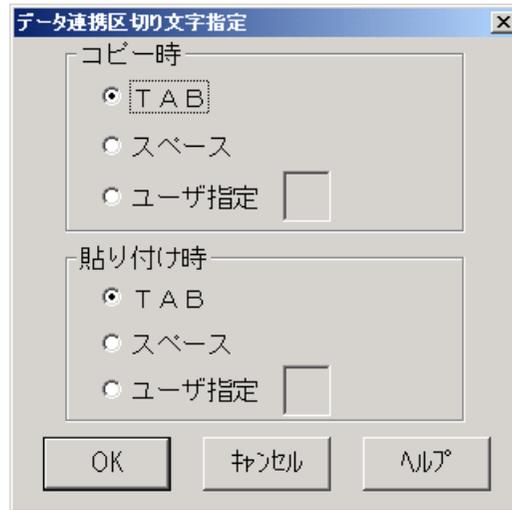
③ [OK] ボタンを押す。

設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

5.6.15 データ連携の区切り文字を指定する

文字列のコピー時および貼り付け時のフィールドの区切り文字を指定します。

- ① [拡張パラメータ]メニューの[データ連携区切り文字指定]メニューコマンドを選ぶ。
[データ連携区切り文字指定]ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
コピー時	<ul style="list-style-type: none"> • TAB • スペース • ユーザ指定 	文字列をクリップボードにコピーする時に、同一行内のフィールドの区切りとする文字を指定します。	TAB
貼り付け時	<ul style="list-style-type: none"> • TAB • スペース • ユーザ指定 	項目貼り付けをする時に、クリップボード内の文字列中にあるフィールドの区切りとする文字を指定します。	TAB

- ② [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

5.6.16 入力モードを指定する

ETOS 画面で文字入力する時の、動作方法を指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [入力モード指定] メニューコマンドを選ぶ。
[入力モード指定] ダイアログボックスが、オープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。

入力モード指定

先行打鍵機能

使用する 使用しない

IME制御

かな入力指定

無効 有効

入力モード

ローマ字 かな

漢字フィールドかな漢起動

起動する 起動しない

ANKフィールドかな漢自動終了

終了する 終了しない

ひらがな

継続入力

混在フィールドかな漢自動終了

終了する 終了しない

N5200系既定値 既定値 OK キャンセル ヘルプ

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
先行打鍵機能	・使用する ・使用しない	使用する：入力不可状態でキー入力されたデータを入力可能な状態まで保留します。 使用しない：入力不可状態ではキー入力は無効です。	使用しない
IME 制御 (注 1)	<input checked="" type="checkbox"/> :YES <input type="checkbox"/> :NO	YES：カナシフト指定、入力モード、漢字フィールドかな漢起動、ANK フィールドかな漢自動終了、混在フィールドかな漢自動終了の設定を有効にします。 No：カナシフト指定、入力モード、漢字フィールドかな漢起動、ANK フィールドかな漢自動終了、混在フィールドかな漢自動終了の設定を無効にします。	YES
カナシフト指定	・無効 ・有効	無効：カナシフトフィールド(注 2)に連動したカナシフトの制御を行いません。 有効：カナシフト指定フィールドにカーソルが位置付いた場合、カナ入力モードに変更します。また、カナシフト指定以外のフィールドにカーソルが位置付いた場合、カナ入力モードを解除します。(注 3)	無効
入力モード (注 4)	・ローマ字 ・かな	ローマ字：入力モードをローマ字入力に変更します。 かな：入力モードをかな入力に変更します。	ローマ字
漢字フィールドかな漢起動	・起動する ・起動しない	起動する：漢字フィールドにカーソルが位置付いた時、日本語入力システムを起動します。 起動しない：漢字フィールドにカーソルが位置付いても、日本語入力システムを起動しません。	起動しない
漢字フィールドかな漢起動 ・起動する	・ひらがな ・継続入力	上記で「起動する」を選択した場合、以下の設定を選択します。 ひらがな：漢字フィールドへ位置付く毎に入力文字を「ひらがな」にします。 継続入力：漢字フィールドへ位置付いた際に日本語入力システムを前回と同じ状態で起動します。	継続入力
ANK フィールドかな漢自動終了	・終了する ・終了しない	終了する：漢字フィールドでも混在フィールドでもないフィールドに位置付いた時、日本語入力システムを終了します。 終了しない：漢字フィールドでも混在フィールドでもないフィールドに位置付いても、日本語入力システムは終了しません。	終了する
混在フィールドかな漢自動終了	・終了する ・終了しない	終了する：混在フィールドに位置付いた時、日本語入力システムを終了します。 終了しない：混在フィールドに位置付いても、日本語入力システムは終了しません。	終了しない

(注1) Windows 8、Windows 10 および Windows Server 2012、Windows Server 2016 では、ETOSWEB SERVER の IME 制御を有効にすると、他のアプリケーションの IME の状態に影響することがあります。

問題がある場合は、ETOSWEB SERVER の IME 制御を無効にするか、アプリケーションごとに IME の状態を保持するよう OS の設定を変更してください。

- (注2) カナシフトフィールドについては、リファレンスマニュアル「アトリビュート文字」のATR3(アトリビュート3)を参照してください。
- (注3) 使用する日本語入力システムによっては、カナシフトフィールドに連動した制御を行えないことがあります。
- (注4) ETOSWEB SERVER の IME 制御を無効にした場合も、制御領域に入力モード(ローマ字/かな)が表示されますが、実際の入力モードは IME の動作状態に依存します(表示と一致しない場合があります)。
- (注意) 「付録 ETOSWEB SERVER 使用時の注意事項」 — 「文字の入力と画面表示に関する注意事項」も参照してください。

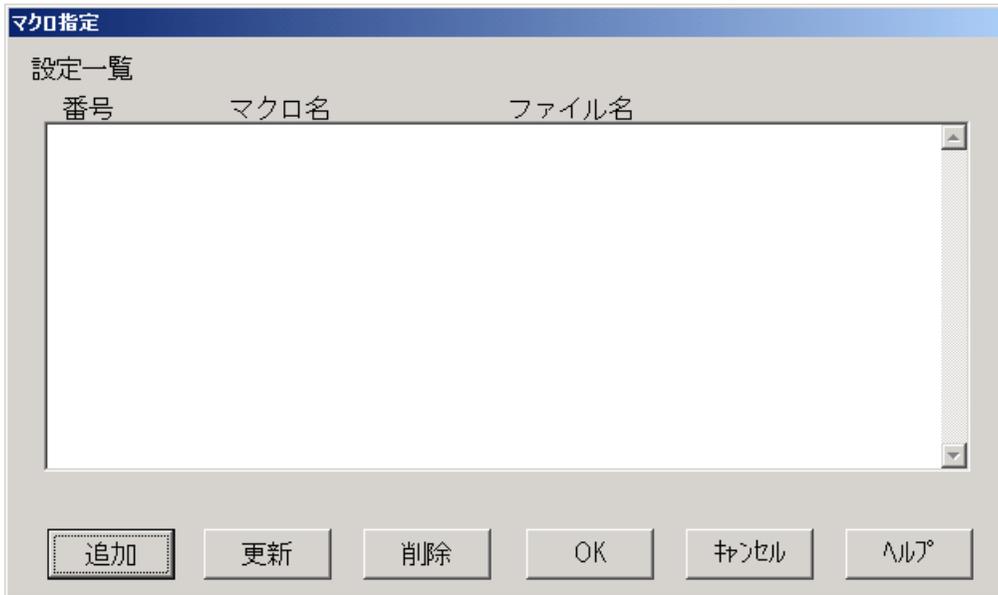
[既定値]、[N5200 系既定値] ボタンを押した時、全てのパラメータが以下の既定値に設定されます。

項目名	既定値	N5200 系既定値
先行打鍵機能	使用しない	使用しない
IME 制御	YES	YES
カナシフト指定	無効	有効
入力モード	ローマ字	ローマ字
漢字フィールドかな漢起動	起動しない	起動する(ひらがな)
ANK フィールドかな漢自動終了	終了する	終了する
混在フィールドかな漢自動終了	終了しない	終了する

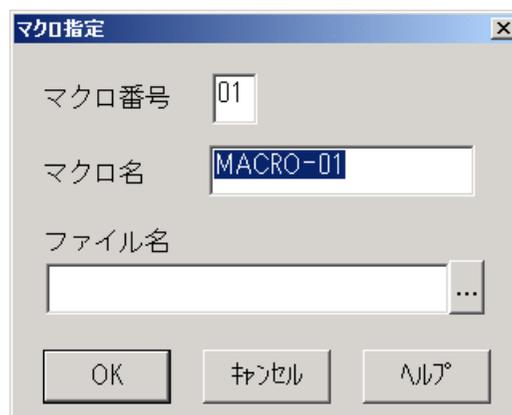
5.6.17 マクロファイルを指定する

マクロ機能のファイルの登録／削除を行います。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [マクロ指定] メニューコマンドを選ぶ。
[マクロ指定] ダイアログボックスがオープンします。
登録されているマクロの一覧が表示されます。



- ② マクロファイルを登録する場合は、[追加] ボタンを押す。
[マクロ指定] ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。
パラメータ入力後、[OK] ボタンを押してください。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
マクロ番号	なし	マクロ番号を指定します。マクロ使用時は、この番号を使用します。有効範囲は01～25です。	01～25
マクロ名	なし	マクロ番号に名前をつけます。マクロの名前は、16文字まで入力できます。	MACRO-01～ MACRO-25
ファイル名	なし	マクロファイル名を指定します。	なし

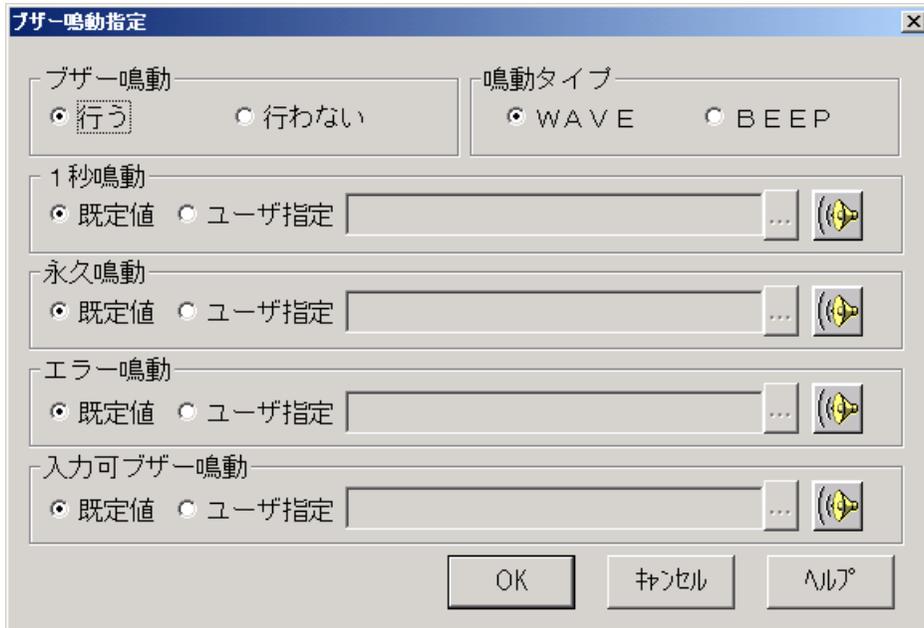
- ③ マクロ設定を変更する場合は、変更するマクロ番号にカーソルを合わせて、[更新] ボタンを押す。もしくは、変更するマクロ番号をダブルクリックする。
[マクロ指定] ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。
- ④ 登録されているマクロを削除する場合は、削除するマクロ番号にカーソルを合わせて、[削除] ボタンもしくは [Delete] キーを押す。
選択されているマクロが、一覧より削除されます。
- ⑤ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

(注意) マクロファイルはサーバ上に作成して下さい。
クライアント上に存在するマクロファイルを実行するには、ActiveX 版の [マクロ] メニューの [実行] - [ファイル名] からマクロファイルを直接実行してください。

5.6.18 ブザー鳴動を指定する

ActiveX版で使用するブザー音の設定を行います。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [ブザー鳴動指定] メニューコマンドを選ぶ。
 [ブザー鳴動指定] ダイアログボックスがオープンします。
 各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。
 また、 ボタンを押すと、ブザー音のテストが可能です。
 (永久鳴動のテストを終了させるには、 ボタンを押してください。)



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
ブザー鳴動	・行う ・行わない	ブザー鳴動を行うかどうかを指定します。	行う
鳴動タイプ	・WAVE ・BEEP	ブザー鳴動を行う音源を指定します。 スピーカが接続されていない場合、BEEP を選択してください。	WAVE
1秒鳴動	・既定値 ・ユーザ指定	IND コマンドで1秒鳴動指定の場合のブザー音を指定します。 ユーザ指定を選択した場合は、任意の WAVE ファイルを指定してください。	既定値
永久鳴動	・既定値 ・ユーザ指定	IND コマンドで永久鳴動指定の場合のブザー音を指定します。 ユーザ指定を選択した場合は、任意の WAVE ファイルを指定してください。	既定値
エラー鳴動	・既定値 ・ユーザ指定	エラー発生時のブザー音を指定します。 ユーザ指定を選択した場合は、任意の WAVE ファイルを指定してください。	既定値
入力可ブザー鳴動	・既定値 ・ユーザ指定	入力可指定の画面を受信した場合のブザー音を指定します。ファンクションスイッチ1のBIT6 をチェックした場合のみ有効となります。 ユーザ指定を選択した場合は、任意の WAVE ファイルを指定してください。	既定値

※WAVE ファイルが使用できない環境では BEEP 以外の設定は行えません。

② [OK] ボタンを押す。

設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

5.6.19 ETOS 制御 API 機能を指定する

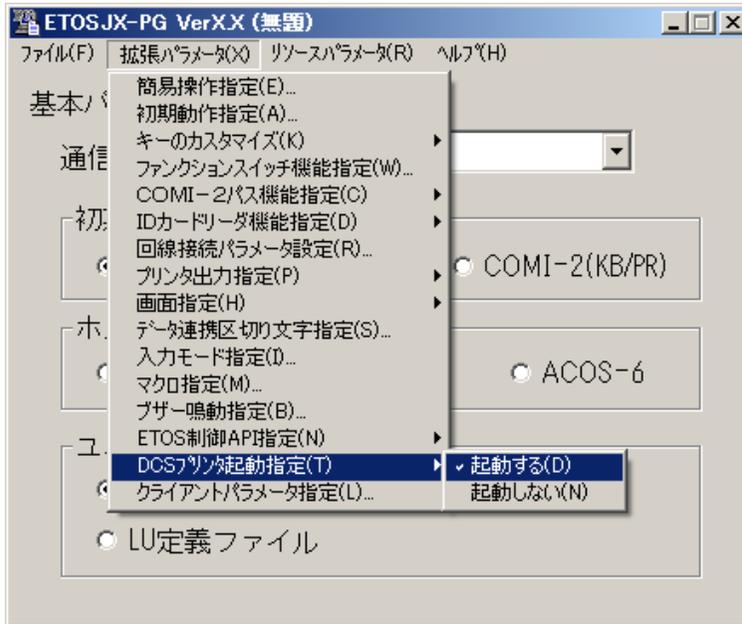
本設定は無効です。

- (重要) ETOS 制御 API 機能は利用できません。
ETOS 制御 API 機能が必要な場合は個別に対応いたしますので、弊社担当 SE もしくは担当営業にお問い合わせください。

5.6.20 DCS プリンタの起動を指定する

ActiveX 版クライアント起動時に DCS プリンタを起動するかどうかを指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [DCS プリンタ起動指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② DCS プリンタを起動する場合には [起動する] を選択する。
[起動する] メニューにチェックマークが付加され、基本パラメータ入力画面に戻ります。
- ③ DCS プリンタを起動しない場合には [起動しない] を選択する。
[起動しない] メニューにチェックマークが付加され、基本パラメータ入力画面に戻ります。

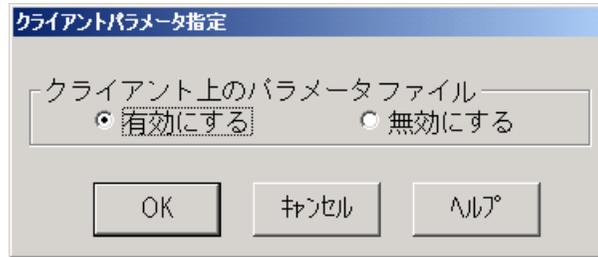


5.6.21 クライアントパラメータを指定する

ActiveX 版起動中に設定を変更し、クライアントにパラメータ情報(注 1)を保存してある場合、そのクライアントで ActiveX 版を起動した時に保存されたパラメータ情報を有効にするかどうかを指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [クライアントパラメータ指定] メニューコマンドを選ぶ。

[クライアントパラメータ指定] ダイアログボックスがオープンします。
クライアントに保存したパラメータファイルの有効/無効を指定してください。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
クライアント上のパラメータファイル	<ul style="list-style-type: none"> ・有効にする ・無効にする 	<p>クライアント上に保存されているパラメータファイルを ActiveX 版起動時に有効にするかどうかを指定します。</p> <p>有効にする：クライアント上に保存したパラメータ情報を ActiveX 版起動時に読み込みます。(注 2)</p> <p>無効にする：サーバ上のパラメータファイルのみを使用します(クライアント上に保存したパラメータ情報は使用しません)。</p>	有効にする

(注 1) 保存できる情報は ActiveX 版起動中に変更できる設定のみです。

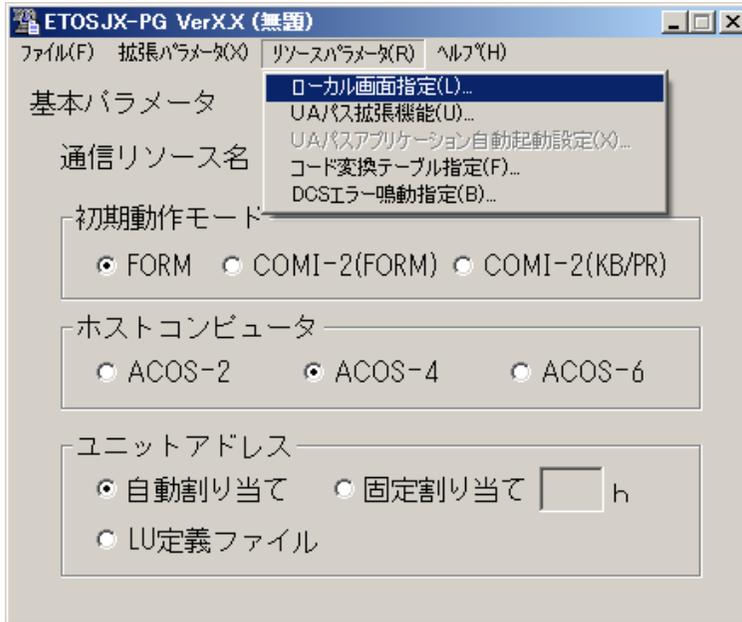
(注 2) ActiveX 版起動中に変更できる設定は、クライアント上にパラメータ情報を保存してある時はサーバ上で PG ファイルを更新しても反映されません。

5.7 リソースパラメータを入力する

リソースパラメータの設定を行います。

リソースパラメータは、[リソースパラメータ]メニューのメニューコマンドを使って設定します。

(注意)ETOSWEB SERVER では、UA パスアプリケーション自動起動指定は設定できません。



5.7.1 ローカル画面機能の指定をする

拡張ローカル画面の使用の有無、およびローカル画面ファイル名を指定します。

- ① [リソースパラメータ] メニューの [ローカル画面指定] メニューコマンドを選ぶ。
[ローカル画面指定] ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力して下さい。



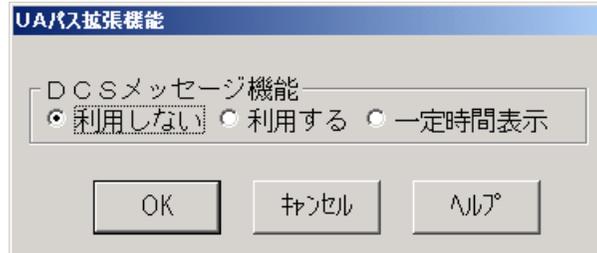
各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
拡張ローカル画面	・使用する ・使用しない	拡張ローカル画面の使用／不使用を指定します。	使用しない
ファイル名	なし	ローカル画面ファイルのファイル名を指定します。指定するファイルがカレントディレクトリにない場合には、ドライブやディレクトリも指定します。ローカル画面ファイル名は 255 文字まで入力できます。	GFORM00

5.7.2 UAパス機能を指定する

UAパスを使用する場合の各種機能の設定を行います。

- ① [リソースパラメータ] メニューの [UAパス拡張機能] メニューコマンドを選ぶ。
[UAパス拡張機能] ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
DCSメッセージ機能	<ul style="list-style-type: none"> ・利用しない ・利用する ・一定時間表示 	DCSからメッセージを表示するかを指定します。 利用しない：メッセージが表示されません。 利用する：メッセージが表示されます。 一定時間表示：メッセージが一定時間表示されます。	利用しない

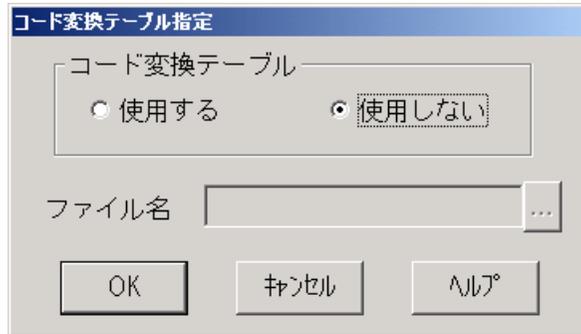
- ② [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

5.7.3 UA パスファイル受信終了時の自動起動アプリケーションを設定する

本機能は、ETOSWEB SERVER では設定できません。

5.7.4 コード変換テーブルを設定する

- ① [リソースパラメータ] メニューの [コード変換テーブル指定] メニューコマンドを選ぶ。
 [コード変換テーブル指定] ダイアログボックスがオープンします。
 各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
コード変換テーブル	・使用する ・使用しない	使用する：画面テキスト表示、グラフ文字表示、画面送信およびCOMI-2ファイル転送、COMI-2プリンタ出力におけるコード変換(JIPS↔シフトJIS)を、コード変換テーブルを使用して行います。本機能により、1文字単位のコードマッピングが可能となり、コード変換規則のカスタマイズが可能となります。 使用しない：画面テキスト、グラフ文字表示、画面送信および、COMI-2ファイル転送、COMI-2プリンタ出力におけるコード変換(JIPS↔シフトJIS)にコード変換テーブルを使用しません。	使用しない
ファイル名	なし	コード変換に使用するテーブルファイル名を指定します。テーブルファイルは、ETOSJXユーティリティのコード変換テーブル作成ツールで作成します。	なし

(注意) コード変換テーブルについては、「付録 コード変換テーブル」を参照してください。

- ② [OK] ボタンを押す。
 設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

5.7.5 DCSエラー鳴動を設定する

- ① [リソースパラメータ] メニューの [DCSエラー鳴動指定] メニューコマンドを選ぶ。
 [DCSエラー鳴動指定] ダイアログボックスがオープンします。
 各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。



各パラメータの説明

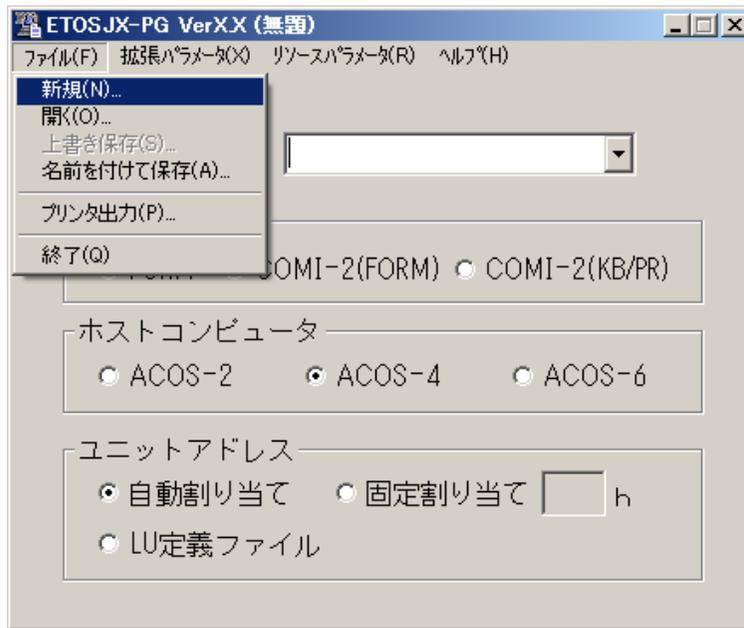
項目名	パラメータ	説明	既定値
DCS エラー鳴動	<ul style="list-style-type: none"> ・する ・しない 	<p>する：DCS(ローカル画面の書き込み等)でエラーが発生した場合、エラー表示と同時にブザー鳴動します。</p> <p>しない：DCS(ローカル画面の書き込み等)でエラーが発生しても、ブザー鳴動しません。</p>	しない

- ② [OK] ボタンを押す。
 設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

5.8 全パラメータに既定値をセットする

すべてのパラメータ(基本パラメータ、拡張パラメータ、リソースパラメータ)に既定値をセットします。

- ① [ファイル] メニューの [新規] メニューコマンドを選ぶ。



- ② 既定値をセットすることを確認するダイアログボックスがオープンする。



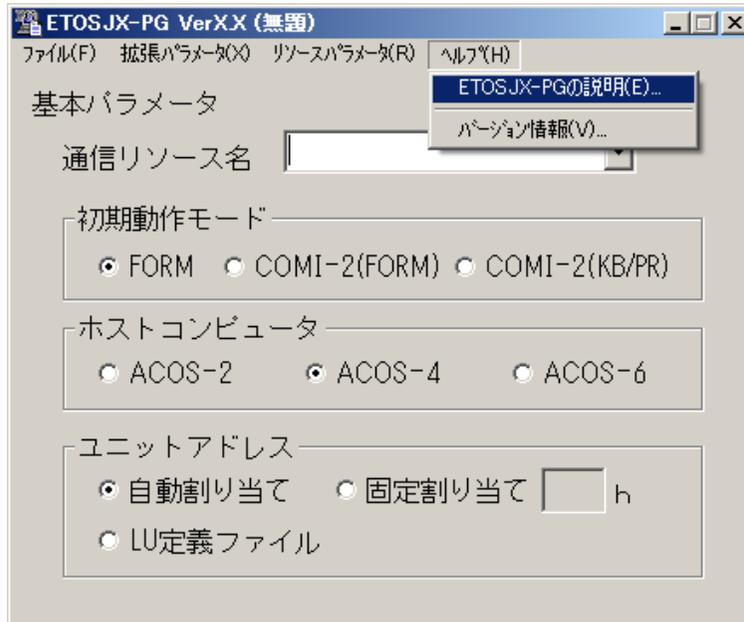
- ③ [OK] ボタンを押す。
すべてのパラメータに既定値をセットし、基本パラメータ入力画面に戻ります。

5.9 ヘルプを使う

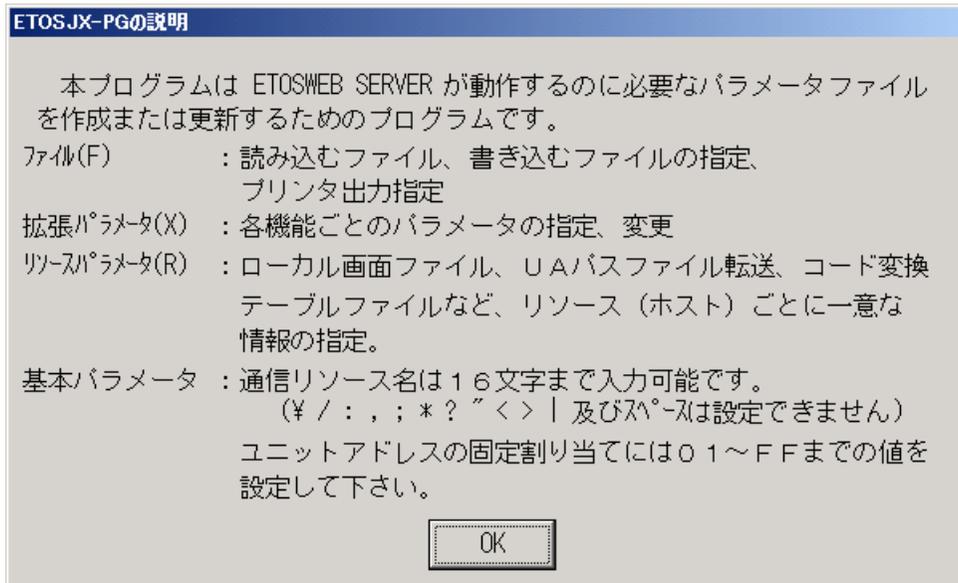
ETOSJX-PG のバージョン情報や操作方法は、ヘルプを使って調べることができます。

(1) ETOSJX-PG の説明を見る場合

- ① [ヘルプ] メニューの [ETOSJX-PG の説明] メニューコマンドを選ぶ。



- ② ETOSJX-PG の説明を確認する。
 [ETOSJX-PG の説明] ダイアログボックスがオープンします。



- ③ [OK] ボタンを押す。
 基本パラメータ入力画面に戻ります。

(2) ETOSJX-PG のバージョン情報を見る場合

- ① [ヘルプ] メニューの [バージョン情報] メニューコマンドを選ぶ。
 ② バージョン情報を確認する。
 [ETOSJX-PG のバージョン情報] ダイアログボックスがオープンします。
 バージョン情報を確認してください。



- ③ [OK] ボタンを押す。
 もとの画面に戻ります。

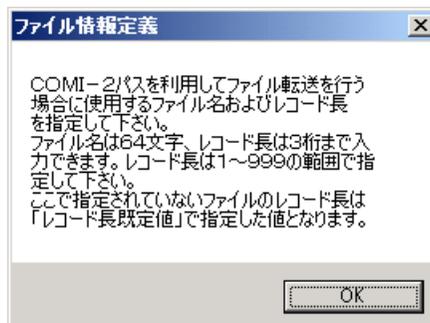
(3) ETOSJX-PG の操作方法を見る場合

- ① 各ダイアログボックス内の [ヘルプ] ボタンを押す。

ファイル情報定義			
ファイル名	レコード長	ファイル名	レコード長
FI00	...	FI10	...
FI01	...	FI11	...
FI02	...	FI12	...
FI03	...	FI13	...
FI04	...	FI14	...
FI05	...	FI15	...
FI06	...	FI16	...
FI07	...	FI17	...
FI08	...	FI18	...
FI09	...	FI19	...

レコード長既定値

- ② 操作方法を確認する。
ダイアログボックスがオープンします。
操作方法を確認してください。



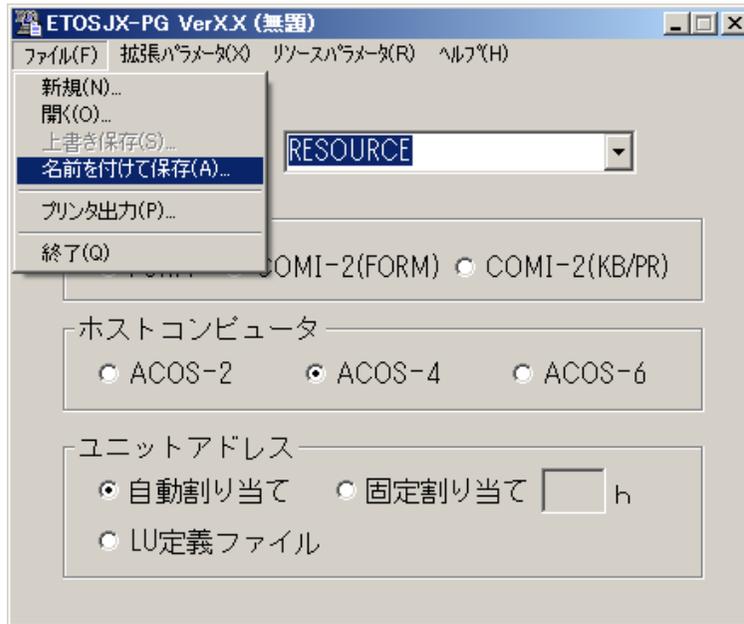
- ③ [OK] ボタンを押す。
もとの画面に戻ります。

5.10 作成したファイルを保存する

作成したパラメータファイルを保存します。

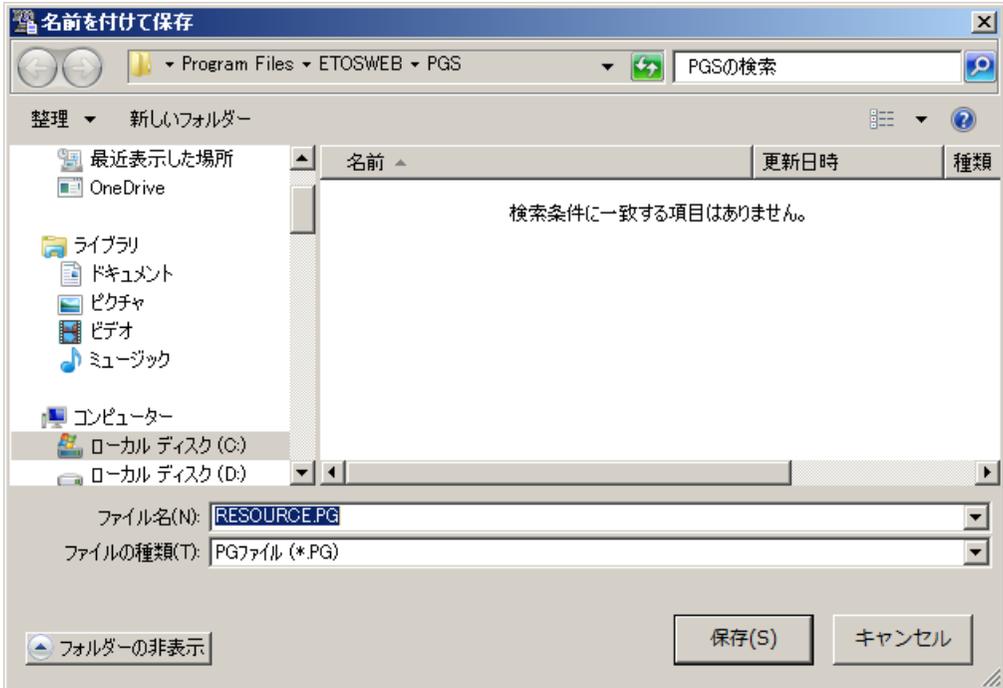
(1) 指定のファイル名で保存する

① [ファイル] メニューの [名前を付けて保存] メニューコマンドを選ぶ。



- ② 保存するファイルを指定する。
[名前を付けて保存] ダイアログボックスがオープンします。

[ファイル名] テキストボックスに、作成または更新したパラメータを保存するパラメータファイル名を入力してください。

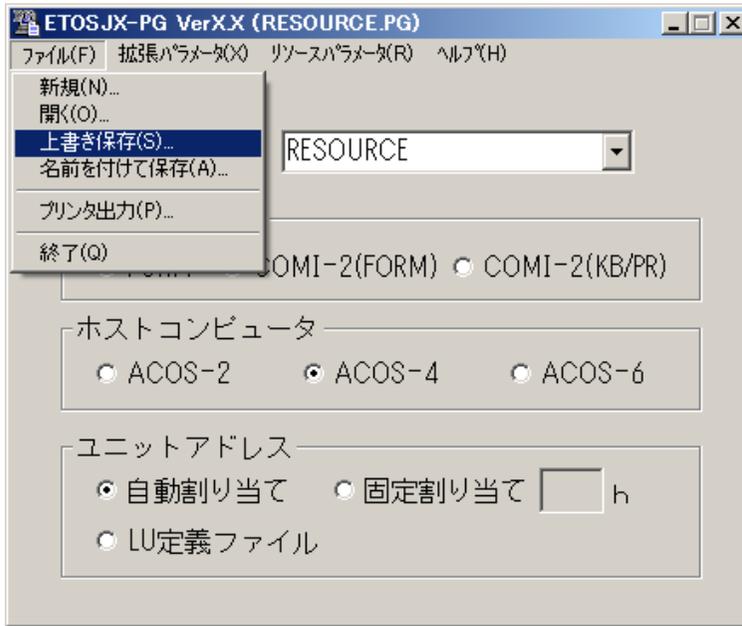


(注意)

PG ファイルは ETOSWEB SERVER インストールディレクトリ配下の“PGS”ディレクトリに保存してください。
それ以外のディレクトリに保存した場合、ActiveX 版を起動することができません。

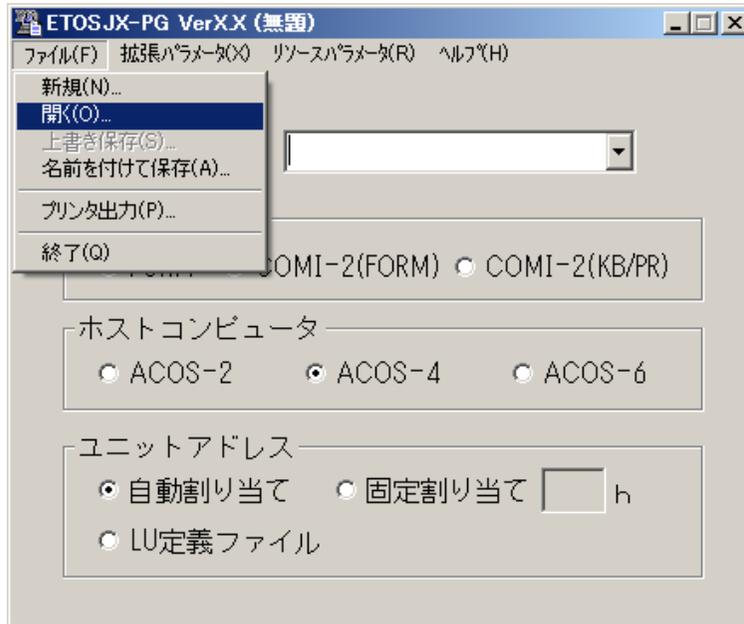
- ③ [保存] ボタンを押す。
新規作成または更新されたパラメータがパラメータファイルに保存され、基本パラメータ入力画面に戻ります。

- (2) 読み込んだファイルに上書きで保存する
[ファイル] メニューの [上書き保存] メニューコマンドを選ぶ。
読み込んだファイルに更新されたパラメータが保存されます。

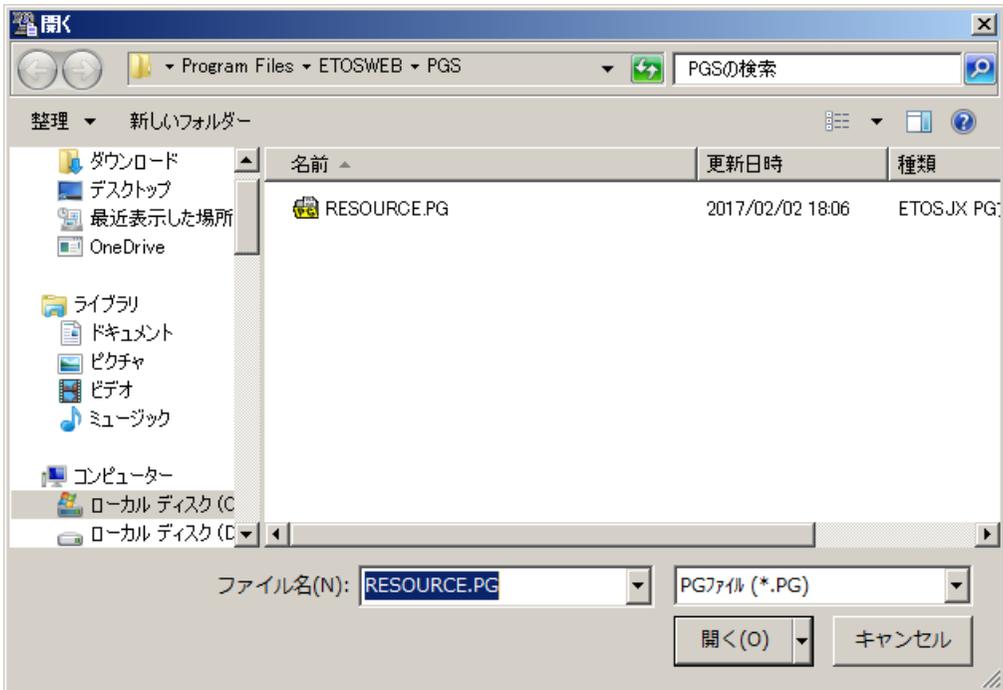


5.11 作成したファイルを開く

- ① [ファイル] メニューの [開く] メニューコマンドを選ぶ。



- ② オープンするファイル名を指定する。
[開く] ダイアログボックスがオープンします。
[ファイル名] テキストボックスに、オープンするパラメータファイル名を入力します。
指定するファイル名がカレントディレクトリにない場合は、ディレクトリやドライブを [ディレクトリ] 一覧や [ドライブ] 一覧で指定します。

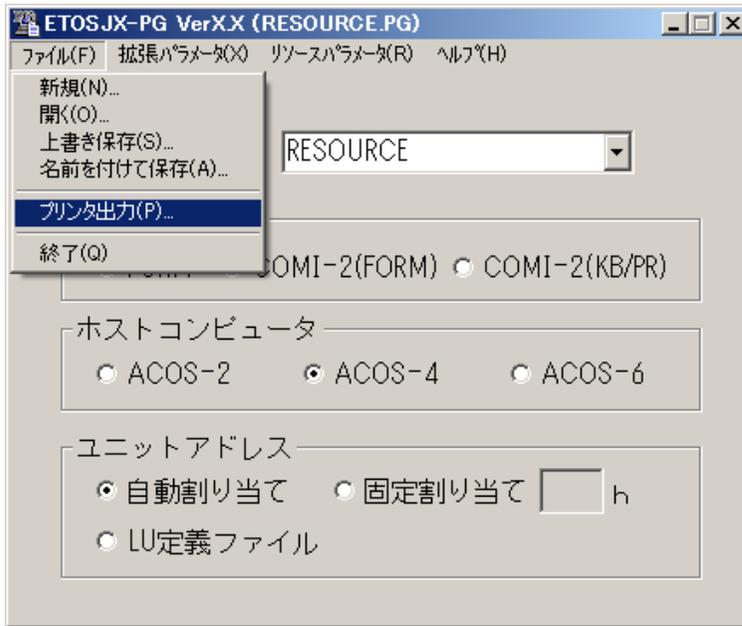


- ③ [開く] ボタンを押す。
ダイアログボックスが消え、指定したファイルをオープンします。

5.12 パラメータファイルを印刷する

パラメータファイルの内容をプリンタに出力します。

- ① [ファイル] メニューの [開く] メニューコマンドを使って、印刷するパラメータファイルをオープンする。
- ② メニューから [プリンタ出力] を選択する。
[ファイル] メニューの [プリンタ出力] メニューコマンドを選びます。



- ③ 印刷を開始することを確認するダイアログボックスがオープンする。



- ④ プリンタ名、印刷範囲および印刷部数を設定する。



- ⑤ [OK] ボタンを押す。
ダイアログボックスがクローズし、指定したプリンタからパラメータファイルの内容が印刷されます。

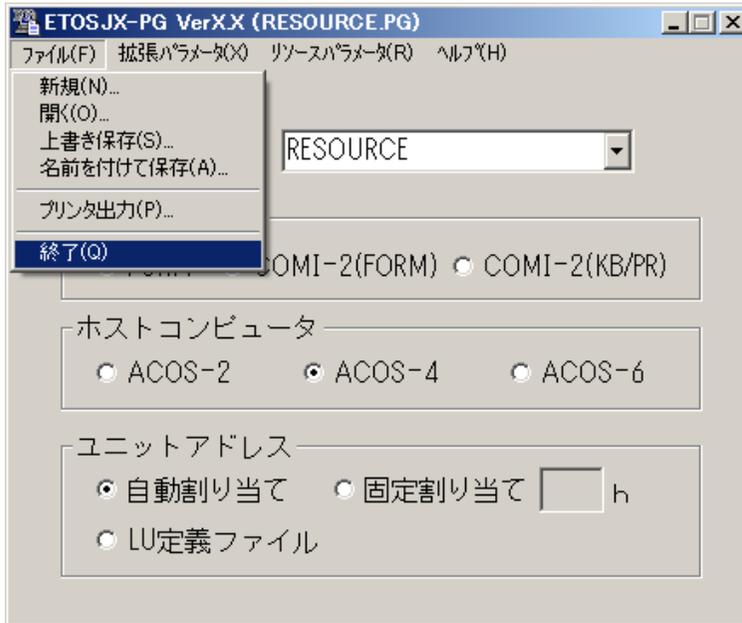
パラメータファイルは、次のフォーマットでプリンタに出力されます。

Page 1				
パラメータファイル名	:	resource.pg		
ファイル作成日時	:	xxxx年xx月xx日 xx:xx:xx		
ファイル作成OS	:	Windows(R)Server 2012 R2/Windows(R) 8 :		
バージョン情報	:	ETOSJX-PG VerX.X		
[基本パラメータ]				
通信リソース名	:	RESOURCE		
通信形態	:	ネットワークマネージャ		
初期動作モード	:	FORM		
ホストコンピュータ	:	ACOS-4		
ユニットアドレス	:	自動割り当て		
[拡張パラメータ]				
[簡易操作機能]				
コメントファイル名	:	E52CMD		
[初期動作指定]				
初期ローカル画面	:			
初期簡易操作	:			
初期マクロ	:			
[キーのカスタマイズ]	109KB			
	<単独>	<SHIFT>	<CTRL>	<SHIFT+CTRL>
F 1	P F 1	P F 1 3	リセット	未設定
F 2	P F 2	P F 1 4	復改	IDENT
F 3	P F 3	P F 1 5	未設定	DEV CANCEL
F 4	P F 4	P F 1 6	未設定	ERASE EOF
F 5	P F 5	P F 1 7	STOP ID	チェックオフ
F 6	P F 6	P F 1 8	HELP ID	未設定
F 7	P F 7	P F 1 9	COPY ID	未設定
F 8	P F 8	P F 2 0	再開	未設定
F 9	P F 8	P F 2 1	割込	未設定
F 1 0	P F 1 0	P F 2 2	コマンド入	未設定
F 1 1	P F 1 1	P F 2 3	力	未設定
F 1 2	P F 1 2	P F 2 4	パラメータ変更	未設定
			セッション切換	
~				~
~				~
Enter	TAB	未設定	未設定	未設定

5.13 ファイル作成を終了する

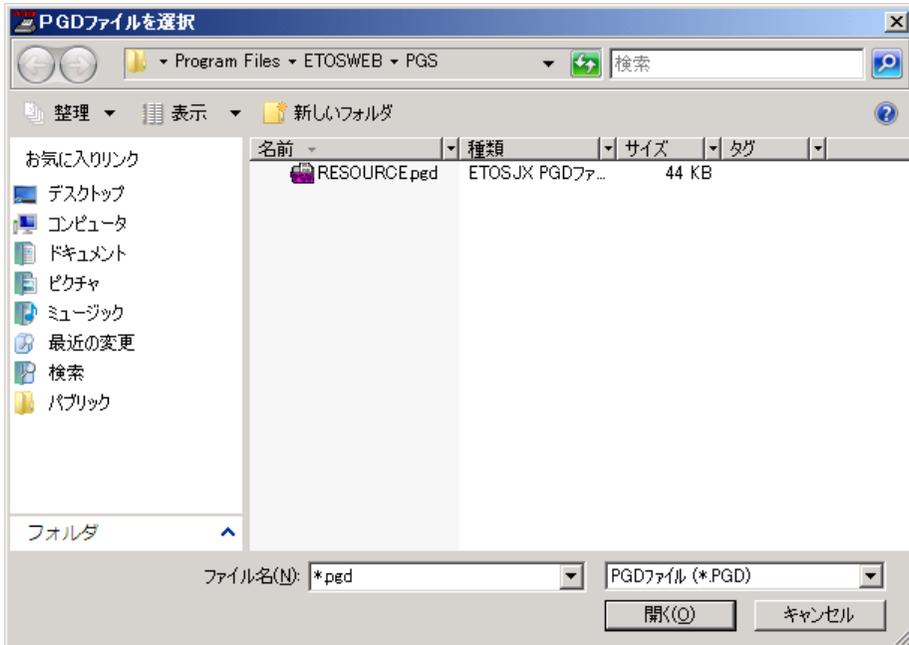
パラメータファイルの作成を終了します。

- ② [ファイル] メニューの [終了] メニューコマンドを選ぶ。



- ② DCS プリンタを起動するか選択する。
 ETOSJX-PG でパラメータファイルを新規に作成した場合、DCS プリンタ起動を確認するダイアログボックスがオープンします。
 続けて UA パスプリンタ出力の設定を行うかどうかを選択します。





(補足)

ETOSJX-PGにて、UAパス使用時のプリンタ情報を保存したファイル(PGDファイル)が、初期値の状態で作成されています(PGDファイルが既に存在する場合、新規作成は行いません)。作成したPGDファイルを選択すれば、そのままUAパス使用時のプリンタ情報の設定が可能です。PGDファイルの詳細については、「**UAパスプリンタ設定**」を参照してください。

- ③ ETOSJX-PGを終了する。

第6章

UA パスプリンタ設定

この章では、ETOSWEB SERVER の UA パスプリンタ出力時における使用形態の設定方法について説明します。

6. 1 PGD ファイルとは
6. 2 DCS プリンタとは
6. 3 PGD ファイルを作成する前に
6. 4 DCS プリンタを起動する
6. 5 PGD ファイルを新規作成する
6. 6 パラメータを設定する
6. 7 ヘルプを使う
6. 8 作成したファイルを保存する
6. 9 作成したファイルを開く
6. 10 PGD ファイルを印刷する
6. 11 ファイル作成を終了する

第6章 UA パスプリンタ設定

6.1 PGD ファイルとは

PGD ファイルは、DCS プリンタが動作するために必要なシステム情報を格納しておくためのファイルです。PGD ファイルを作成するためには、DCS プリンタを使用します。

6.2 DCS プリンタとは

DCS プリンタは、PGD ファイルの作成と UA パスプリンタ出力の管理を行うプログラムです。PGD ファイル作成機能は、ファイルのアロケーションを行い、PGD ファイルを作成します。また、既に作成済みのパラメータファイルの内容を更新します。UA パスプリンタ出力管理機能については、操作ガイド「UA パスでプリンタ出力する」を参照してください。

6.3 PGD ファイルを作成する前

PGD ファイルを、次の手順で作成します。

- ① DCS プリンタを起動する。
- ② [新規] メニューを選択し、通信情報の設定を入力する。
DCS プリンタを動作させるために最低限必要なパラメータです。
- ③ パラメータ設定を入力する。
[プリンタ情報の設定] は、UA パスプリンタ出力を行うために必要なパラメータです。
その他の設定は、UA パスプリンタ出力の拡張機能です。
- ④ 作成した PGD ファイルを保存する。
- ⑤ DCS プリンタを終了する。

(注意)

- 1) システムのプリンタ情報を変更 (ETOSWEB SERVER で使用するプリンタドライバの削除、プリンタ名やフォーム格納ディレクトリの変更など) した場合は、DCS プリンタの [プリンタ情報の設定] を再設定してください。
- 2) PGD ファイルは、OS 毎に作成してください。他 OS で作成した PGD ファイルは使用できません。
他 OS で作成したパラメータファイルを使用する場合は、PG コンバータでファイルコンバートしてご利用ください。
作成した PGD ファイルは、旧バージョンでは使用できません。また、旧バージョンで作成した PGD ファイルへ上書き保存すると旧バージョンで使用できなくなります。

6.4 DCS プリンタを起動する

PGD ファイルを作成するために、DCS プリンタを起動します。

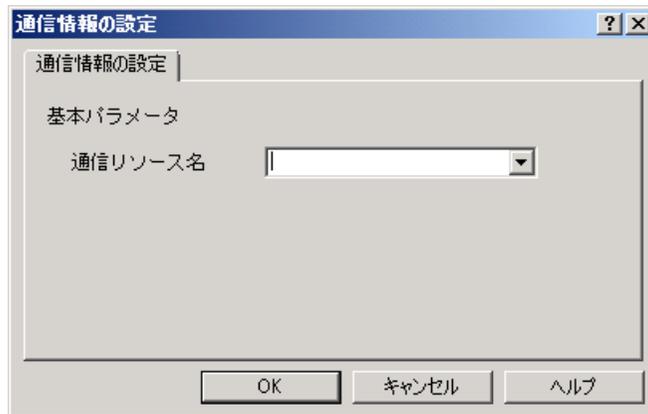
- ① Windows の [スタート] メニューから [ETOSWEB SERVER] - [DCS プリンタ] を選択する。
- ② DCS プリンタのウィンドウがオープンする。
DCS プリンタの画面が表示されます。



6.5 PGD ファイルを新規作成する

PGD ファイルを新しく作成します。

- ① [ファイル] メニューの [新規] メニューコマンドを選択する。
[通信情報の設定] プロパティシートがオープンします。
各パラメータの説明に従い、基本パラメータを入力してください。



項目名	パラメータ	説明	既定値
通信リソース名	なし	同一端末上でユニークに指定するホストの名前(任意)です。 ネットワークマネージャで定義した通信リソース名を指定してください。 最大 16 文字(全角 8 文字)まで入力可能です。	なし

6.6 パラメータを設定する

パラメータの設定を行います。

パラメータは、[パラメータ設定] メニューのメニューコマンドを使って設定します。

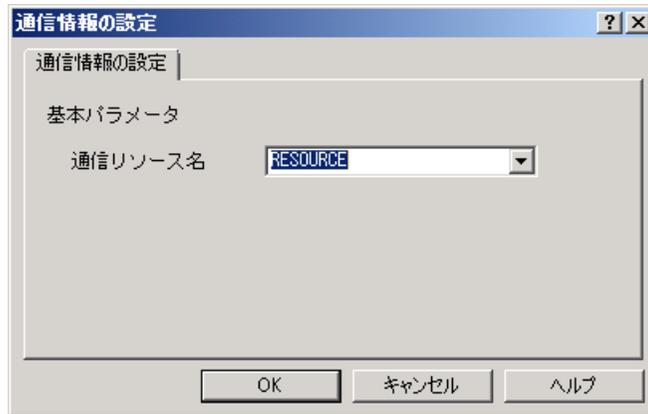


6.6.1 通信情報を設定する

DCS プリンタを動作させるための通信情報を設定します。

通常、通信情報の設定は、[ファイル] メニューの [新規] メニューコマンドで入力済みのため、設定し直す必要はありません。通信情報の変更が必要な場合のみ行ってください。

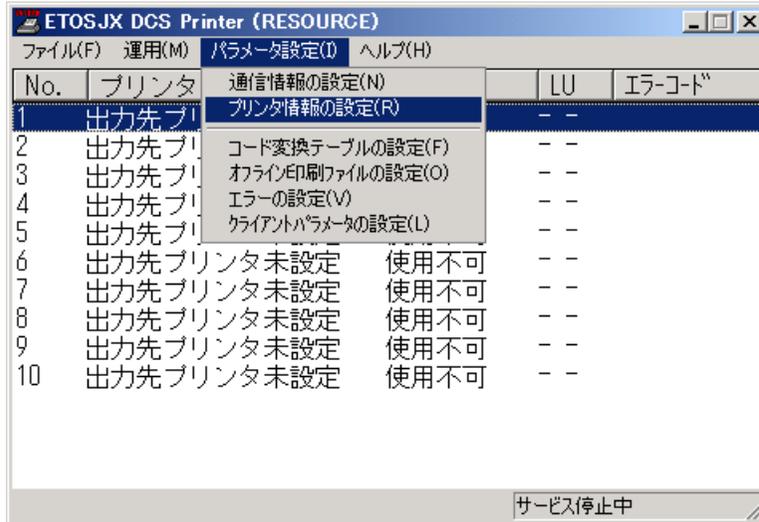
- ① [パラメータ設定] メニューの [通信情報の設定] メニューコマンドを選ぶ。
[通信情報の設定] プロパティシートがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。
各パラメータの説明は、「PGD ファイルを新規作成する」を参照してください。



6.6.2 プリンタを設定する

UA パスプリンタ出力時のプリンタの設定/変更を行います。

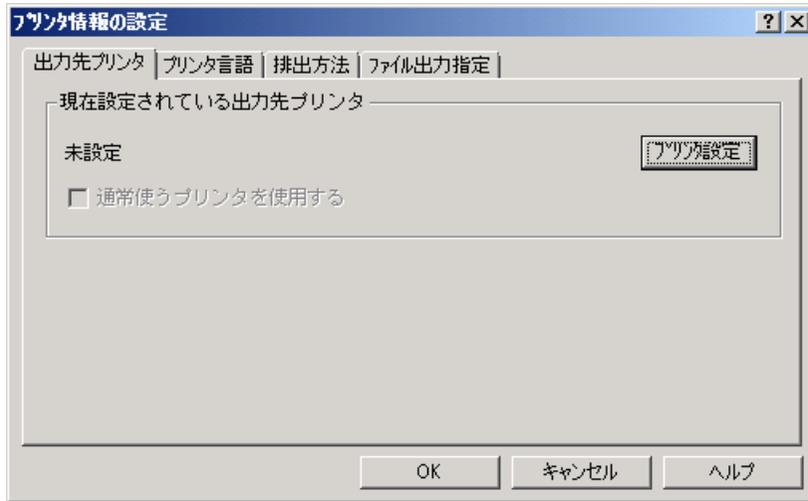
- ① DCS プリンタのメイン画面の設定するプリンタにカーソルを合わせる。
設定するプリンタ番号(No.)にカーソルを合わせてください。
DCS プリンタで表示しているプリンタ番号(1~10)は、ネットワークマネージャの LU 情報定義のプリンタ用 LU 番号(PRINTER1~PRINTER10)に対応しています。
- ② [パラメータ設定] メニューの [プリンタ情報の設定] メニューコマンドを選ぶ。



③ パラメータを入力する

[プリンタ情報の設定] プロパティシートがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを設定してください。

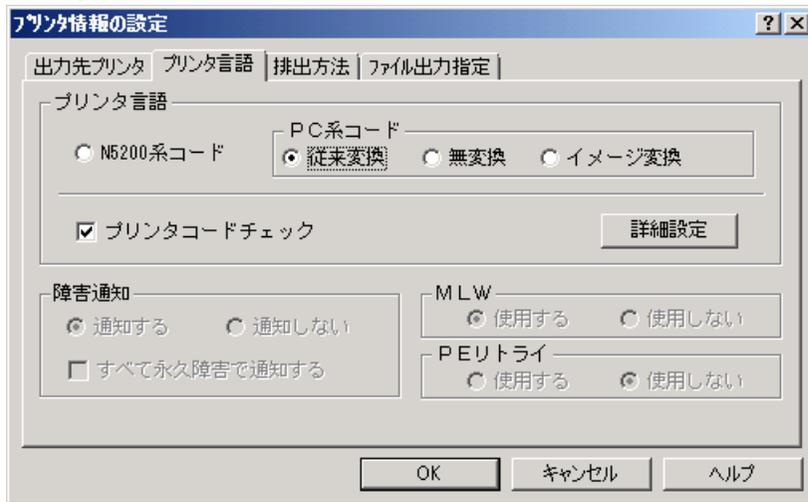
<出力先プリンタ>



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
プリンタ設定	プリンタ名	印刷データを出力するプリンタを指定します。 「プリンタ言語」 ページで N5200 系コードの障害通知機能を「通知する」と設定した場合、ネットワークプリンタは指定しないでください。	未設定
通常使うプリンタ	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	出力先を Windows で設定されている「通常使うプリンタ」にするかどうか指定します。なお、サーバ上では必ず NO となります。 YES : Windows で指定された「通常使うプリンタ」に出力します。 NO : 「プリンタ設定」で選択されているプリンタに出力します。	NO

<プリンタ言語>



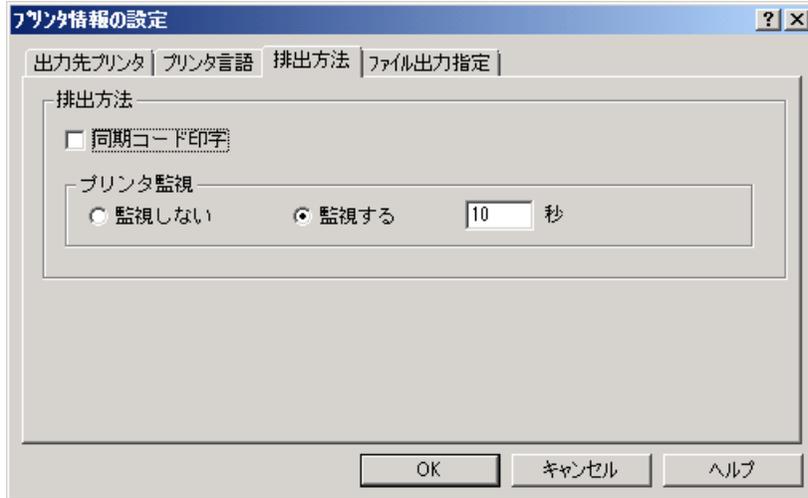
各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
プリンタ言語	<ul style="list-style-type: none"> ・N5200系コード ・PC系コード ・従来変換 ・無変換 ・イメージ変換 	<p>ホストから受信するプリンタ言語およびコード変換方法を指定します。</p> <p>N5200系コード：ホストから受信するデータが旧情処コードの場合指定します。</p> <p>PC系コード：ホストから受信するデータが201PLまたはNPDL2の時指定します。</p> <p>従来変換：DCSプリンタにて一部のホスト側制御コードを変換し、プリンタへ出力します。</p> <p>無変換：DCSプリンタではデータの加工は一切行わず、プリンタへ出力します。</p> <p>イメージ変換：DCSプリンタにてPC-PR201系プリンタをエミュレートし、印字イメージデータをプリンタへ出力します。</p>	従来変換

項目名	パラメータ	説明	既定値
プリンタコードチェック	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	設定されているプリンタ言語で使用不可能なコードを受信した場合の動作を指定します。 YES: 設定されているプリンタ言語では、使用不可能なコードを受信した場合にエラーを表示し、プリンタ出力を中止します。 NO: 設定されているプリンタ言語では、使用不可能なコードを受信してもエラーを表示せず、プリンタ出力を継続します。	YES
障害通知	・通知する ・通知しない	N5200 系コード選択時、プリンタの障害通知機能を選択します。 通知する: プリンタ障害発生時、ホストへ障害情報を通知します。 (注 1) (注 2) 通知しない: プリンタ障害発生時、Windows で組み込まれているプリンタスプーラに処理を任せます。	通知する
障害通知 ・全て永久障害で通知する	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	上記で「通知する」を選択時、全て永久障害で通知するか否かを選択します。 YES: 用紙切れを含む全ての障害を検出した場合、永久障害でホストへ障害通知します。 NO: 用紙切れとその他の障害を区別してホストへ障害通知します。 ただし、電源断や未接続を用紙切れ、DSELで通知する場合があります。	NO
MLW	・使用する ・使用しない	用紙切れを検出した時の書き込みモードを指定します。 使用する: 用紙切れ発生時もプリンタ出力が異常終了するまでプリンタ出力を行います。 使用しない: 用紙切れを検出した時点でホストへ異常を通知します。	使用する
PE リトライ	・使用する ・使用しない	用紙切れ発生時の DCS プリンタの動作を指定します。 使用する: 用紙切れ発生時、DCS プリンタで用紙切れが回復するまで、プリンタ出力を保留します。 使用しない: 用紙切れ発生時、ホストへ異常を通知します。	使用しない

- (注 1) 障害通知機能は、プリンタポートに直接接続されたローカルプリンタのみ使用可能です。
ネットワークプリンタおよびUSB 接続プリンタでは使用できません。
- (注 2) 64bitOS で障害通知機能を使用する場合、「64bit 障害通知対応 pr ライセンス」が必要です。

< 排出方法 >



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
同期コード 印字 (注1)	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES : 同期コード(00 ₁₆)の単一テキストをホストから受け付けた時に、プリンタをクローズします(印刷を開始します)。 NO : 上記コード(00 ₁₆ の単一テキスト)を、そのままプリンタに出力します。	NO
プリンタ監視	・監視しない ・監視する	UAパスでのプリンタ出力をタイム監視するか指定します。 監視しない: プリンタをオープン後、DCSプリンタを終了するまで、クローズを行いません。(注2) 監視する: プリンタ監視時間を指定して下さい。指定した時間を経過しても印刷データを受信しなければプリンタをクローズします。 プリンタ監視時間の有効範囲は、1~9999秒です。(注3)	10 秒

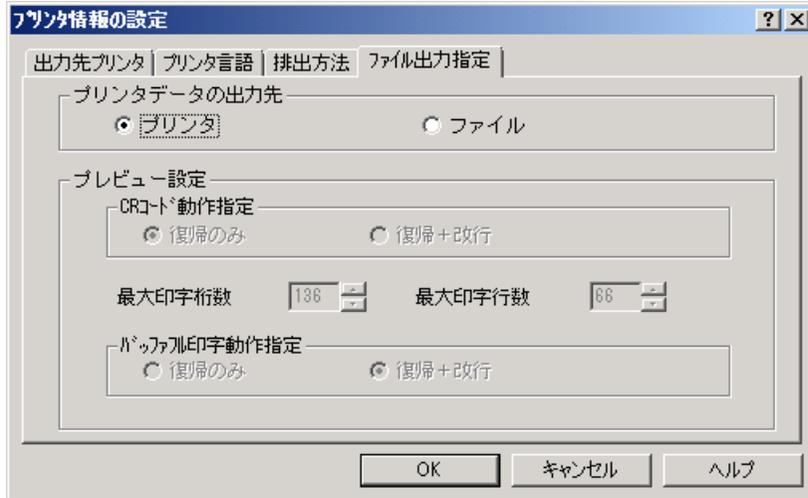
(注1) N5200系コード詳細設定のプロパティ内にある「連続する同期コード」指定とは無関係です。

(注2) プリンタ監視しない設定は、N5200系コード(障害通知する)の場合のみ使用して下さい。それ以外で設定で使用した場合、DCSプリンタを終了するまで、印刷が開始されない場合があります。

(注3) ホストからの印刷データが終了しても、この指定時間だけ待ってから印刷を開始します。

N5200系コードの場合、プリンタ監視時間経過後および印刷開始時にプリンタ装置のリセット、用紙長の再設定(シリアルプリンタのみ)を行うため、極端に小さい値を設定するとプリンタ性能の低下やページずれが発生する恐れがあります。業務ごとに適切な値を設定してください。

<ファイル出力指定>



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
プリンタデータの出力先	・プリンタ ・ファイル	プリンタ：ホストから受信したデータを、プリンタへ出力します。 ファイル：ホストから受信したデータを、ファイルへ出力します。出力されたファイルは、オフライン印刷ユーティリティにて使用することができます。 また、プレビュー設定で、オフライン印刷ユーティリティのプレビュー表示時の動作を指定することができます。	プリンタ
CR コード動作指定	・復帰のみ ・復帰+改行	印字データで CR(OD ₁₆) コードが指定された場合の動作を指定します。 復帰のみ：印字位置を行の先頭へ移動します。 復帰+改行：印字位置を行の先頭へ移動し、改行します。	復帰のみ
最大印字桁数	桁数	1 行の最大印字桁数を指定します。 有効範囲は、1～200 桁です。	136
最大印字行数	行数	1 ページの最大印字行数を指定します。 有効範囲は、1～128 行です。	66
バッファフル印字動作指定	・復帰のみ ・復帰+改行	1 行分の印字データが最大印字桁数を越えた場合の動作を指定します。 復帰のみ：印字位置を行の先頭へ移動します。 復帰+改行：印字位置を行の先頭へ移動し、改行します。	復帰+改行

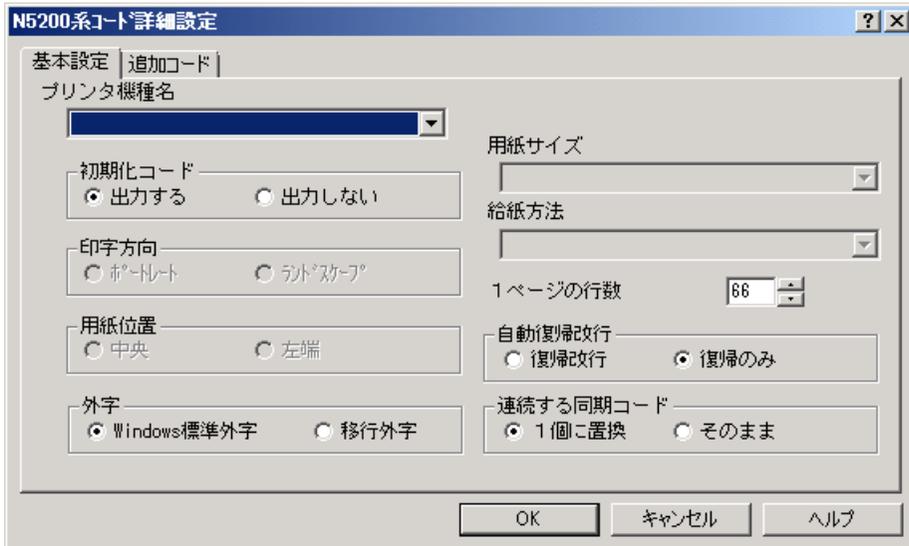
④ 詳細設定を行う。

[プリンタ情報の設定] プロパティシートで詳細設定ボタンを選択し、コード変換パラメータを設定します。

表示されるダイアログボックスは、プリンタ言語、および印字方法によって異なります。

<N5200 系コード>

・基本設定



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
プリンタ機種名	プリンタ型番	リストから使用する PC-PTOS 対応プリンタを指定します。(注 1)	なし
初期化コード	・出力する ・出力しない	プリンタ出力開始時にプリンタの初期化を行うかを指定します。通常は出力するを指定しますが、ホスト側でプリンタを制御する場合は出力しないを指定します。	出力する
印字方向	・ポートレート ・ランドスケープ	用紙の印字方向を指定します。(注 2)	ポートレート
用紙位置	・中央 ・左端	用紙の位置を指定します。(注 2)	左端
用紙サイズ		用紙サイズを指定します。(注 2)	
給紙方法		給紙方法を指定します。(注 2)	
外字	・ Windows 標準外字 ・ 移行外字	N5200 系コード印刷で使用する外字を指定します。移行外字は、PTOS/A-VX5 の外字を「日本語文字拡張セット」を使用して変換したものです。(注 3)	Windows 標準外字
1 ページの行数	行数	1 ページの行数を指定します。 本指定は、シリアルプリンタ使用時のみ有効となります。	66
自動復帰改行	・ 復帰改行 ・ 復帰のみ	帳票印刷時、1 行分の印字データが最大印字桁数を越えた場合の動作を指定します。 復帰改行：印字位置を行の先頭へ移動し、改行します。 復帰のみ：印字位置を行の先頭へ移動します。	復帰のみ
連続する同期コード	・ 1 個に置換 ・ そのまま	印字データに連続する同期コード(00 ₁₆)が存在する場合の動作を指定します。 1 個に置換：ホストから受信した連続する同期コードを 1 個にまとめて出力します。 大量の同期コードが原因で、印字速度が遅い場合に指定してください。 そのまま：ホストから受信した同期コードをすべてプリンタへ出力します。	そのまま

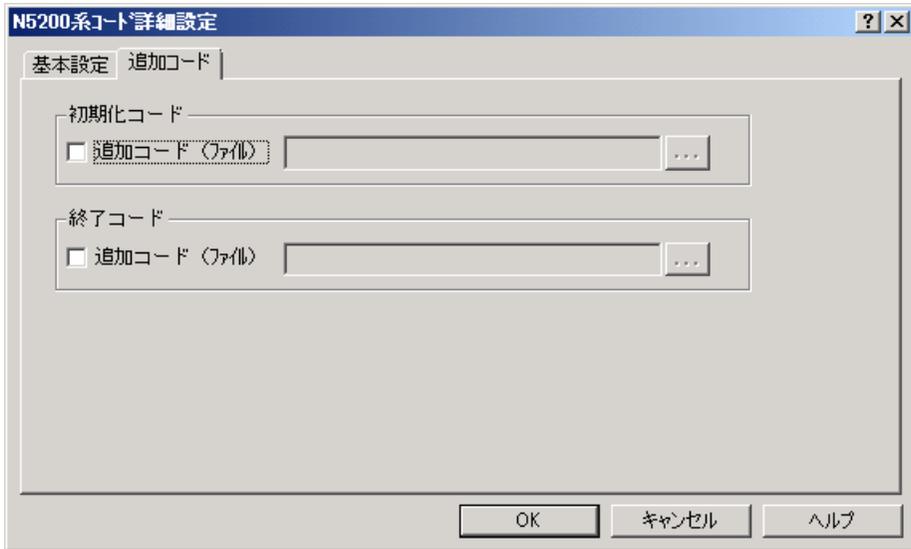
(注1) N 型番のプリンタ(N11xx と N78xx)は、Express5800 に接続されている場合に、ネットワークプリンタとして利用可能であり、PC(PC98-NX)には接続できません。

(注2) シリアルプリンタの場合、印字方向や用紙位置、用紙サイズ、給紙方法のパラメータは、レフトマージンを求めるための指定となります(この設定によってプリンタ本体の印字方向や用紙位置、用紙サイズ、給紙方法を変更することはできません)。プリンタ本体の設定を変更するには、ホストよりデータとして制御コードを送るか、追加コードの指定機能によって制御コードを出力するようにしてください。

(注3) 移行外字を選択した場合、コード変換テーブルは有効となりません。

※PrintBridge/BizReporting と連携を行う場合の設定方法は、「10.2 PrintBridge を経由して印刷する」「10.3 BizReporting を経由して印刷する」も参照してください。

・追加コード

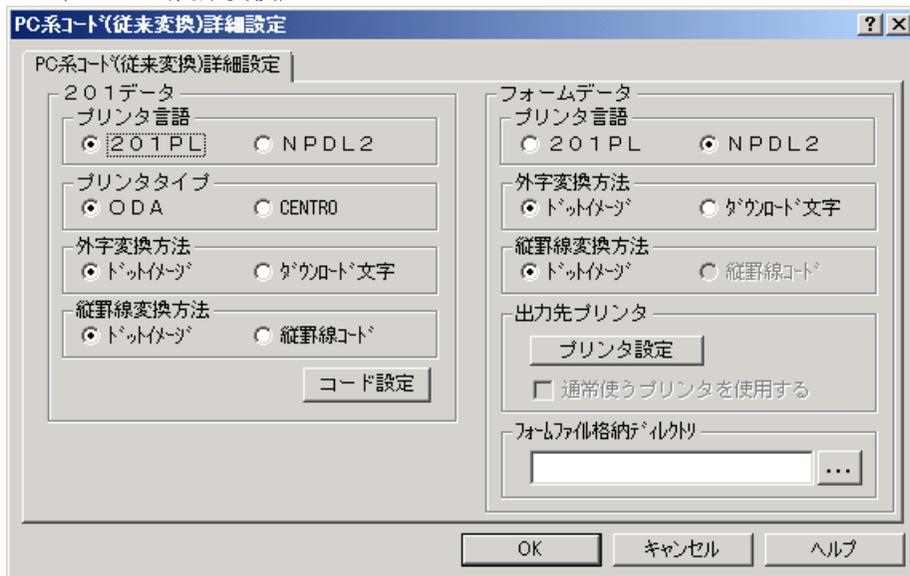


各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
初期化コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES: プリンタ出力開始時に、制御コードを追加出力します。続くテキストボックスに追加する制御コードを記述したテキストファイル名を入力します。既にファイルを用意してある場合は、参照ボタンにより指定することができます。(注1) NO: 制御コードを追加出力しません。	NO
終了コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES: プリンタ出力終了時に、制御コードを追加出力します。続くテキストボックスに追加する制御コードを記述したテキストファイル名を入力します。既にファイルを用意してある場合は、参照ボタンにより指定することができます。(注1) NO: 制御コードを追加出力しません。	NO

(注1) 追加コードは N5200 系制御コードで記述してください。
また、追加コードファイルのファイルサイズは、最大 512 バイトです。

<PC系コード(従来変換)>



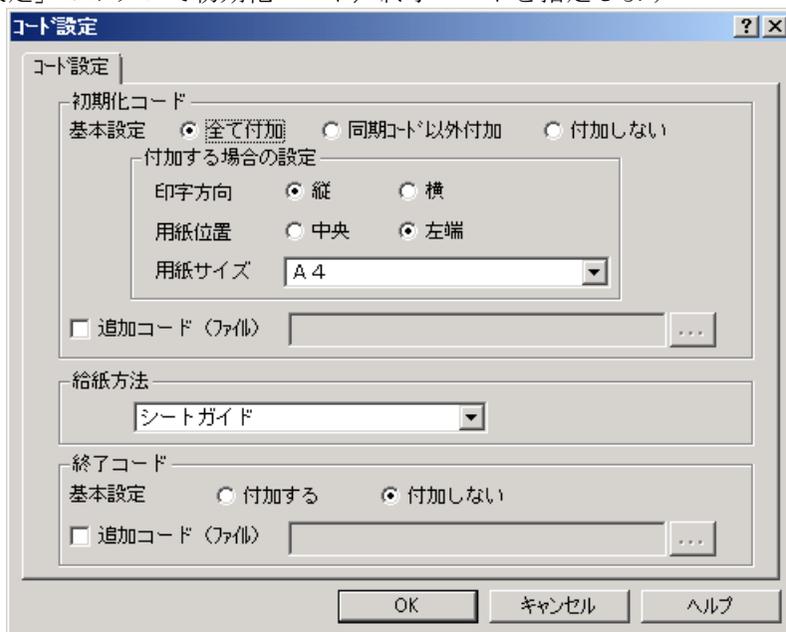
各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
201 データ ・プリンタ言語	・201PL ・NPDL2	ホスト側で作成した印字データのプリンタ言語を指定します。	201PL
201 データ ・プリンタタイプ	・ODA ・CENTRO	プリンタの出力タイプを指定します。 ODA : ANK:半角:全角=1:1:2 CENTRO : ANK:半角:全角=1:0.75:1.5	ODA
201 データ ・外字変換方法	・ドット イメージ ・ダウンロード 文字	外字を印字する際の出力方法を指定します。 ドットイメージ: 外字をドット列で印字します。 ダウンロード文字: プリンタに外字を登録後、印字します。(注1)	ドット イメージ
201 データ ・縦罫線変換方法	・ドット イメージ ・縦罫線コード	縦罫線コードの変換方法を指定します。 ドットイメージ: 縦罫線をドット列で印字します。 このため、縦罫線で1ドット占有します。 縦罫線コード: 縦罫線コード(F S ;)に変換して出力します。(注2)	ドット イメージ
フォームデータ ・プリンタ言語	・201PL ・NPDL2	ホスト側で作成した印字データのプリンタ言語を指定します。	NPDL2
フォームデータ ・外字変換方法	・ドット イメージ ・ダウンロード 文字	外字を印字する際の出力方法を指定します。 ドットイメージ: 外字をドット列で印字します。 ダウンロード文字: プリンタに外字を登録後、印字します。(注1)	ドット イメージ
フォームデータ ・縦罫線変換方法	・ドット イメージ ・縦罫線コード	縦罫線コードの変換方法を指定します。 ドットイメージ: 縦罫線をドット列で印字します。 このため、縦罫線で1ドット占有します。 縦罫線コード: 縦罫線コード(F S ;)に変換して出力します。(注2)	ドット イメージ
プリンタ設定	プリンタ名	フォーム印刷データを出力するプリンタを指定します。	未設定
通常使うプリンタを使用する	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	出力先を Windows で設定されている「通常使うプリンタ」にするかどうか指定します。なお、サーバ上では必ず NO となります。 YES : Windows で指定された「通常使うプリンタ」に出力します。 NO : 現在選択されているプリンタに出力します。	NO
フォームファイル格納ディレクトリ		フォームファイルを格納しているディレクトリを指定します。	なし

(注1) プリンタの外字領域(7620₁₆)を使用するため、他の AP でプリンタの外字を使用することができなくなります。

(注2) 縦罫線コードは、プリンタによってサポートされていない場合があります。

[コード設定] のボタンで初期化コード/終了コードを指定します

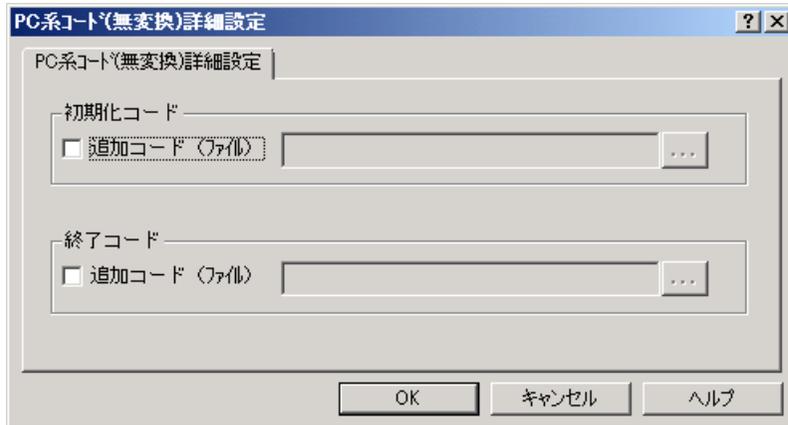


各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
初期化コード ・基本設定	<ul style="list-style-type: none"> ・全て付加 ・同期コード以外付加 ・付加しない 	<p>プリンタ出力開始時にプリンタの初期化を行うかを指定します。</p> <p>全て付加：プリンタの初期化コードを付加します。</p> <p>付加しない：プリンタの初期化コードを付加しません。ホスト側にてプリンタを制御する場合に指定します。</p> <p>同期コード以外付加：同期コード (FF 0D16) 以外のプリンタ初期化コードを付加します。全て付加を指定してプリンタ出力開始時に白紙が一枚出力される場合に指定します。</p>	全て付加
印字方向	<ul style="list-style-type: none"> ・縦 ・横 	基本設定で全て付加、または同期コード以外付加を指定した場合に、コードを生成するためのパラメータを設定します。	縦
用紙位置	<ul style="list-style-type: none"> ・中央 ・左端 		左端
用紙サイズ			A4
初期化コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	<p>YES: 初期化コードの基本設定に続けて指定した制御コードを追加出力します。(注1)</p> <p>NO: 基本設定をそのまま初期化コードにします。</p>	NO
給紙方法	<ul style="list-style-type: none"> ・シートガイド ・トラクタフィーダ ・シートフィーダ 	プリンタの給紙機構を設定します。	シートガイド
終了コード ・基本設定	<ul style="list-style-type: none"> ・付加する ・付加しない 	<p>プリンタ出力終了時に、プリンタのバッファに残ったデータを全て出力するための制御コードを出力するかどうかを指定します。</p> <p>付加する：プリンタの排出コードを付加します。</p> <p>付加しない：プリンタの排出コードを付加しません。</p>	付加しない
終了コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	<p>YES: 終了コードの基本設定に続けて指定した制御コードを追加出力します。(注1)</p> <p>NO: 基本設定をそのまま初期化コードにします。</p>	NO

(注1) 追加する制御コードを記述したテキストファイル名を続くテキストボックスに入力します。既にファイルを用意してある場合は、参照ボタンにより指定することができます。

<PC 系コード(無変換)>



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
初期化コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES: プリンタ出力開始時に、制御コードを追加出力します。続くテキストボックスに追加する制御コードを記述したテキストファイル名を入力します。既にファイルを用意してある場合は、参照ボタンにより指定することができます。 NO: 制御コードを追加出力しません。	NO
終了コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES: プリンタ出力終了時に、制御コードを追加出力します。続くテキストボックスに追加する制御コードを記述したテキストファイル名を入力します。既にファイルを用意してある場合は、参照ボタンにより指定することができます。 NO: 制御コードを追加出力しません。	NO

<PC 系コード(イメージ変換)>

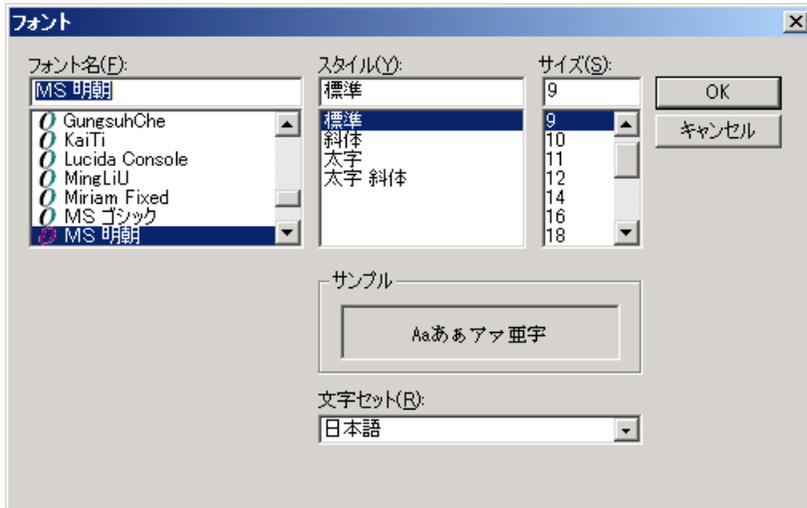


各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
プリンタタイプ	・ODA ・CENTRO	プリンタの出力タイプを指定します。 ODA : ANK:半角:全角=1:1:2 CENTRO : ANK:半角:全角=1:0.75:1.5	CENTRO
CRコード動作指定	・復帰のみ ・復帰+改行	印字データに CR(OD ₁₆)コードが指定された場合の動作を指定します。 復帰のみ:印字位置を行の先頭へ移動します。 復帰+改行、印字位置を行の先頭へ移動し、改行します。	復帰のみ
最大印字桁数	桁数	1行の最大印字桁数を指定します。	136
最大印字行数	行数	1ページの最大印字行数を指定します。	66
バッファフル印字動作指定	・復帰のみ ・復帰+改行	1行分の印字データが最大印字桁数を越えた場合の動作を指定します。 復帰のみ:印字位置を行の先頭へ移動します。 復帰+改行:印字位置を行の先頭へ移動し、改行します。	復帰+改行
初期化コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES:プリンタ出力開始時に、指定した制御コードを追加出力します。(注) NO:制御コードを追加出力しません。	NO
終了コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES:プリンタ出力終了時に、指定した制御コードを追加出力します。(注) NO:制御コードを追加出力しません。	NO

(注1) 追加する制御コードを記述したテキストファイル名を続くテキストボックスに入力します。既にファイルを用意してある場合は、参照ボタンにより指定することができます。

[フォント指定] のボタンで印字に使用するフォントを指定します。
 書体の種類は、必ず「日本語」を指定してください。
 (なお、コード変換テーブルを使用する場合は、コード変換テーブルで指定したフォントで印刷するため、この設定は無視されます。)

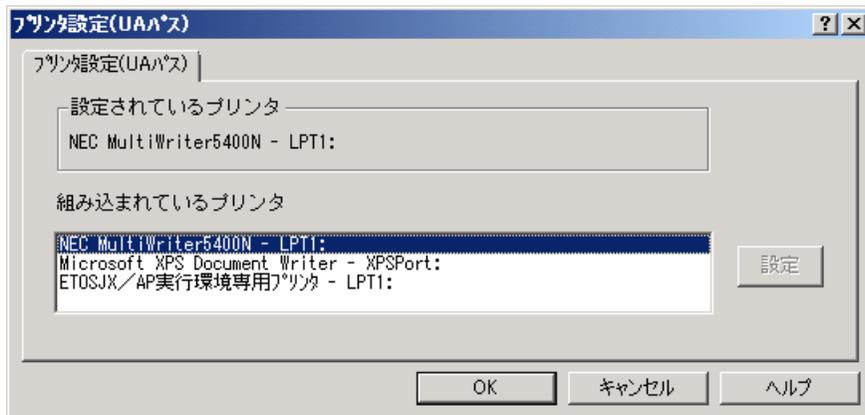


各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
フォント名	Windows で組み込んだフォント名がパラメータとして表示されます。	表示するフォント名を指定します。新しいフォントを選ぶと [サンプル] 欄にそのフォントが表示されます。回転特性のあるフォントは未サポートです。動作は保証していません。	MS 明朝
スタイル	<ul style="list-style-type: none"> 標準 斜体 太字 太字 斜体 	本設定は無効。	標準
サイズ	フォントサイズのパラメータは、フォントによって異なります。	本設定は無効。	9 (既定値は変わる場合があります)
書体の種類	フォントの言語が表示されます。	必ず「日本語」を選択します。	日本語 (既定値は変わる場合があります)

⑤ プリンタの設定を行う

[プリンタ情報の設定] プロパティシートで [プリンタ設定] ボタンを選択し、パラメータを設定します。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
設定されているプリンタ	プリンタ名	現在設定されているプリンタが表示されています。(注1)	なし
組み込まれているプリンタ	プリンタ名	現在、Windows に組み込まれているプリンタの一覧が表示されます。プリンタを指定すると設定されているプリンタの表示が変更できます。	なし

(注1) 設定可能なプリンタは、[プリンタ言語] の指定により異なります。

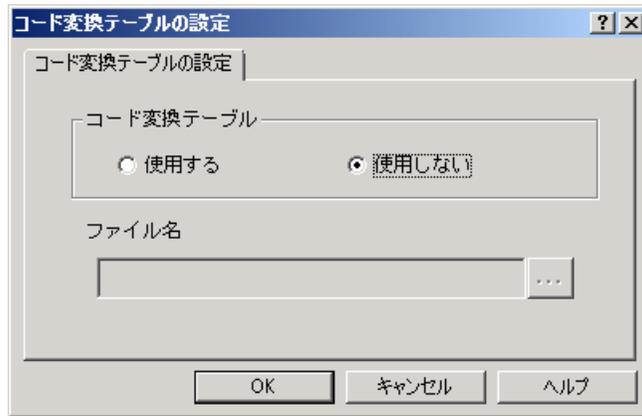
	PC 系コード			N5200 系コード
	従来変換	無変換	イメージ変換	
プリンタ名	201PL または NPD2L2 に対応したプリンタ	何でも可	何でも可	PC-PTOS 対応プリンタ

イメージ変換の場合、[設定] ボタンを選択し、プリンタドライバ固有の情報を設定してください。

6.6.3 コード変換テーブルを使用する

ホストから受信した2バイトコードを任意の2バイトコードに変換するための設定を行います。

- ① [パラメータ設定] メニューの [コード変換テーブルの設定] メニューコマンドを選ぶ。
[コード変換テーブルの設定] プロパティシートがオープンします。
- ② パラメータを入力する。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
コード変換テーブル	<ul style="list-style-type: none"> ・使用する ・使用しない 	<p>使用する: UA パスプリンタ出力におけるコード変換を、コード変換テーブルを使用して行います。本機能により、1文字単位のコードマッピングが可能となり、コード変換規則のカスタマイズが可能となります。</p> <p>使用しない: UA パスプリンタ出力におけるコード変換にコード変換テーブルを使用しません。</p>	使用しない
ファイル名	なし	コード変換に使用するテーブルファイル名を指定します。テーブルファイルは、ETOSJX ユーティリティのコード変換テーブル作成ツールで作成します。	なし

(注意) コード変換テーブルについては、「付録 コード変換テーブル」を参照してください。

- ③ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、メイン画面に戻ります。

6.6.4 オフライン印刷ファイルの出力先を指定する

UA パスプリンタ印刷データの出力先を「ファイルへ出力」にした場合の出力先ディレクトリおよびファイル名を指定します。

- ① [パラメータ設定] メニューの [オフライン印刷ファイルの設定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② パラメータを入力する。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。



各パラメータの説明

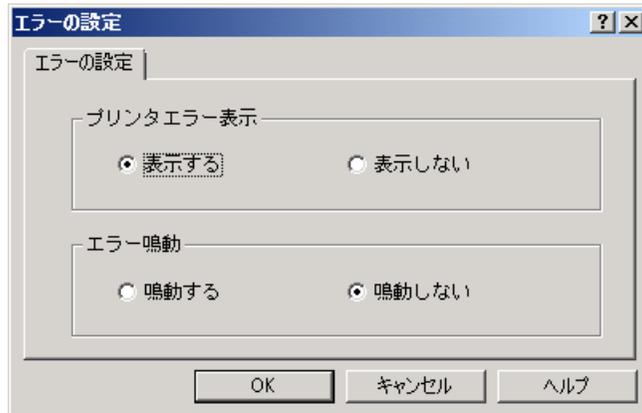
項目名	パラメータ	説明	既定値
出力ディレクトリ	なし	ホストから受信した印刷データを、オフライン印刷データファイルとして保存するディレクトリを指定します。	C:¥ProgramData¥NEC¥ETOSWEB¥OFFPRINT
出力ファイル名	なし	ホストから受信した印刷データを、オフライン印刷データファイルとして保存する際のファイル名を指定します。 実際に、オフライン印刷データをファイルへ出力する際は、指定したファイル名+連番4桁となります(拡張子 ETP)。	PRNT

- ③ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、メイン画面に戻ります。

6.6.5 エラー発生時の動作を指定する

UA パスプリンタ出力実行中に、エラーが発生した場合の動作を指定します。

- ① [パラメータ設定] メニューの [エラーの設定] メニューコマンドを選ぶ。
[エラーの設定] プロパティシートが、オープンします。
- ② パラメータを入力する。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
プリンタエラー表示	<ul style="list-style-type: none"> ・表示する ・表示しない 	表示する: UA パスプリンタ出力中にエラーが発生した場合、エラーメッセージをポップアップウィンドウで表示します。 表示しない: UA パスプリンタ出力中にエラーが発生しても、エラーメッセージを表示しません。(注1)	表示する
エラー鳴動	<ul style="list-style-type: none"> ・鳴動する ・鳴動しない 	鳴動する: UA パスプリンタ出力中にエラーが発生した場合、エラー鳴動します。 鳴動しない: UA パスプリンタ出力中にエラーが発生しても、エラー鳴動しません。	鳴動しない

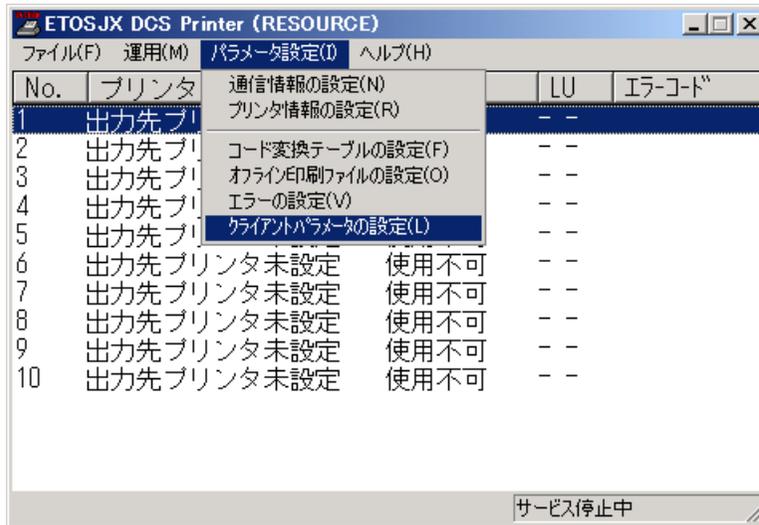
(注1) エラーコードはメイン画面にもプリンタ毎に表示されます。エラーメッセージを表示しない場合、DCS プリンタのエラーの発生したプリンタにカーソルを合わせ、[ヘルプ] メニューの [エラー詳細] メニューコマンドを選ぶと、エラーの内容を確認することができます。

- ③ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、メイン画面に戻ります。

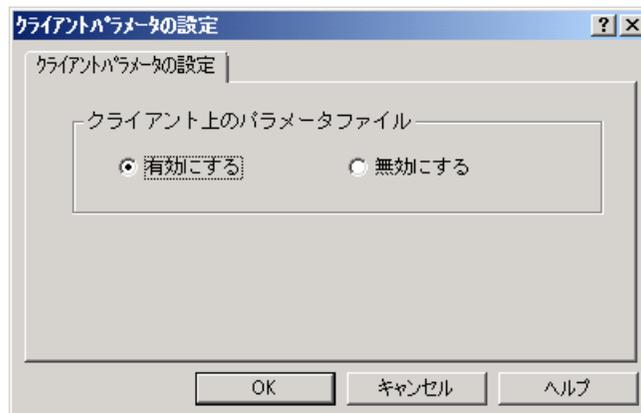
6.6.6 クライアントパラメータの設定

クライアント上のパラメータファイル(*.PGR)を有効にするか、無効にするかを指定します。

- ① [パラメータ設定] メニューの [クライアントパラメータの設定] を選ぶ。
[クライアントパラメータの設定] プロパティシートがオープンします。



- ② パラメータを入力する。
“有効にする” / “無効にする” を選択してください。



6.7 ヘルプを使う

DCS プリンタのバージョンや設定方法は、ヘルプを使って調べることができます。

(1) DCS プリンタのバージョン情報を見る場合

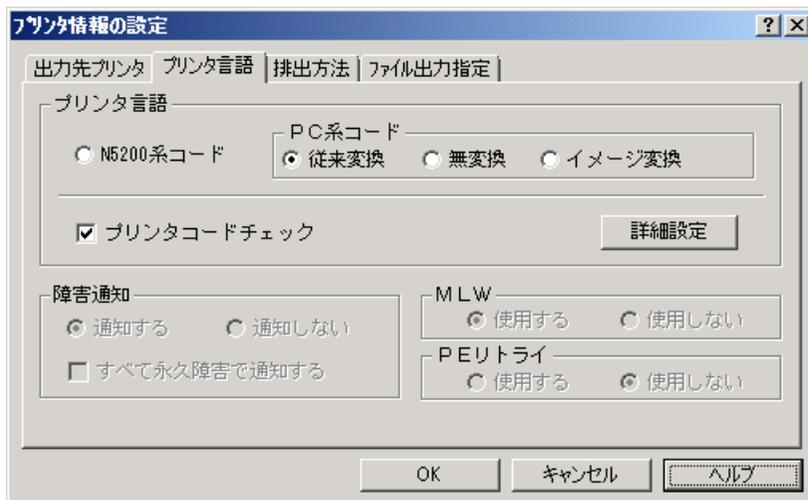
- ① [ヘルプ] メニューの [バージョン情報] メニューコマンドを選ぶ。
- ② バージョン情報を確認する。
[DCS プリンタのバージョン情報] ダイアログがオープンします。
バージョン情報を確認してください。



- ③ [OK] ボタンを押す。
もとの画面に戻ります。

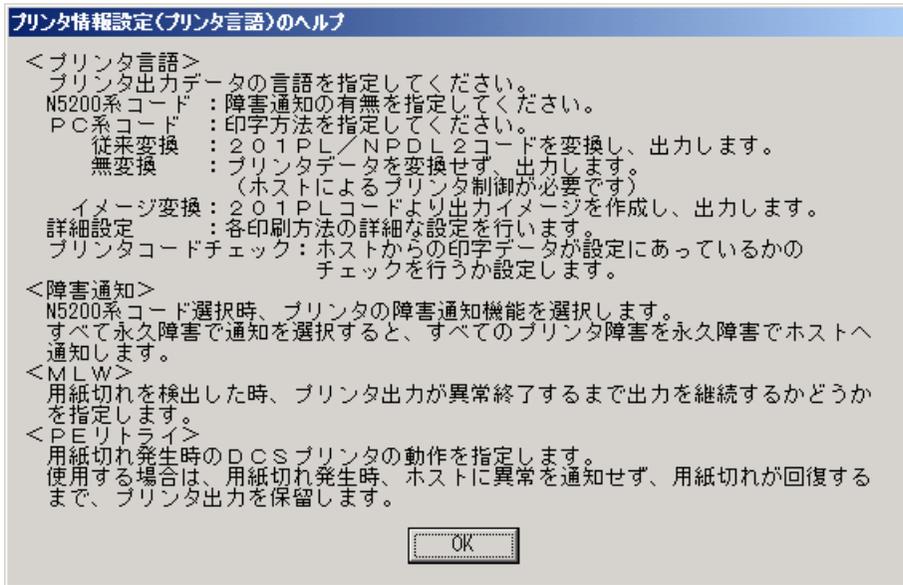
(2) DCS プリンタの設定方法を見る場合

- ① 各プロパティシート内の [ヘルプ] ボタンを押す。



② 設定方法を確認する

各プロパティシートの設定方法を示したダイアログボックスがオープンします。
設定方法を確認してください。



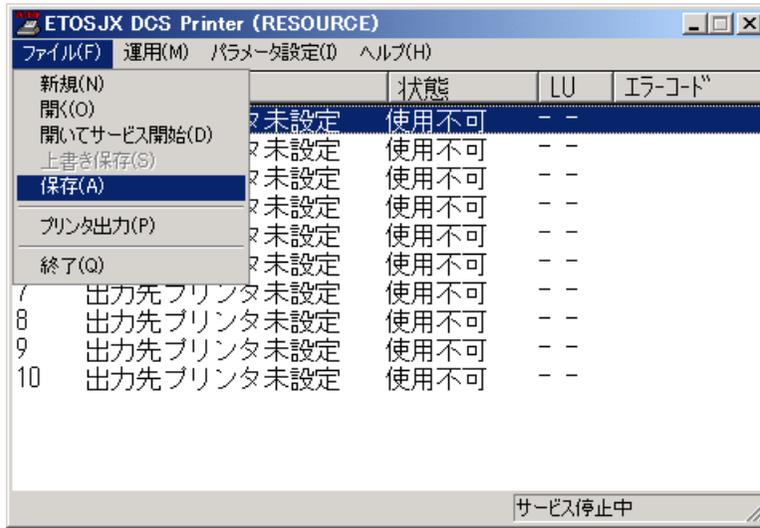
上記の例は、[プリンタ情報の設定] で [プリンタ言語] のタブが表示されている場合に表示する内容です。

- ③ [OK] ボタンを押す。
もとの画面に戻ります。

6.8 作成したファイルを保存する

作成した PGD ファイルを保存します。

- (1) ディレクトリを指定して、PGD ファイルを保存する
 - ① [ファイル] メニューの [保存] メニューコマンドを選ぶ。

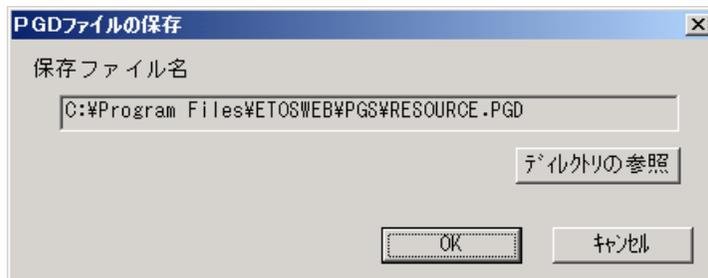


- ② 保存ファイル名を確認する

[PGD ファイルの保存] ダイアログボックスがオープンします。

新規作成または更新した設定情報を保存するファイル名を確認してください。保存するディレクトリを変更する場合は、[ディレクトリの参照] ボタンを押して、ディレクトリを変更してください。

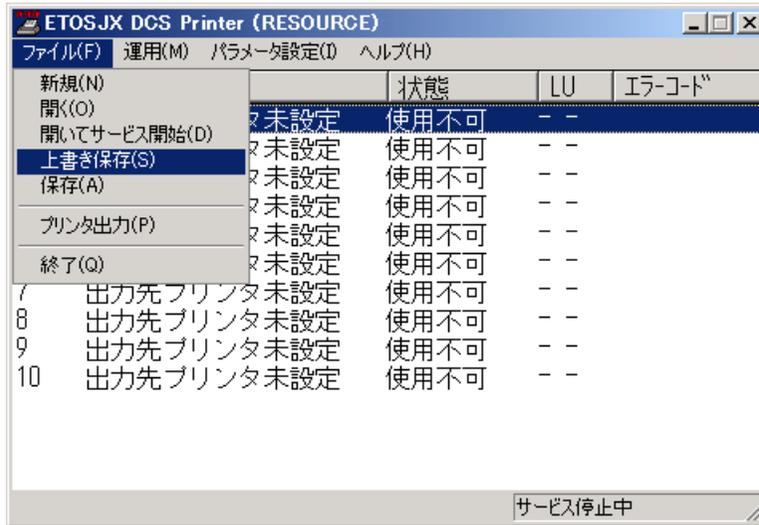
(注意) PGD ファイルは、通信リソース毎に作成するファイルであるため、ファイル名は、通信リソース名+拡張子(PGD)固定となっています。PGD ファイル名を変更することはできません。



- ③ [OK] ボタンを押す。
新規作成または更新した設定情報が PGD ファイルに保存され、メイン画面に戻ります。

(2) 読み込んだファイルに上書きで保存する

- ① [ファイル] メニューの [上書き保存] メニューコマンドを選ぶ。
読み込んだファイルに更新された設定情報が保存されます。



6.9 作成したファイルを開く

- ① [ファイル] メニューの [開く] メニューコマンドを選ぶ。



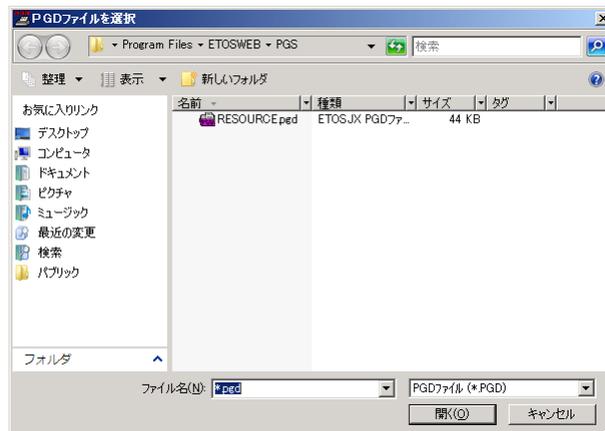
- ② オープンするファイル名を指定する。

[ファイルを開く] ダイアログボックスがオープンします。

[ファイル名] テキストボックスに、オープンする PGD ファイル名を入力します。指定するファイルがカレントディレクトリに存在しない場合は、ディレクトリやドライブを [ディレクトリ] 一覧や [ドライブ] 一覧で指定します。

- ③ [開く] ボタンを押す。

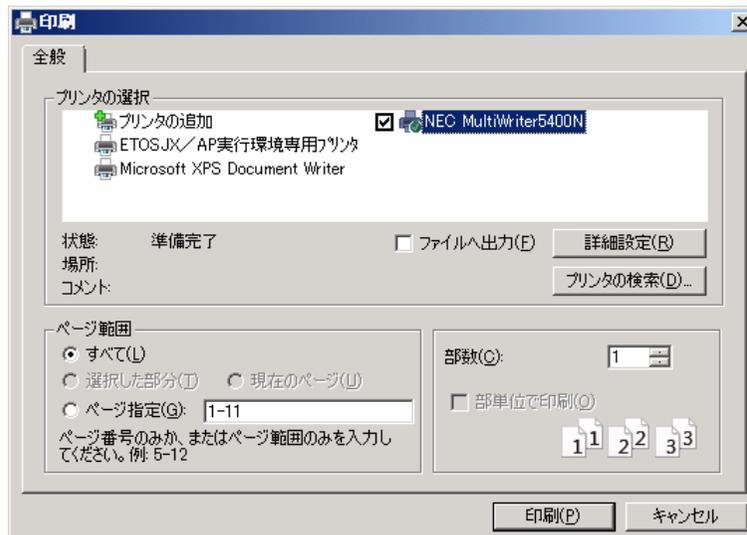
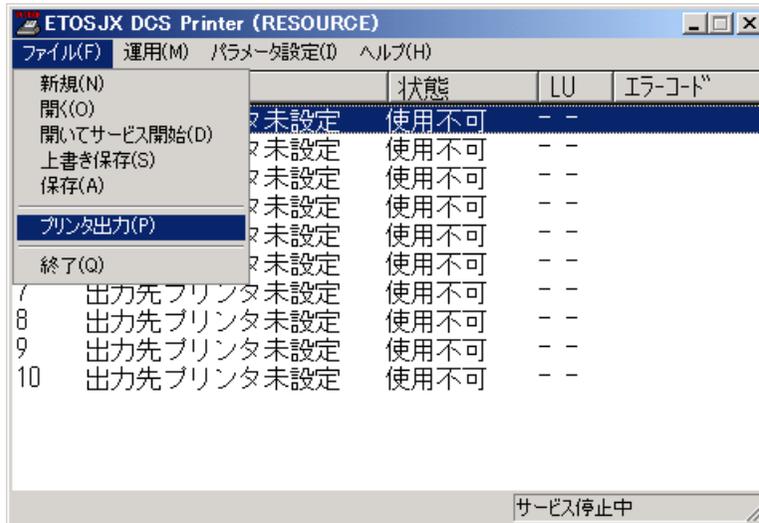
ダイアログボックスがクローズし、指定したファイルから設定情報が読み込まれます。



6.10 PGD ファイルを印刷する

PGD ファイルの内容をプリンタに出力します。

- ① [ファイル] メニューの [開く] メニューコマンドを選び、印刷する PGD ファイルをオープンする。
- ② [ファイル] メニューの [プリンタ出力] メニューコマンドを選ぶ。

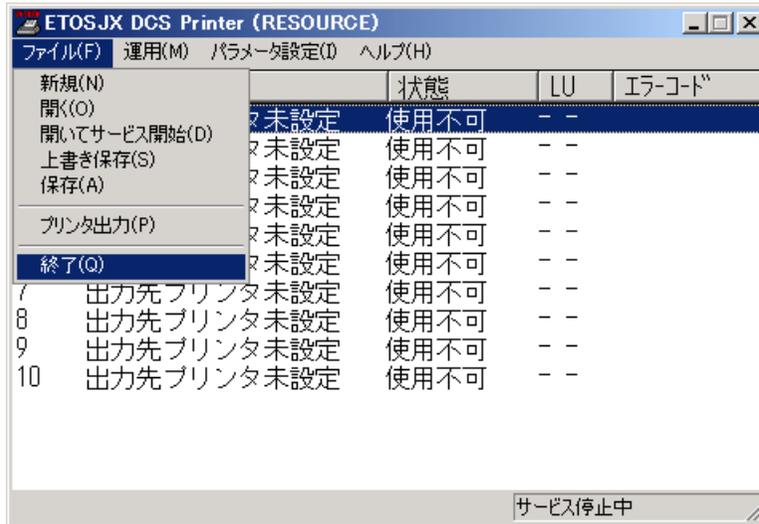


- ③ [印刷] ボタンを押す。
ダイアログボックスがクローズし、指定したプリンタから PGD ファイルの内容が印刷されます。

6.11 ファイル作成を終了する

PGD ファイルの作成を終了します。

- ① [ファイル] メニューの [終了] メニューコマンドを選ぶ。



- ② DCS プリンタを終了する。

第7章

パラメータファイルを変換する

この章では、PG コンバータによるパラメータファイルの変換方法と作成方法について説明します。

7. 1 PG コンバータとは
7. 2 パラメータファイルの変換手順
7. 3 PG コンバータを起動する
7. 4 パラメータファイルを変換する
7. 5 バージョン情報を表示する
7. 6 PG コンバータを終了する

第7章 パラメータファイルを変換する

7.1 PG コンバータとは

PG コンバータは、パラメータファイルを変換するためのユーティリティプログラムです。既に作成済みの ETOSWEB SERVER (Ver6.0) 以前および ETOSJX Ver5.2 以前 (他 OS で作成されたファイルを含む) の PG ファイル (*.PG)、PGD ファイル (*.PGD)、およびリソースファイル (*.ETS) を、本製品で使用できるファイルへ変換します。

また、他 OS で作成した ETOSWEB SERVER V6.2 のパラメータファイルを、現在動作中の OS で使用できる形式にもコンバートします。

本製品のパラメータファイルとして使用するには、一旦 ETOSJX-PG で読み込み、保存する必要があります。

7.2 パラメータファイルの変換手順

パラメータファイルを、次の手順で変換します。

- ① PG コンバータを起動する。
- ② パラメータファイルが存在するディレクトリを指定する。
パラメータファイルが ETOSWEB SERVER インストールディレクトリ配下の PGS ディレクトリに存在する場合、指定する必要はありません。
- ③ 変換を行う通信リソース名を指定する。
- ④ パラメータファイルを変換する。
- ⑤ PG コンバータを終了する。

(注意)

- SG ファイルのコンバートを行うとコンバート前の SG ファイルは旧製品で使用できなくなります。SG ファイルは必ずバックアップを採取した上でコンバートしてください。
- 他 OS で作成されたパラメータファイルは、ハードコピー、COMI-2 プリンタ、DCS プリンタのプリンタ出力先がすべて「通常使うプリンタ」にコンバートされます。
出力先プリンタを「通常使うプリンタ」以外に変更したい場合は再設定が必要です。
- マシン固有情報(キーボード種別・プリンタ情報等)は、再設定する必要があります。
- ETOSWEB SERVER (Ver3.5) の SG ファイルは、Ver3.0 と表示されます。

7.3 PG コンバータを起動する

パラメータファイルを変換するために、PG コンバータを起動します。

- ① Windows の [スタート] メニューから [ETOSWEB SERVER] - [PG コンバータ] を選ぶ。

PG コンバータの画面が表示されます。

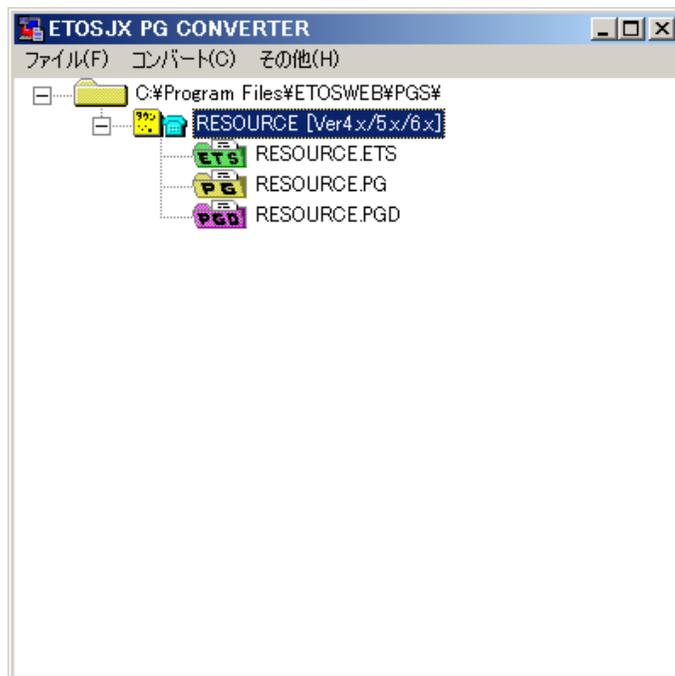


7.4 パラメータファイルを変換する

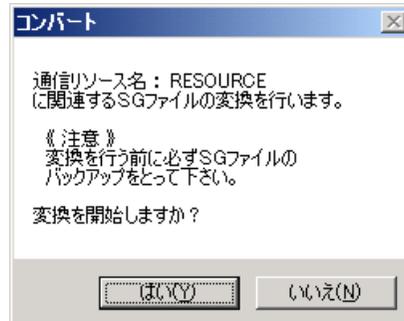
ETOSWEB SERVER (Ver6.0)以前、および ETOSJX Ver5.2 以前で作成したパラメータファイルを本製品の ETOSJX-PG で使用できるパラメータファイルに変換します。

また、他 OS で作成した ETOSWEB SERVER V6.2 のパラメータファイルを現在使用中の OS の ETOSJX-PG で使用できる形式にもコンバートします。

- ① [ファイル] メニューの [ディレクトリ指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② 変換するパラメータファイルが存在するディレクトリ名を入力する。
[ディレクトリの選択] ダイアログボックスがオープンします。変換するパラメータファイルが存在するディレクトリを指定してください。
パラメータファイルがカレントディレクトリに存在する場合は、新たにディレクトリを指定する必要はありません。[OK] ボタンを押してください。
- ③ 変換を行う通信リソース名を選択する。



- ④ [ファイル] メニューの [コンバート] メニューコマンドを選ぶ。
変換の実行確認メッセージが表示されます。
[はい] を選択すると、選択した通信リソースに関連するすべてのパラメータファイルを、本製品で使用できるファイルに変換します。



7.5 バージョン情報を表示する

PG コンバータのバージョン情報を表示します。

- ① [その他] メニューの [バージョン情報] メニューコマンドを選ぶ。
- ② バージョン情報を確認する。
[PG コンバータのバージョン情報] ダイアログボックスがオープンします。
バージョン情報を確認してください。



- ③ [OK] ボタンを押す。
もとの画面に戻ります。

7.6 PG コンバータを終了する

PG コンバータを終了します。

- ① [ファイル] メニューの [終了する] メニューコマンドを選ぶ。
- ② PG コンバータを終了する。

第8章

LU 定義ファイルの作成

この章では、LU 定義ファイルの概要と作成方法について説明します。

8. 1 LU 定義ファイルとは
8. 2 LU 定義ツールを起動する
8. 3 LU 定義ファイルを新規作成する
8. 4 LU 定義ファイルを更新する
8. 5 LU 定義リストを印刷する
8. 6 エラーメッセージ

第8章 LU 定義ファイルの作成

8.1 LU 定義ファイルとは

通信リソースごとに、画面、プリンタを使用するコンピュータ(サーバ/クライアント)のコンピュータ名または IP アドレスと、使用する画面 LU、プリンタ LU(それぞれ最大 10 個まで定義可能)を定義するファイルです。

以下の場合に LU 定義ファイルの設定を行ってください。

① プリンタ LU を使用する場合

プリンタ LU については、ETOSJX-PG の [基本パラメータ] → [ユニットアドレス] の指定に関わらず、LU 定義ファイルの定義のみが有効となります。

※ただし、プリンタ LU として「24h」を使用する場合は、ネットワークマネージャの LU 情報定義にて、WS#0 のプリンタ LU に「24h」の設定が必要です。

② 任意のコンピュータに対して固定の画面 LU を定義する場合

ETOSJX-PG の [基本パラメータ] → [ユニットアドレス] にて“LU 定義ファイル”を選択した場合のみ LU 定義ファイルの定義が有効となります。

注意： ネットワークマネージャの LU 情報定義にて、WS#1 以降に割り当てた LU は、ETOSWEB SERVER では使用できません。

8.2 LU 定義ツールを起動する

Windows の [スタート] メニューから [ETOSWEB SERVER] - [LU 定義ツール] を選択します。

※ LU 定義ツールで LU 定義ファイルを作成すると、以降は「エクスプローラ」にて、使用する LU 定義ファイル(*.elu)を選択すると LU 定義ツールを起動することができます。

8.3 LU 定義ファイルを新規作成する

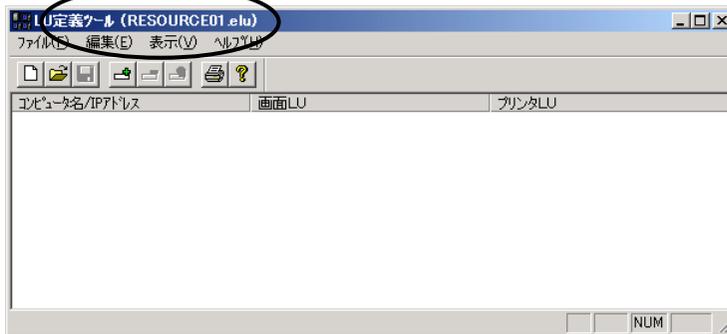
(1) 通信リソースの選択

LU 定義ファイルを作成する通信リソースを選択します。

- ① メニューの [ファイル(F)] - [新規作成(N)] を選択する。
通信リソース名選択のダイアログが表示されます。
- ② コンボボックスからリソース名を選択するか、リソース名を直接入力する。



- ③ リソース名入力後、[OK] ボタンを押す。
タイトルバーに、選択されたリソース名に対する LU 定義ファイルのファイル名が表示されます。



(2) LU の定義

クライアントのコンピュータ名または IP アドレスを追加し、そのコンピュータに対する画面 LU とプリンタ LU を定義します。

- ① メニューの [編集(E)] - [追加(I)] を選択する。
[コンピュータの追加] ダイアログが表示されます。
- ② コンピュータ名または IP アドレスおよび、画面 LU、プリンタ LU を入力する。
(画面 LU、プリンタ LU は左詰めで入力してください。)

- ③ 必要な情報を入力し終わったら、ダイアログの [追加] ボタンを押す。

追加されたデータがメイン画面のリストの最後に表示されます。

(注意) コンピュータ名または IP アドレスは、編集ダイアログの [追加] ボタンをクリックした時点で、ラジオボタンにチェックのある方のみが登録されます。

(3) LU 定義情報ファイルの保存

作成した LU 定義情報をファイルに保存します。

- ① メニューの [ファイル(F)] - [保存(S)] を選択する。

保存が正常に終了すると、「保存しました。」というメッセージが表示されます。

LU 定義ファイルは「通信リソース名.elu」の形のファイル名で、ETOSWEB SERVER インストールディレクトリの下に「PGS」ディレクトリ内に保存されます。

8.4 LU 定義ファイルを更新する

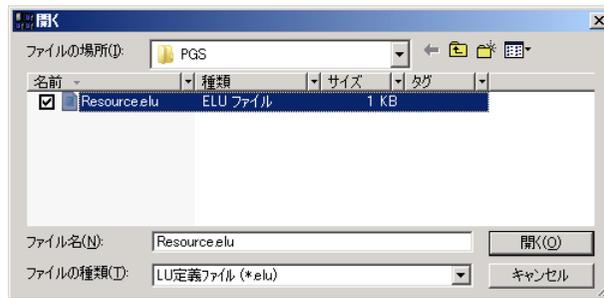
(1) LU 定義ファイルの選択

更新する既存の LU 定義ファイルを開きます。

- ① メニューの [ファイル(F)] - [開く(O)] を選択する。

ファイルを選択するダイアログが表示されます。

- ② 編集する LU 定義ファイルを選択する。



選択したファイル中に書き込まれた LU 定義情報がクライアント領域にリスト表示されます。



(2) コンピュータの追加

新たにクライアントコンピュータを追加する場合、以下の手順で行います。

- ① メニューの [編集(E)] - [追加(I)] を選択する。

[コンピュータの追加] ダイアログが表示されます。

- ② コンピュータ名または IP アドレスおよび、画面 LU、プリンタ LU を入力する。



- ③ 必要な情報を入力し終わったら、ダイアログの [追加] ボタンを押す。

追加されたデータがメイン画面のリストの最後に表示されます。

(注意) コンピュータ名または IP アドレスは、編集ダイアログの [追加] ボタンをクリックした時点で、ラジオボタンにチェックのある方のみが登録されます。

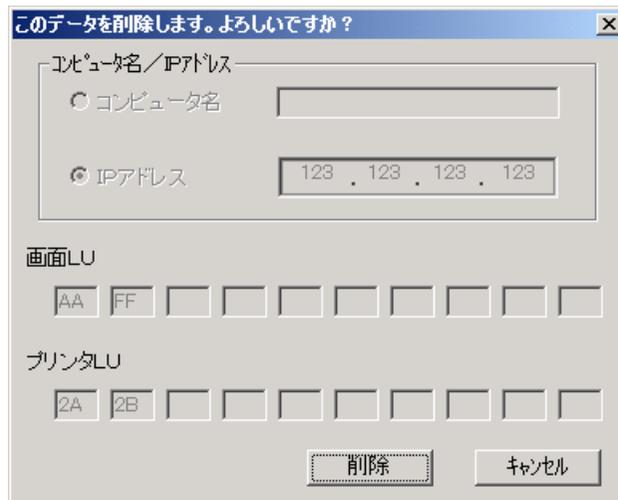
(3) コンピュータの削除

既存のクライアントコンピュータをリストから削除する場合、以下の手順で行います。

- ① 削除するコンピュータのコンピュータ名または IP アドレスをマウスで左クリックして選択するか、もしくはカーソルキーの上下キーで選択する。
- ② メニューの [編集(E)] - [削除(X)] を選択する。

削除確認のダイアログが表示されます。

- ③ 削除してよければ [OK] ボタンを押す。



メイン画面のリストから選択されていたコンピュータが削除されます。

(4) データの変更

既存の定義情報を変更する場合、以下の手順で行います。

- ① 変更したいコンピュータのコンピュータ名または IP アドレスをマウスの左クリックで選択するか、もしくはカーソルキーの上下キーで選択する。
- ② メニューの [編集(E)] - [更新(U)] を選択する。

編集ダイアログが表示されます。

- ③ 定義情報を変更してダイアログの [更新] ボタンを押す。

データの変更

コンピュータ名/IPアドレス

コンピュータ名

IPアドレス

123 . 123 . 123 . 123

画面LU

AA FF

プリンタLU

2A 2B

更新 キャンセル

選択されていたコンピュータの定義情報が変更され、LU 定義ツール画面に表示されます。

- (注意) コンピュータ名または IP アドレスは、編集ダイアログの [更新] ボタンをクリックした時点で、ラジオボタンにチェックのある方のみが登録されます。

(5) LU 定義情報ファイルの保存

変更した LU 定義情報をファイルに保存します。

- ① メニューの [ファイル(F)] - [保存(S)] を選択します。

保存が正常に終了すると、“保存しました。”というメッセージが表示されます。

LU 定義ファイルは“通信リソース名.elu”の形のファイル名で、ETOSWEB SERVER インストールディレクトリの下の“PGS”ディレクトリ内に保存されます。

8.5 LU 定義リストを印刷する

(1) プリンタの設定

使用するプリンタの設定を行います。

- ① メニューの [ファイル(F)] - [プリンタの設定(R)] を選択する。

「プリンタの設定」ダイアログが表示されますので、印刷に必要な設定を行います。

(2) 印刷プレビュー

印刷前に印刷イメージを確認する場合に使用します。

- ① メニューの [ファイル(F)] - [印刷プレビュー(V)] を選択します。

印刷イメージが表示されます。

(3)印刷

LU 定義情報の一覧を印刷します。

- ① メニューの [ファイル(F)] - [印刷(P)] を選択します。

「印刷」ダイアログが表示されます。

印刷範囲等を設定し、[OK] ボタンをクリックすると印刷が始まります。



(4)印刷イメージ

印刷を実行すると、次の例のような形で印刷されます。

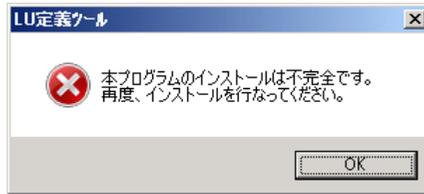
例)	ファイル名	ラベル	印刷した日付
	Resource. elu		2015/04/01
	コンピュータ名/IPアドレス	画面 LU	プリンタ LU
	Computer1	29	48
	Computer2	28	25, 26
	123. 123. 123. 123	AA, FF	2A, 2B, 2C
Page : 1			

ページ数

8.6 エラーメッセージ

LU 定義ツールで表示されるエラーメッセージの原因と対処についてを説明します。

- (1) 起動時に次のようなメッセージが表示される場合



原因：レジストリ情報の読み込みができなかった場合に表示されます。
 対処：ETOSWEB SERVER を再インストールしてください。

- (2) 起動時に次のようなメッセージが表示される場合

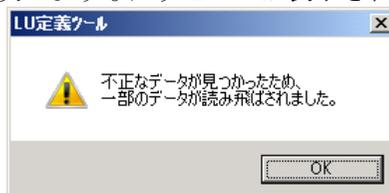


原因：ネットワークマネージャのインストールが不完全の可能性が考えられます。
 対処：ネットワークマネージャの再インストールをしてください。

- (3) ファイル読み込み時に「異なるファイル形式です。」というメッセージが表示される場合

原因：開こうとしたファイルが本ツールで作成された LU 定義ファイルでないか、ファイルが壊れている可能性があります。
 対処：LU 定義ファイルを新しく作成し直してください。

- (4) ファイル読み込み時に次のようなメッセージが表示される場合



原因：開いたファイルの中に不正なデータ形式が見つかった場合に表示されます。
 対処：なし。その後の動作には支障ありません。

- (5) コンピュータの追加、または更新の時に、「コンピュータ名が不正です。」というメッセージが表示される場合

原因：コンピュータ名に不正な文字(スペース)が含まれているか、あるいはコンピュータ名の入力領域に IP アドレスを入力した場合に表示されます。

対処：正しくコンピュータ名を入力してください。

- (6) コンピュータの追加、または更新時に、「同じ LU が複数定義されています。」というメッセージが表示される場合



原因：1つのコンピュータに対して、同じ LU が複数定義されている場合に発生します。

対処：LU 定義を見直してください。

- (7) コンピュータの追加、または更新時に、「同じ LU が複数のコンピュータに対して定義されています。」というメッセージが表示される場合



原因：追加、更新で定義した LU が既に他のコンピュータで使用されている場合に表示されます。

対処：この場合、処理はそのまま続行できますが、LU は重複しないように定義することをお勧めします。

重複して定義した場合、先に起動した画面、プリンタに対してのみ LU が割り当てられます。

第9章

INI ファイル編集ツール

INI ファイル編集ツールの概要と操作方法について説明します。

- 9. 1 INI ファイル編集ツールとは
- 9. 2 INI ファイル編集ツールの起動／終了
- 9. 3 サーバ情報を変更する
- 9. 4 クライアント情報を変更する
- 9. 5 ActiveX 版起動設定を変更する
- 9. 6 ログ採取設定を変更する

第9章 INI ファイル編集ツール

9.1 INI ファイル編集ツールとは

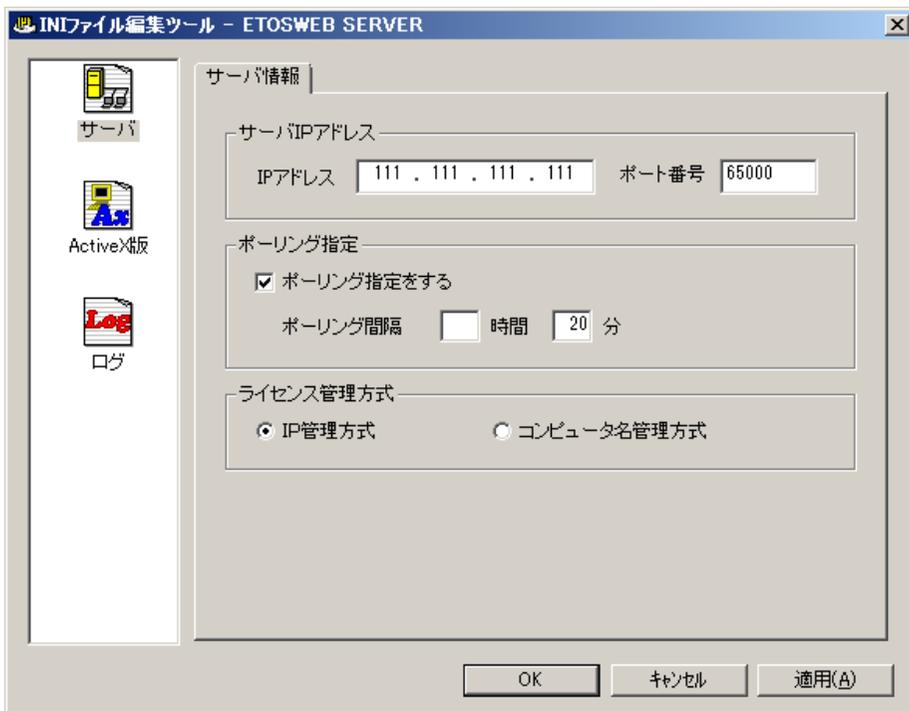
INI ファイル編集ツールとは、ETOSWEB SERVER の設定情報を変更するためのユーティリティプログラムです。

9.2 INI ファイル編集ツールの起動／終了

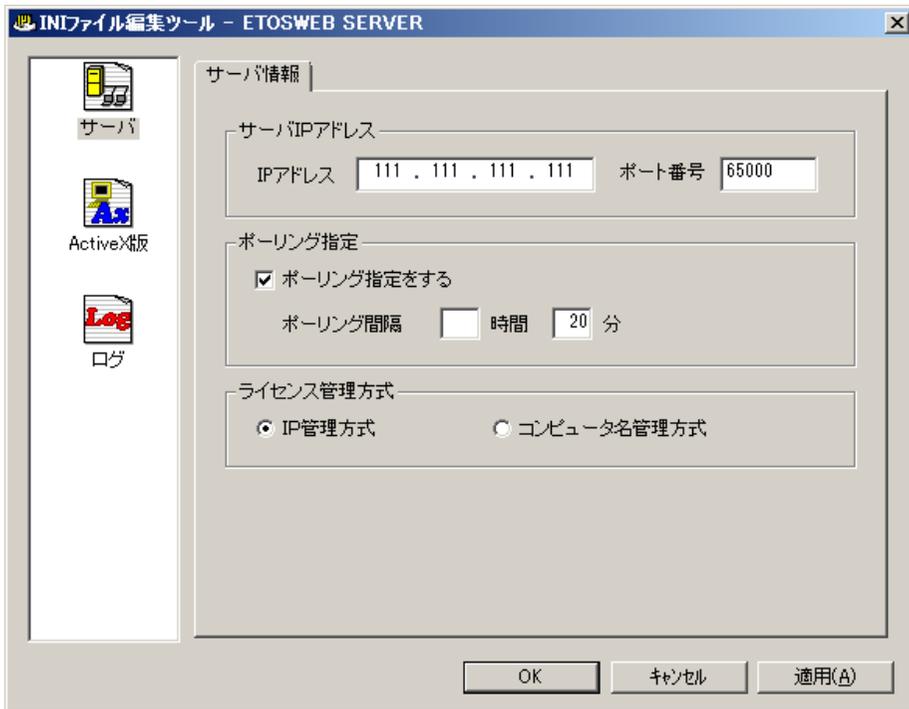
9.2.1 INI ファイル編集ツールを起動する

Windows の [スタート] メニューから [ETOSWEB SERVER] - [INI ファイル編集ツール] を選択します。

INI ファイル編集ツールが起動します。



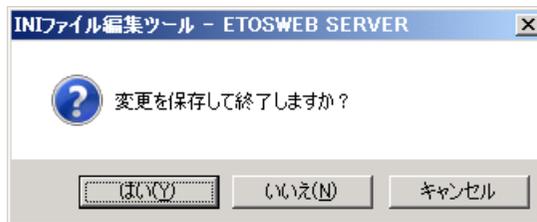
9.2.2 INI ファイル編集ツールを終了する



(1) 設定を保存して終了する

[OK] ボタンを押します。

設定が変更されている場合、以下のメッセージが表示されるので [はい(Y)] を選択してください([いいえ(N)] を選択すると設定を保存せずに終了します)。

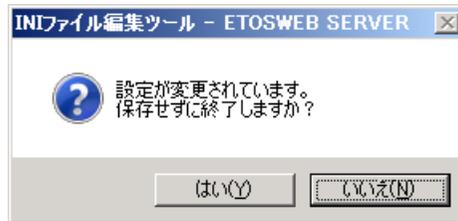


もしくは、[適用(A)] ボタンを押した後に [OK] ボタンを押します。

(2) 設定を保存せずに終了する

[キャンセル] ボタンを押します。

設定が変更されている場合、以下のメッセージが表示されるので [はい(Y)] を選択してください([いいえ(N)] を選択すると設定の保存とツールの終了は行いません)。



9.3 サーバ情報を変更する

[サーバ] アイコンを選択すると、サーバ情報設定のプロパティシートがオープンします。

(注意) [サーバ] アイコンは ActiveX 版がインストールされていない環境では表示されません。



(1) サーバ環境の IP アドレスを変更する

[サーバ] にサーバ環境の IP アドレスとポート番号を入力してください。
IP アドレスは 10 進数で指定し、有効範囲は 0~255 です。
ポート番号の有効範囲は、1024~65535 です。

(注意) サーバ環境のネットワーク設定が変更された時以外は変更しないでください。

(2) ポーリング設定を変更する

起動中のクライアントの状態を定期的に監視する場合、[ポーリング指定をする] にチェックマークを付加し、[ポーリング間隔] に監視間隔時間を入力してください。
有効範囲は 1 分~24 時間 0 分です。

(3) ライセンスの管理方式を変更する

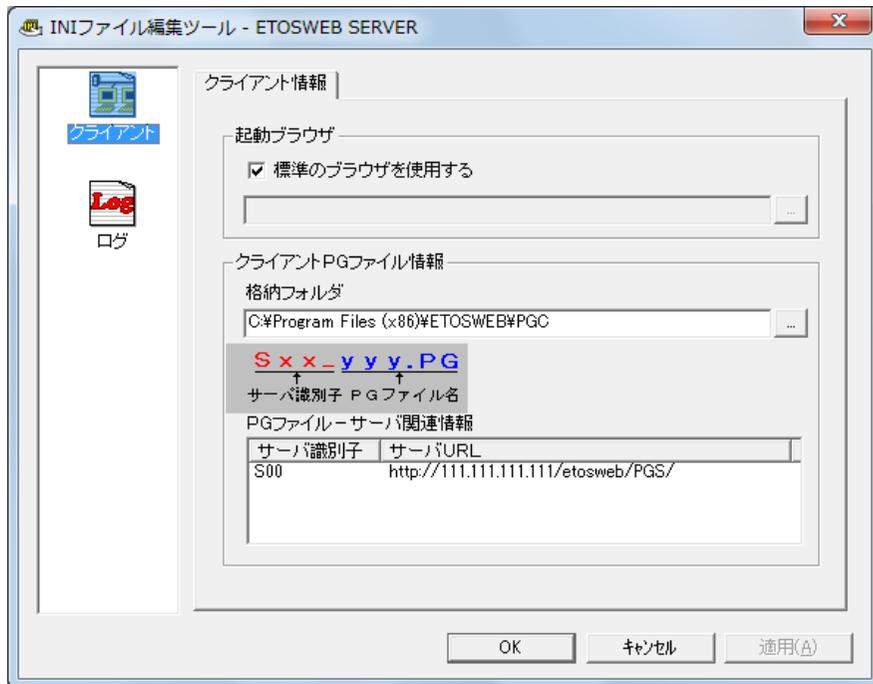
ライセンスを管理する方法を選択します。

IP アドレスによる管理を行う場合は [IP 管理方式] を、コンピュータ名による管理を行う場合は [コンピュータ名管理方式] を指定してください。

9.4 クライアント情報を変更する

[クライアント] アイコンを選択すると、クライアント情報設定のプロパティシートがオープンします。

(注意) [クライアント] アイコンは ActiveX 版クライアントがインストールされていない環境では表示されません。



(1) ActiveX 版を起動するブラウザを変更する

ActiveX 版を起動するブラウザとして通常使うブラウザを使用しない場合、[標準のブラウザを使用する] のチェックマークを外し、使用するブラウザをフルパスで入力してください。

(注意)

- 1) 通常使うブラウザに Internet Explorer 以外のブラウザが指定されている場合は必ず変更してください。
- 2) Internet Explorer 以外のブラウザを指定しないでください。

(2) クライアント PG ファイル格納フォルダを変更する

[格納フォルダ] に ActiveX 版のクライアントパラメータ情報を格納するフォルダをフルパスで入力してください。

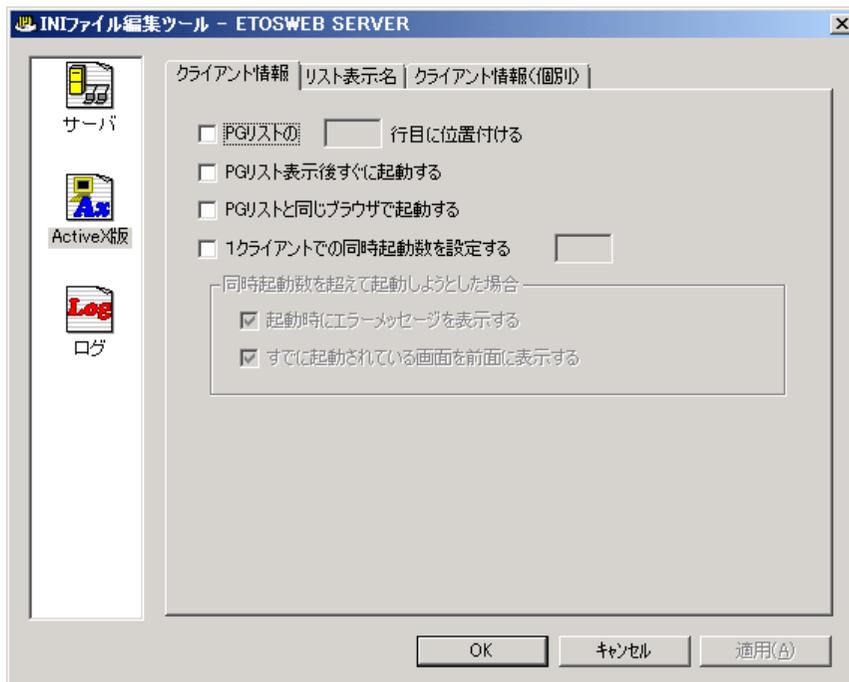
9.5 ActiveX 版起動設定を変更する

[ActiveX 版] アイコンを選択すると、ActiveX 版起動設定のプロパティシートがオープンします。

(注意) [ActiveX 版] アイコンは ActiveX 版がインストールされていない環境では表示されません。

9.5.1 ActiveX 版クライアントの起動設定を変更する

[クライアント情報] タブを選択します。



(1) カーソルの既定位置を設定する

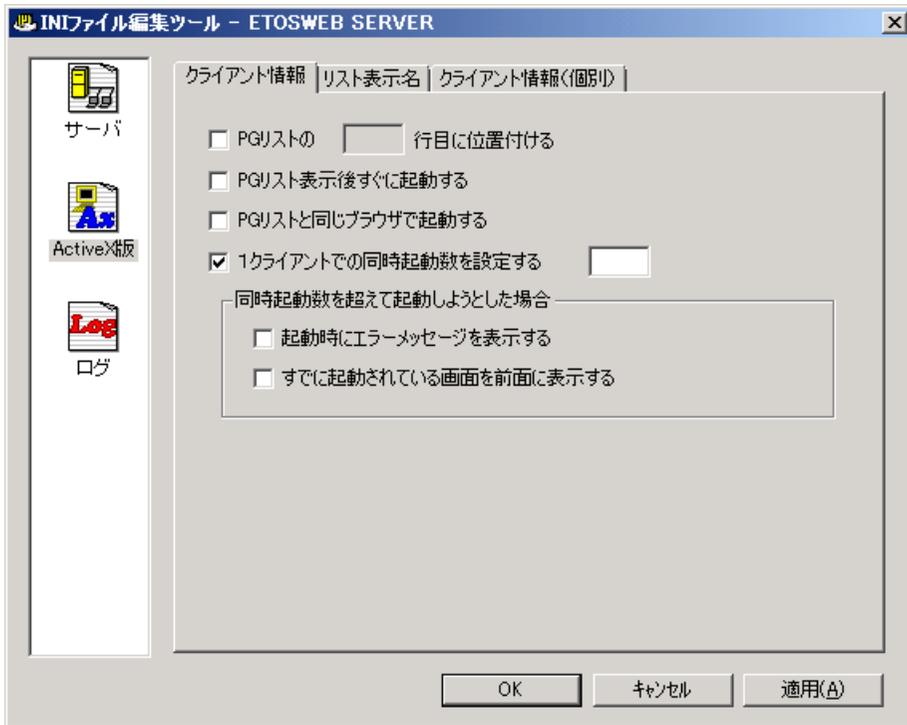
PG リストが表示された時、どの位置にカーソルを位置付けるかを設定する場合、[PG リストの□行目に位置付ける] にチェックマークを付加し、カーソルを位置付ける行を入力してください。

(2) 起動属性を設定する

- ① PG リストを表示後すぐに ActiveX 版を起動させる場合、[PG リスト表示後すぐに起動する] にチェックマークを付加してください。
- ② PG リストと同じブラウザで ActiveX 版を起動させる場合、[PG リストと同じブラウザで起動する] にチェックマークを付加してください。

(3) 同時起動数を設定する

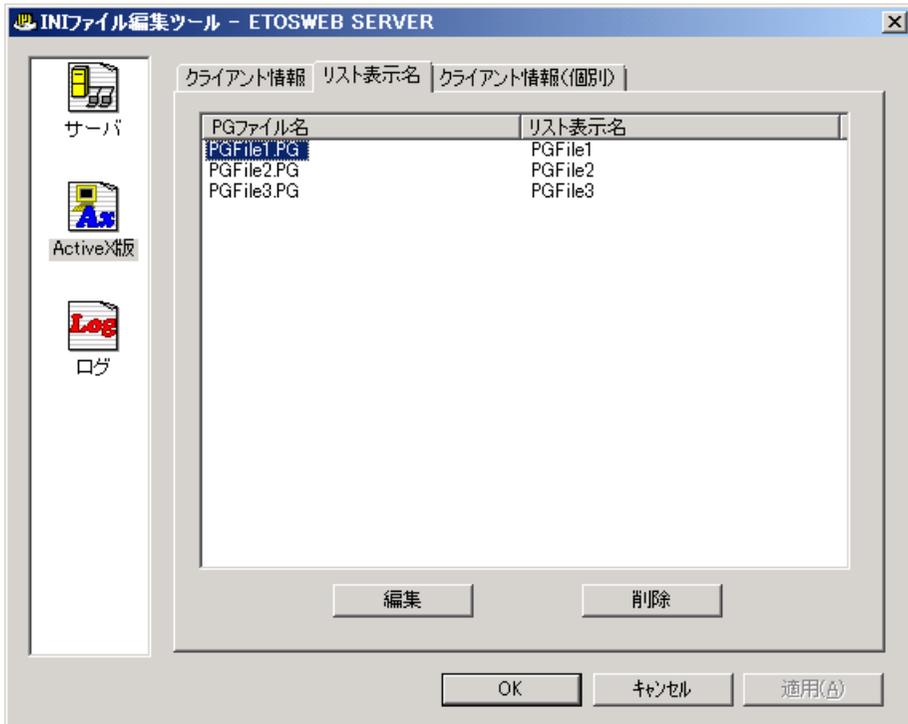
- ① 1台のクライアントで同時に起動できる画面数を制限する場合、[1クライアントでの同時起動数を設定する]にチェックマークを付加し、同時に起動できる画面数を入力してください。



- ② 設定した同時起動数を超過して画面を起動した場合の動作を指定します。
- エラーメッセージを表示する場合、[起動時にエラーメッセージを表示する]にチェックマークを付加してください。
 - 起動中の画面を前面に表示する場合、[すでに起動されている画面を前面に表示する]にチェックマークを付加してください。

9.5.2 PG リストの表示内容を変更する

[リスト表示名] タブを選択します。



(1) PG リスト表示名を変更する

PG リスト表示名を変更する PG ファイルを選択し [編集] ボタンを押します。

[リスト表示名編集] ダイアログがオープンします。

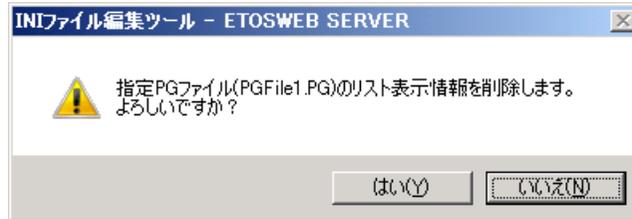


[リスト表示名] に PG リストで表示する名前を入力してください。

(2) PG リストから削除する

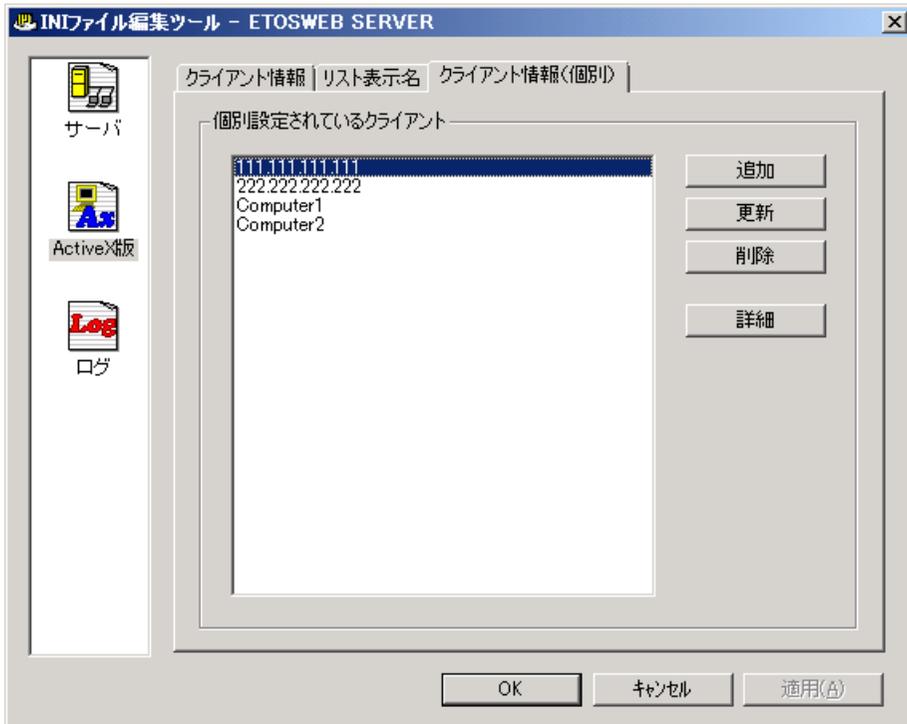
PG リストから削除したいPG ファイル名を選択し [削除] ボタンを押します。

以下のメッセージが表示されるので [はい(Y)] を選択してください([いいえ(N)] を選択すると削除は行いません)。



9.5.3 ActiveX 版クライアントの起動設定をカスタマイズする

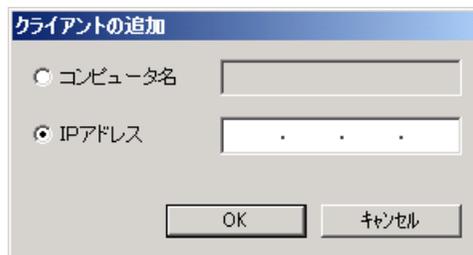
[クライアント情報(個別)] タブを選択します。



(1) 個別設定するクライアントを追加する

[追加] ボタンを押します。

[クライアントの追加] ダイアログがオープンします。

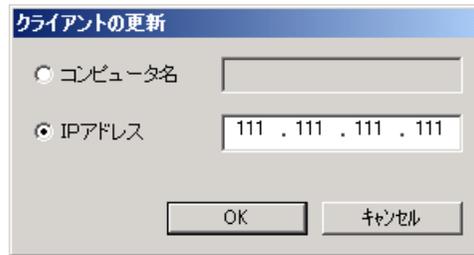


クライアントをコンピュータ名で指定する場合、[コンピュータ名] を選択してクライアントのコンピュータ名を入力してください。

IPアドレスで指定する場合、[IPアドレス] を選択してクライアントのIPアドレスを入力してください。

(2) 個別設定するクライアントを変更する

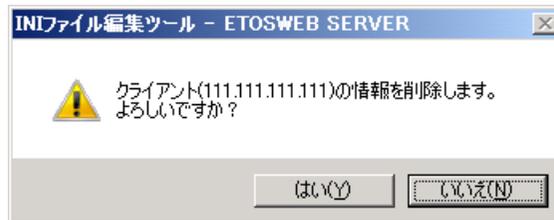
クライアント名を変更するクライアントを選択し [更新] ボタンを押します。
[クライアントの更新] ダイアログがオープンします。



[コンピュータ名] もしくは [IP アドレス] を編集してください。

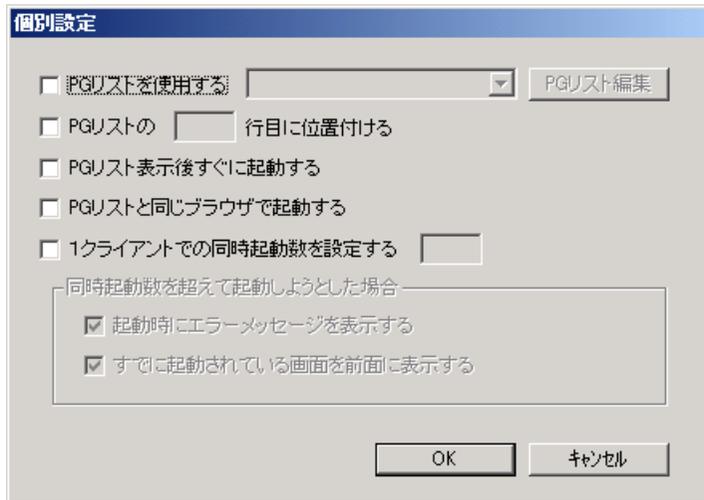
(3) 個別設定するクライアントを削除する

個別設定を削除するクライアントを選択し [削除] ボタンを押します。
以下のメッセージが表示されるので [はい(Y)] を選択してください([いいえ(N)] を選択すると削除は行いません)。

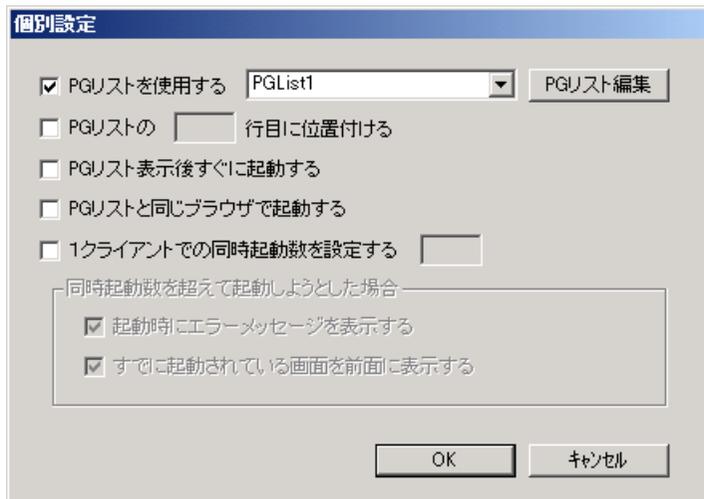


(4) 起動設定をカスタマイズする

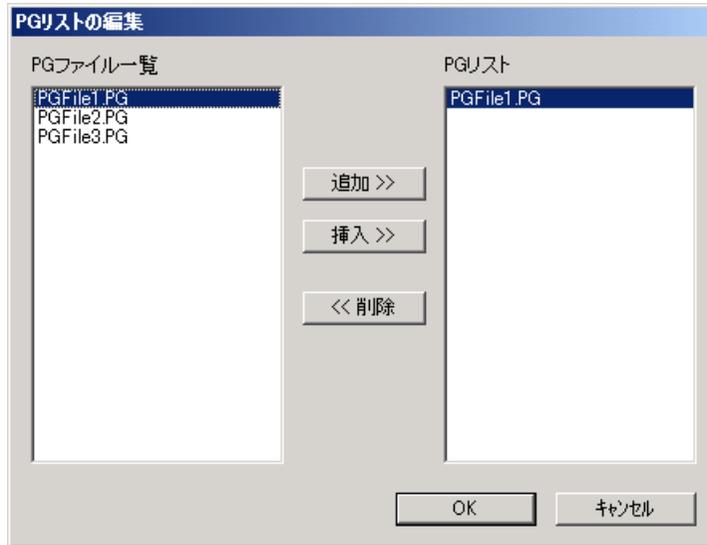
起動設定をカスタマイズするクライアントを選択し [詳細] ボタンを押します。
[個別設定] ダイアログがオープンします。



- ① PG リストをカスタマイズする場合、[PG リストを使用する] にチェックマークを付加し、カスタマイズ PG リスト名を入力してください。



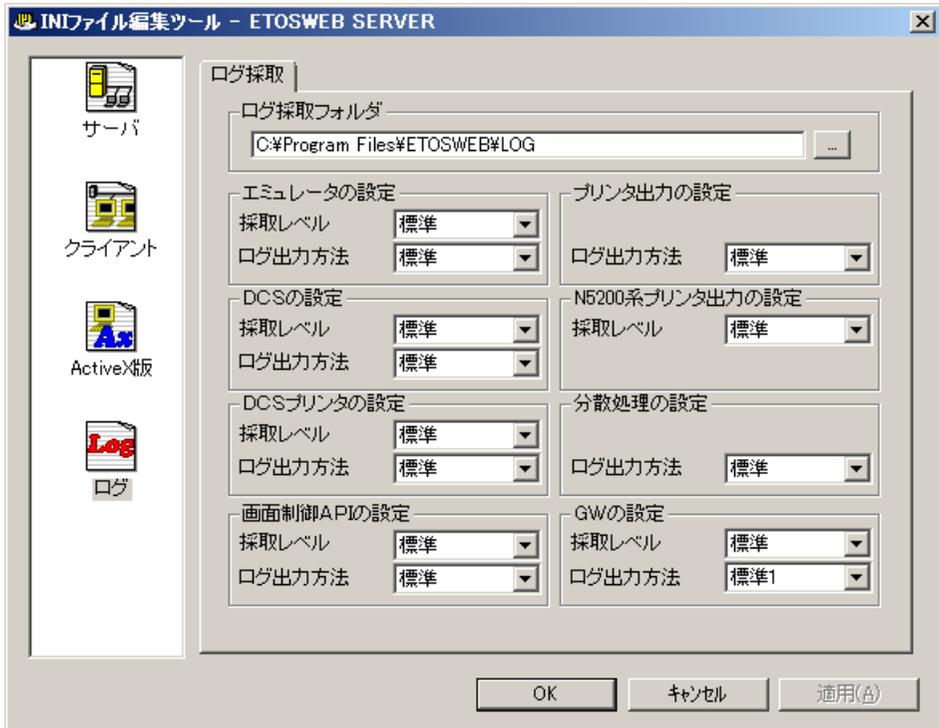
[PG リスト編集] ボタンを押すと [PG リストの編集] ダイアログがオープンします。



- カスタマイズ PG リストに PG ファイルを追加する
[PG ファイル一覧] から、カスタマイズ PG リストに追加する PG ファイルを選択してください。
[追加] ボタンを押すと [PG リスト] の最後尾に追加します。
[挿入] ボタンを押すと [PG リスト] の現在のカーソル位置に挿入します。
 - カスタマイズ PG リストから PG ファイルを削除する
[PG リスト] から削除する PG ファイルを選択してください。
[削除] ボタンを押すと [PG リスト] から削除します。
全ての PG ファイルを削除した場合、カスタマイズ PG リストを削除します。
- ② その他の設定については、「**9. 5. 1 ActiveX 版クライアントの起動設定を変更する**」を参照してください。

9.6 ログ採取設定を変更する

[ログ] アイコンを選択すると、ログ採取設定のプロパティシートがオープンします。



(1) ログ採取フォルダを変更する

[ログ採取フォルダ] にログファイルを保存するフォルダをフルパスで指定してください。

(2) ログの採取レベルと出力方法を変更する

各機能のログ採取レベルおよび出力方法を選択します。

採取レベル/出力方法を [標準] 以外に設定した場合、設定保存時に以下のメッセージが表示されます。



(注意) ログ採取レベルおよび出力方法の変更は、保守員の指示がない場合は絶対に行わないでください。

第10章

拡張機能の設定

この章では、拡張機能を使用する際の設定について説明します。

- 10.1 9ポイント文字の印刷設定
- 10.2 PrintBridge を経由して印刷する
- 10.3 BizReporting を経由して印刷する

第 10 章 拡張機能の設定

10.1 9 ポイント文字の印刷設定

ETOSWEB SERVER をインストールした直後の設定では、9 ポイント文字の印刷はできません (10.8 ポイント相当文字として印刷されます)。

N5200 系コードを使用して、ホストから 9 ポイント文字の印刷を行う場合、ETOSWEB SERVER で以下の設定が必要です。

(1) 9 ポイント文字印刷の注意事項

- ① 9 ポイント文字サイズの設定、文字ピッチの設定は、以下のシーケンスを使用してください。
 - ・文字サイズの設定：漢字文字サイズ指定を使用してください。
 - 例：標準倍角文字 1A 26 (29 60) 29 70 () : 省略可能
 - 縦 2 倍角文字 1A 26 21 28 60 29 70
 - 横 2 倍角文字 1A 26 29 60 21 28 70
 - ・文字ピッチの設定：文字ピッチ指定を使用してください。
 - 例： 1A 24 29 70
- ② 9 ポイント文字の印刷が可能なプリンタは、「付録 N5200 系コード対応プリンタ」を参照してください。
- ③ 9 ポイント文字の印刷ができないプリンタが接続されているにも関わらず、9 ポイント文字の印刷設定を行った場合、正しい印刷結果は得られません。

(2) 9 ポイント文字印刷の設定方法

- ① Windows フォルダにある ETOSIPEC.INI ファイルをメモ帳等で開きます。
- ② ETOSIPEC.INI ファイルの末尾にある [Control] セクションに下記の記述を追加してファイルを保存します。

```
PAPER2=10, 1 0 inch
SOURCE1=TF, トラクタフイター
ORIENTATION=1
POSITION=1

[Control]
9PCHAR=108 ←ここに記述を追加
```

ただし、N5200 系コード印刷に使用する外字ファイルが「移行外字」(注 1)の場合は、9 ポイント文字印刷時に参照する外字ファイルを指定する必要があります。

下表の 3 種類の記述から適切な設定値を選択してください。

(注 1) 「Windows 標準外字」を利用する場合、上記設定は外字をプリンタにビットマップで登録する際のドットサイズを表します。通常は、9PCHAR=108 と設定してください。

設定	意味
9PCHAR=72	9ポイント外字に7ポイント(24×24ビット)の外字ファイルを使用する。
9PCHAR=108	9ポイント外字に10.8ポイント(36×36ビット)の外字ファイルを使用する。
9PCHAR=120	9ポイント外字に12ポイント(40×40ビット)の外字ファイルを使用する。

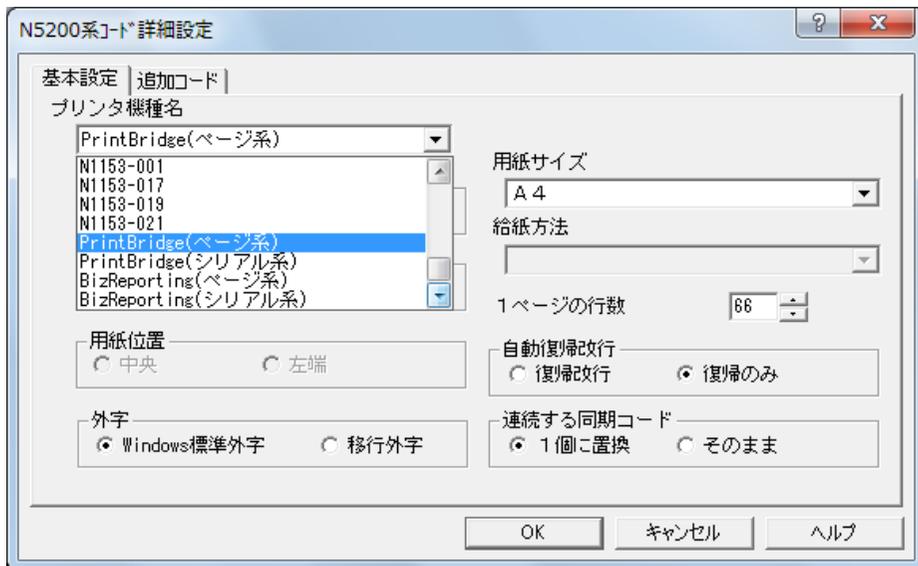
10.2 PrintBridge を経由して印刷する

N5200 系コードの印刷は、PrintBridge と連携することにより以下の印刷が可能となります。

- ・ LAN へ接続され他プリンタへの障害通知機能を使用した印刷(PrintAgent が必要)
- ・ 他社製プリンタへの印刷(エプソン製、キャノン製を推奨)

PrintBridge を使用する場合は、次の手順で印刷を行ってください。

- ① PrintAgent をインストールする。
障害通知機能を使用する場合、PrintAgent か、SimpleMonitor(および PrintAgent 拡張モジュール for SimpleMonitor)(プリンタ添付)が必要となります。
障害通知機能を使用しない場合はインストールする必要はありません。
- ② PrintBridge をインストールする。
※インストール方法については、PrintBridge のマニュアルを参照してください。
- ③ PrintBridge の SG でプリンタドライバを定義する。
印刷に使用するプリンタドライバを PrintBridge の SG ツールで定義してください。
※設定方法については、PrintBridge のマニュアルを参照してください。
- ④ ETOSWEB SERVER の SG で PrintBridge を指定する。
N5200 系コードの詳細設定でプリンタ機種名に PrintBridge を指定してください。



設定するプリンタ機種名は、ホスト側で定義しているプリンタにより変わります。
実際に印刷するプリンタ機種には依存しませんので注意してください。

ホストで定義したプリンタ	設定するプリンタ機種名
ページプリンタ	PrintBridge(ページ系)
シリアルプリンタ	PrintBridge(シリアル系)

- ⑤ 印刷を行う。
ホストからデータを送信し、印刷を行ってください。

(注意) サポートしているプリンタ、制御コード等は、PrintBridgeのマニュアル等を参照してください。

10.3 BizReporting を経由して印刷する

BizReporting との連携により、N5200 系コードの印刷に次の機能が追加されます。

- ・ Windows プリンタに対する印刷出力
- ・ フォームオーバーレイ/レイアウト変更などの帳票デザイン加工
- ・ イメージデータ、テキストデータの挿入(データベースからデータを引用)
- ・ 出力帳票の保管

BizReporting を使用する場合は、次の手順で印刷を行ってください。

- ① BizReporting をインストールする。
※BizReporting のインストール方法については、BizReporting のマニュアル等を参照してください。
- ② BizReporting の SG を行う。
プリンタ設定ツール (PICMIN) での「出力先のプリンタ」には、ETOSWEB SERVER 側の SG で設定した「出力先プリンタ」と同じものを設定してください。
※その他設定方法の詳細は、BizReporting のマニュアルを参照してください。
- ③ ETOSWEB SERVER の SG を行う。
・ プリンタ情報の設定で以下の設定を行ってください。

プリンタ言語 : [N5200 系コード] を設定してください。

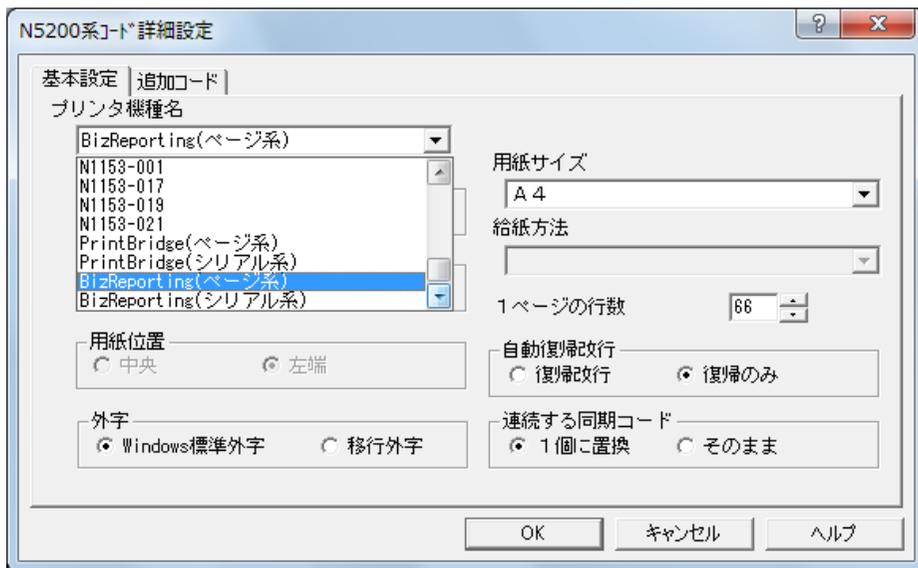
障害通知 : [通知しない] を設定してください。本設定を行わない場合は SG エラーとなります。

- ・N5200系コードの詳細設定で以下の設定を行ってください。

プリンタ機種名： BizReporting(ページ系またはシリアル系)を設定してください。
 設定するプリンタ機種名は、ホスト側で定義しているプリンタにより変わります。
 実際に印刷するプリンタ機種には依存しませんので注意してください。

ホストで定義したプリンタ	設定するプリンタ機種名
ページプリンタ	BizReporting (ページ系)
シリアルプリンタ	BizReporting (シリアル系)

初期化コード： BizReporting 側の仕様に従って設定してください。
 外字： BizReporting 側の仕様に従って設定してください。
 用紙サイズ： BizReporting 側の仕様に従って設定してください。
 印字方向： BizReporting 側の仕様に従って設定してください。



- ④ 印刷を行う。
 ホストからデータを送信し、印刷を行ってください。

(注意)

サポートしているプリンタ、制御コード他、BizReporting の製品情報については、BizReporting のマニュアル、製品紹介ページ等を参照してください。

第11章

トラブルシューティング

この章では、ETOSWEB SERVER のインストールで発生したトラブルと環境設定で発生したトラブルの対処方法について説明します。

- 11.1 インストールでのトラブル
- 11.2 パラメータ設定でのトラブル

第 11 章 トラブルシューティング

11.1 インストールでのトラブル

ETOSWEB SERVER のインストールで発生したトラブルの対処方法について説明します。

- (1) インストールプログラム (SETUP.EXE) が起動できない

次のようなことが原因と考えられます。

■メモリ容量が不足している

インストールプログラムが十分に動作するだけのメモリがありません。

メモリを増設するか、またはメモリの最適化を行ってください。

また他のアプリケーションプログラムが動作しているため、メモリ容量が不足することもあります。

その場合には他のアプリケーションを一旦終了させ、インストールを行ってください。

メモリの最適化については、Windows のマニュアルをご覧ください。

- (2) インストールプログラムが止まってしまう

次のようなことが原因と考えられます。

■他のアプリケーションプログラムが動作している。

他のアプリケーションが、資源 (CPU など) を一時的に占有しています。

他のアプリケーションの動作を終了するか、または他のアプリケーションプログラムと ETOSWEB SERVER の間で資源をどのように共有するのか最適化を行ってください。

共有資源の最適化 (占有時間の設定など) については、Windows のマニュアルをご覧ください。

- (3) インストールが最後まで進められない

次のようなことが原因と考えられます。

■ハードディスクの容量が不足している

ハードディスクの容量が不足すると、エラーメッセージが表示されます。

インストールを終了し、ハードディスクを増設するかまたはハードディスクの中身を整理してください。

■ ネットワークドライブに割り当てられた CD-ROM ドライブを使用している

ネットワークドライブを使用せず、インストールするマシンの CD-ROM ドライブ上からインストールしてください。

- (4) インストール中のエラーメッセージ

インストール中にエラーが発生すると、エラーメッセージが表示されます。

エラーメッセージにしたがってトラブルを解決してください。

11.2 パラメータ設定でのトラブル

ETOSJX-PG 設定する場合に発生するトラブルの解決方法について説明します。

(1) ETOSJX-PG が起動できない

次のようなことが原因と考えられます。

■メモリ容量が不足している

ETOSJX-PG が十分に動作するだけのメモリがありません。

メモリを増設するなどしてメモリの最適化を行ってください。

また他のアプリケーションプログラムが動作しているため、メモリ容量が不足することもあります。

その場合には他のアプリケーションを一旦終了させ、ETOSJX-PG の起動を行ってください。

メモリの最適化については、Windows のマニュアルをご覧ください。

(2) パラメータ設定が最後まで進められない。

次のようなことが原因と考えられます。

■ハードディスクの容量が不足している

ハードディスクの容量が不足すると、エラーメッセージが表示されます。

インストールを終了し、ハードディスクを増設するかまたはハードディスクの中身を整理してください。

付録

- 付録 A ETOSWEB SERVER 導入時の注意事項
- 付録 B ETOSWEB SERVER 使用時の注意事項
- 付録 C 障害発生時のお願い
- 付録 D コード変換テーブル
- 付録 E N5200 系コード対応プリンタ

付録A ETOSWEB SERVER 導入時の注意事項

A 1 インストールにおける注意事項

- (1) 必ず、次のソフトウェアをインストールした後に、本製品をインストールしてください。
 - ・Microsoft Internet Information Services
 - ・Microsoft Active Server Pages
 - ・ネットワークマネージャ
- (2) ETOSWEB SERVER の登録／削除は、システムで動作中のアプリケーション(ネットワークマネージャ、ウイルスチェックプログラム等の常駐アプリケーションも含む)をすべて終了して行ってください。
また、本製品のインストール作業中は、Internet Information Services を停止します。インストール中に Web ブラウザから Web サーバへのアクセスがある(またはアクセス中)かどうかを確認してからインストールしてください。
- (3) 本製品をインストール後、Internet Information Services (WWW サービス)に仮想ディレクトリが追加されます。インターネットサービスマネージャを利用して、適切なディレクトリアクセス権を設定してください。アクセス権の設定方法は Internet Information Services のオンラインマニュアルを参照してください。
- (4) ETOSWEB SERVER の登録／削除先に、ネットワークドライブを使用することはできません。必ずローカルドライブを使用して行ってください。
- (5) UA パスプリンタ出力で N5200 系印刷(障害通知有り)を行う場合は、インストールする前に使用するプリンタドライバを OS に登録しておいてください。
- (6) **64bit OS でプリンタ障害通知機能を使用する場合は、「64bit 障害通知対応 pr ライセンス」が必要となります。**
- (7) ETOSWEB SERVER をインストールすると、Windows ディレクトリに ETOSJX.INI ファイルを作成しますが、本ファイルを書き換えしないでください。
書き換えを行うと、ETOSWEB SERVER が正常に動作しなくなります。
- (8) ETOSWEB SERVER の登録／削除は、必ずインストールツールを使用して行ってください。手操作にて ETOSWEB SERVER のモジュールを登録／削除すると ETOSWEB SERVER の設定が不正となり正常に動作しなくなる可能性があります。
- (9) ネットワークマネージャのディレクトリとは別のディレクトリに本製品をインストールしてください。
- (10) IIS がインストールされていない状態で ETOSWEB SERVER をインストールした場合、または「仮想ディレクトリが登録できません」と表示された場合は、ETOSWEB SERVER 起動前に IIS をインストールし、ETOSWEB SERVER インストールディレクトリを仮想ディレクトリとして登録してください。
- (11) ETOSWEB SERVER の登録／削除を行った場合は ETOSWEB SERVER が置き換えたモジュールを有効とするため、OS の再起動を行ってください。
- (12) ETOSWEB SERVER 削除時に、仮想ディレクトリ「ETOSWEB」が残る場合があります。インターネットサービスマネージャを起動し、手動で削除してください。
- (13) DHCP 環境などクライアント IP アドレスが固定でない場合は、ライセンス管理方式でコンピュータ名管理を選択してください。

A 2 ETOSJX-PG の設定に関する注意事項

- (1) 別製品で作成した PG ファイル(*.PG)は使用できません。本製品の ETOSJX-PG にて PG ファイルを作成し直すか、PG コンバータにて変換後 ETOSJX-PG で読み込み、本製品用に変更することによって使用可能となります。
- (2) システムのプリンタ情報を変更した場合(ETOSWEB SERVER で使用するプリンタドライバの削除、プリンタ名やフォーム格納ディレクトリの変更など)は、パラメータファイルの関連する項目を設定し直してください。
- (3) PG ファイルはActiveX 版インストールディレクトリ配下の PGS ディレクトリに保存してください。
- (4) ブザー鳴動指定で「BEEP」の鳴動タイプを使用する場合、機種によってはブザー音が鳴らない場合があります。
- (5) COMI-2 パスファイル転送のファイル情報定義のファイル名は、64 文字以内で指定してください。なお、ファイル名にはスペースを含めることはできません。
- (6) スペースコード(20H)が入ったファイル名を、COMI-2 パス機能で使用することはできません。
- (7) XFER キーに送信機能を割り当てる場合、OS の「日本語入力モードの切り替えキー」指定を CTRL + XFER に設定する必要があります。
- (8) [マクロファイルの指定] でマクロファイルを登録する場合、サーバ上に存在するマクロファイルを指定してください。クライアント上のマクロファイルを実行する場合は、ETOSWEB SERVER ActiveX 版のメニュー [マクロ] - [実行] - [ファイル名] で、ファイルを指定して実行してください。
- (9) [ファンクションキー機能割当] で簡易操作を割り当てる場合、サーバ上に存在する簡易操作ファイルを指定してください。クライアント上の簡易操作ファイルを実行する場合は、ETOSWEB SERVER ActiveX 版のメニュー [簡易操作] - [実行] - [ファイル名] で、ファイルを指定して実行してください。

A 3 その他の注意事項

- (1) 本製品の接続数は、1 サーバで最大 3840 まで使用可能です。
但し、サーバのリソースにより、上記の値に達する前に接続できなくなる場合があります。
- (2) 本製品がインストールされているサーバ、または本製品がダウンロードされているクライアントにおいて、異なるバージョンの ETOSWEB SERVER ActiveX 版を利用することはできません。

付録B ETOSWEB SERVER 使用時の注意事項

B 1 プリンタ出力に関する注意事項

- (1) 外字を印刷するには、OS(Windows)に「MS ゴシック」または「MS 明朝」のフォントがインストールされている必要があります。
これらのフォントが登録されていることをコントロールパネルで確認してください。また、これらのフォントに外字を関連付けるか、標準の外字として登録する必要があります。詳細は、外字エディタ(OS 添付)を参照してください。
- (2) 画面のハードコピーを行う時、垂直タブ(VT)は、プリンタの設定に係わらず常に6行固定となります。
- (3) COMI-2パスによるプリンタ出力においてプリンタデータをチャンネル指定によってファイルへ出力した場合、このファイルをPCのプリンタへ出力することはできません(オフラインプリンタ出力(ETOS52CP)未サポートのため)。
- (4) COMI-2(KB/PR)モードのプリンタ同時出力指定でプリンタ出力を行う場合、画面表示とプリンタへの印刷は同時に行われません。
プリンタへの印刷は、ETOSJX-PGのCOMI-2パス拡張機能のプリンタタイマ監視時間が経過した後に行われます。
- (5) N5200系コードでプリンタ出力を行う場合、以下の点に注意してください。
 - ・ N5200系コード対応プリンタについては「付録 N5200系コード対応プリンタ」参照してください。
 - ・ シリアルプリンタで印刷する場合、ETOSJX-PG、DCSプリンタおよびプリンタのプロパティで設定する印刷の向き(縦/横)は反映されません。常に縦方向で印刷されます。
 - ・ 本体のプリンタインタフェースにプリンタ切換器やプリンタバッファ等を接続すると、障害通知機能に制限を受ける場合があります。
 - ・ ネットワークプリンタやUSB接続プリンタで印刷する場合、ETOSJX-PGおよびDCSプリンタのプリンタ制御コード指定で障害通知の有無を「通知しない」に設定してください。
 - ・ PC98-NXシリーズやExpress5800シリーズをご使用で「障害通知する」を選択した場合、電源断、プリンタケーブル抜けが、用紙切れ、DSELとして通知される場合があります。
 - ・ PC98-NXシリーズやExpress5800シリーズをご使用で「障害通知する」を選択した場合、プリンタケーブル抜け発生時に、印字データ抜けとなる場合があります。
 - ・ 障害通知の有無にかかわらず、プリンタ装置のリセットは検出できません。
 - ・ 「障害通知する」の場合、印刷が終了するまでの間、プリンタを占有します。このため、複数のETOSから(マルチホストやマルチLU)同時に印刷しようとしたり、UAパスとCOMI-2パスの印刷を同時に行おうとすると、ホストへプリンタ障害を通知します。
 - ・ シリアルプリンタでN5200系コードの印刷を行う場合、ETOSJX-PGおよびDCSプリンタのN5200系コード詳細設定で印字位置を左端に設定してください(初期値は左端になっています)。
中央を設定する場合、ホスト側プリンタデータの修正が必要となります。
- (6) 従来変換でプリンタ出力を行う場合、以下の点に注意してください。
 - ・ ETOSJX-PG、DCSプリンタおよびプリンタのプロパティで設定する印刷の向き(縦/横)は反映されません。常に縦方向で印刷されます。
 - ・ 従来変換を使用したフォーム印刷を行う場合、使用するOSに対応したフォーム印刷対応プリンタドライバ『PC-FORMEX/帳楽』(別売)が必要です。
 - ・ フォーム印刷を行う場合、フォーム名に長いファイル名は使用できません。「8文字以内+ピリオド(.)+3文字以内」でファイル名を設定してください。

- ・ フォーム印刷に使用するプリンタを変更した場合、プリンタに合わせてフォームオブジェクトを作成し直すことが必要な場合があります。詳しくは PC-FORMEX/帳楽の説明書を参照してください。
- (7) イメージ変換でプリンタ出力を行う場合、以下の点に注意してください。
 - ・ イメージ変換を使用して印刷を行う場合、ETOS 内部で PC-PR201 プリンタをエミュレートし、印刷イメージデータを出力します。このため、ホストからプリンタを直接制御するコード(ホッパ切り替え、プリンタ内蔵文字の印字、フォントカートリッジの指定等)は使用できません。
 - ・ 8ビットコードの CG グラフィック文字および、7ビットコードは使用できません。
 - ・ 印字処理中に用紙サイズを変更するコードを受け付けた場合、一旦スプールファイルをクローズし、印刷を行います。
 - (8) 本製品は文字コードを JIS78 で扱いますが、プリンタは、機種によっては JIS90 で動作するため、印刷結果の一部が異なった字体となる場合があります(JIS78 と JIS90 の違いによります)。

この場合、ETOSWEB SERVER インストールディレクトリ配下の SAMPLES ディレクトリに格納されている「JIS78.TXT」を ETOSJX-PG および DCS プリンタでプリンタ制御コード指定の追加コードに設定するか、プリンタ本体の文字コードの設定を JIS78 コードに設定することによって、正しい字体での印刷が可能です(イメージ変換印刷を除く)。
 - (9) クライアントでの UA パス印刷を行う場合、初期化コードの追加ファイルは、予めクライアントに用意しておく必要があります(サーバ上の追加ファイルはダウンロードされません)。

B2 オフライン印刷に関する注意事項

- (1) オフライン印刷データファイルのデータ量によって、プレビュー表示・印刷・変換・リナンバーに時間がかかる場合があります。
- (2) 指定したディレクトリに存在するオフライン印刷データファイル数によって、一覧表示に時間がかかる場合があります。
- (3) 異なる OS で出力したオフライン印刷データファイルはプリンタ情報が異なるため、必ずプリンタを設定し直してから印刷してください。再設定を行わない場合の印刷結果は保証できません。
- (4) 印刷開始または終了時に追加してデータファイル(追加コード)を出力する指定をして作成したオフライン印刷データファイルを使用する場合、データファイル(追加コード)はファイル作成時と同一ディレクトリに存在する必要があります。

B3 グラフ表示に関する注意事項

ActiveX 版は、Windows の GDI 機能を使用して TGL を実現している為、以下の点に注意して下さい。

- (1) 直線、円、円弧の線パターンについて(LINE 文)
 - ・ 線パターンの反転はできません(反転を指定しても無視されます)。
 - ・ 表示できる線種に制限があります(描画モードが高速モードの場合)。
- (2) 画面のクリア(GCLR 文、ERASE 文)
 - ・ ペン番号1~6を指定してもペン番号7として処理されます(全プレーンを消去します)。
- (3) 塗りつぶしパターン(PAT 文)
 - ・ 塗りつぶしパターンの拡大はできません。常に MAG=0 として処理します。
- (1) ディスプレイの初期化と解放(DEVICE 文)
 - ・ ACT=0, ACT=2 はサポートしていません。指定しても処理しません。

- (2) グラフテキスト及びラベルの大きさと傾き度合い(CSIZE 文)
- ・ 斜字はサポートしていません。SLANT=1 を指定しても SLANT=0 として処理されます。
- (3) 文字(グラフテキスト)列展開の描画方向(LDIR 文)
- ・ グラフテキストの描画方向は 90° 単位です。
ANG=1、3、5、7 はそれぞれ ANG=0、2、4、6 として処理されます。
 - ・ イタリックを指定した場合、フォントによっては描画方向(ANG=2、4、6)を指定しても 0° として描画されることがあります。
- (4) 文字(グラフテキスト)列展開の基準点(LORG 文)
- ・ グラフテキスト描画時の基準点、レターフェイス左下点はサポートしていません。MD=0 は MD=1 として処理されます。
- (5) 連続ベクトル描画による多角形、折れ線表示値(CDRAW 文)
- ・ 動作モード“F”、“A”では DMODE 文の影響を受けない場合があります。
- (6) グラフカーソルの移動(POINT 文)
- ・ 移動後のマウスカーソル非表示はサポートしていません。
常に MOD=0(表示する)として処理します。
- (7) 円、円弧、扇形の描画(CIRCLE 文)
- ・ 内部を塗り潰す指定をしたときの輪郭は、DMODE 文の影響を受けません。
- (8) 矩形の描画(RECT 文)
- ・ 内部を塗り潰す指定をしたときの輪郭は、DMODE の影響を受けません。
- (9) 色の重ね合わせ方の指定(DMODE 文)
- ・ 描画動作モード「1 (Complement)」は無効となり、「0 (Replace)」として扱われます。
- (10) グラフ表示領域について
- ・ グラフ面定義テキスト中に定義されているグラフ表示領域が、DIM 領域より大きいと DIM 領域がグラフ表示領域となります。
- (11) グラフの表示色/背景色について
- ・ グラフ表示画面の表示色は、ETOSJX-PG のグラフ表示色指定で指定したグラフ表示色や背景色と異なる場合があります。
 - ・ グラフ表示色と背景色は、DMODE 文の指定により次のように表示されます。

モード	グラフ表示色	グラフ背景色
DMODE 0、0 (REPLACE、不透明)	SRC	黒色
DMODE 2、0 (RESET、不透明)	黒色	SRC AND DEST
DMODE 3、0 (SET、不透明)	SRC	SRC AND DEST
DMODE 0、1 (REPLACE、透明)	SRC OF DEST	NOT(SRC) AND DEST
DMODE 2、1 (RESET、透明)	NOT(SRC) AND DEST	DEST
DMODE 3、1 (SET、透明)	SRC OR DEST	DEST

SRC : ETOSJX-PG で指定したグラフの表示色
DEST : ETOSJX-PG で指定したグラフの背景色

- (15) 表示フォントについて
- ・表示フォントに Terminal、FixedSys、Small Fonts を指定すると、グラフ表示の一部が乱れる場合があります。明朝(MS 明朝、F A 明朝)またはゴシック(MS ゴシック、F A ゴシック)を指定してください。
- (16) ウィンドウサイズによる影響
- ・ウィンドウサイズにより、90 度、270 度の描画角度文字の表示位置がずれることがあります。
 - ・ウィンドウサイズを大きくした場合、グラフの目盛が大きくなる場合があります。
- (17) 再描画用ファイルについて
- TGL では、再描画用にファイルを作成するため、メモリとディスクの空き容量がそれぞれ 100K バイト以上必要になります。
- (18) グラフのプリンタ出力について
- グラフをプリンタに出力すると、色の塗りつぶしの処理がプリンタドライバにより異なるため、画面通りの印刷結果が得られない場合があります。
- (19) クリップボード転送について
- ・データ連携時、フォントの大きさの情報はメタファイルに格納できないため、グラフ内の文字の拡大／縮小はできません。
 - ・グラフ領域外に描画した図形や文字は、ETOS 画面には表示されませんが、メタファイルには格納されるため、データ連携時には、貼り付け先に描画されます。
 - ・90 度、270 度の描画角度文字の文字幅が、画面のイメージと異なる場合があります。
- (20) その他
- ・通常の文字表示と TGL のグラフは同一のウィンドウにグラフィックとして描画されるため、後から描いたものが優先されて表示が行われます。ウィンドウの再描画時には、グラフはグラフで、文字は文字でまとめて描画されます(グラフを描いた後で文字を描画します)。再描画時の表示の順番がもともとの表示の順番と異なる場合、重なり方が変わります。
 - ・1 つの TGL 文のパラメータ総バイト数が 257 バイト以上のものを受信した場合、その TGL 文を含むグラフ表示テキストは無効となります。
 - ・グラフ描画の通信テキストに誤りがあった場合、エラーメッセージを表示します。
 - ・「一部の TGL コマンドが実行されませんでした。」というエラーを表示した場合、グラフの表示が不正となることがあります。
 - ・グラフ表示が正しく行われない場合、コントロールパネルから画面の設定(画面のプロパティ)を起動し、詳細設定→トラブルシューティングの“ハードウェアアクセラレータ”を「最大」から「なし」の方向に変更することにより、正常となる場合があります。

B 4 文字の入力と画面表示に関する注意事項

- (1) Windows は JIS2004 で文字コードを扱いますが、ホスト側は JIS78 で扱います。この差分により、入力／送信した文字がホスト側で破棄される場合があります。
- (2) グラフが表示されている位置に文字を入力すると、一時的にグラフテキストの一部が消えます。この場合、ウィンドウサイズを変更する等で再表示を行えば、グラフと文字が正しく表示されます。
- (3) 入力モード(ローマ字／かな)を変更する場合は、制御領域の「R/カナ」表示をダブルクリックするか、IME モード切替キーを押して変更してください。
- (4) カナ入力モードを使用する場合、入力フィールドの状態とカナの入力状態が一致しなくなる場合があります。この場合は、日本語入力システムのツールバー上の [KANJI] をクリックして、入力状態を直接変更してください。

- (5) IME 制御の設定を無効にした場合、入力モード(ローマ字/かな)の変更操作(IME モード切替キーの押下等)で制御領域の「R/カナ」表示は変更されますが、実際の入力モードは変更されません。
- (6) ETOS 画面は、縦横サイズ比が適正になるように自動的に補正しています。そのためユーザ操作でウィンドウのサイズを変更しても指定のウィンドウサイズにならないことがあります。
- (7) ユーザ操作でウィンドウのサイズ等を変更しても、ウィンドウ表示状態に関する設定は、ETOS 画面終了時にクリアされます。現在の表示状態を今後の既定値にしたい場合は、Ctrl+S キーを押して設定を保存してください。
- (8) ETOSJX のエラーメッセージ等を表示した時に、ETOSJX のウィンドウがアクティブ状態にならない場合があります。
- (9) マクロ(WIN ACTIVATE, ON)を使用した際に、ETOSJX のウィンドウをアクティブ状態にできない場合があります。
- (10) MS ゴシック、MS 明朝フォントは ETOS 画面表示に必要なため、システムから削除しないでください。
- (11) リバースアトリビュートの行が 2 行並んだ場合、行と行の間はリバースしません。
- (12) 同一カラムに縦罫線とリバースのアトリビュートを指定した場合、リバースは縦罫線カラム全体にかかります。
- (13) プロパティシートの右上に表示されるヘルプアイコン([?])は、選択できません。
- (14) Windows を終了させる際には、先に ETOS 画面を終了させてください。ETOS 画面を起動したまま Windows を終了させると、終了に時間がかかる場合があります。

B 5 分散処理機能に関する注意事項

- (1) 分散アプリケーションは、32bit 分散 API・64bit 分散 API で作成可能です。
なお、分散アプリケーションの作成には、以下のソフトウェア(コンパイラ)を使用してください。

C 言語	: Visual C++ 2012(Visual Studio 2012)以上	*1*2*3
COBOL 言語(32bit)	: Open COBOL Factory 21/COBOL85 Ver6. x および Open COBOL Factory 21/COBOL85 Pro Ver8. x	*1*2*3*4
COBOL 言語(64bit)	: COBOL Standard Edition Developer Ver1.0	*1*2*3*4

- *1 ユーザプログラムは、指定されたバージョンで作成してください。
 - *2 指定以外のコンパイラで作成済みのユーザプログラムは、指定バージョンで再コンパイルすることを推奨します。
 - *3 指定以外のコンパイラで作成したユーザプログラムは、動作を保証できない場合があります。
ユーザプログラムが正常に動作しない場合は、指定バージョンで再コンパイルしてください。
 - *4 システムサブルーチン(32bit:CSETOS.OBJ、64bit:CSETOS64.OBJ)は、本製品添付のものを使用してください。
- (2) 64bit 分散アプリケーションを使用する場合は、ご使用前にランタイムをインストールしてください。インストール方法は「[4.7 64bit 分散アプリケーションを使用する場合](#)」を参照してください。
 - (3) 分散アプリケーション使用時、分散 AP が ET_ENA コマンドを発行する前に、操作員が ETOS 画面を終了した場合、ETOS 画面は終了しますが分散アプリケーションは終了しません。
 - (4) 分散アプリケーションのウィンドウをアクティブ状態にできない場合があります。
 - (5) ETOS 制御機能を利用するアプリケーションとの同時動作は保証していません。

B 6 ETOS 制御機能に関する注意事項

ETOS 制御機能は利用できません。ETOS 制御機能が必要な場合は個別に対応いたしますので、弊社担当 SE もしくは担当営業にお問い合わせください。

B 7 ファイル転送に関する注意事項

- (1) パラメータ変更で COMI-2 パス拡張ファイル転送のファイル情報定義のファイル名を変更する時は、64 文字以内で指定してください。なお、ファイル名にスペースを入れないでください。
- (2) 同一ファイルに対して同時にアクセスを行った場合 (同一ファイルに対して書き込みと読み込みを同時に行う場合等) 動作は保証されません。

B 8 ユーザ外字に関する注意事項

リファレンスマニュアルの「付録 ユーザ外字領域」を参照してください。

B 9 ローカル画面に関する注意事項

- (1) ローカル画面ファイル機能関連のローカルユーティリティ (ETOS52FG) はサポートしていません。
- (2) 同一ローカル画面ファイルに対して同時にアクセスを行った場合 (同一ファイルに対して書き込みと読み込みを同時に行う場合等) 動作は保証されません。

B 10 オンライン FORMS に関する注意事項

- (1) 網掛けパターンの登録は出来ません。
- (2) イメージ変換、無変換ではオンライン FORMS 機能は使用できません。
- (3) フォームの開始/終了は単一データとしてホストより送信して下さい。制御シーケンス以外にデータが付加されていた場合、制御シーケンスは認識されません。

B 11 コード変換に関する注意事項

- (1) シフト JIS→JIS コードに変換する場合、2 バイト系コードの始まりおよび終りにそれぞれ KI コード (1A70₁₆)、KO コード (1A71₁₆) を付加しますが、付加される位置は固定ではありません。

例えば 2 バイト系のコード列があった場合、その先頭と最後に KI コードと KO コードが付加されますが、コード列の途中にも KO コード、KI コードが付加される可能性があります。

付録 C 障害発生時のお願い

障害発生時には、調査に必要な下記資料を採取して頂き、販売店、弊社担当営業、弊社担当 SE までお渡し願います。

チェックシートがない場合、障害対応を迅速に行えない場合がありますので、御協力の程、お願いいたします。

販売店、担当営業、担当 SE は、次ページ以降のチェックシートを添付の上、障害報告書を発行するよう願います。

<p>使用マシンのソフトウェア環境：</p> <p><input type="checkbox"/> 他の通信プロダクトとの共存 [共存, 共存しない]</p> <p>共存の場合、プロダクト名とバージョンを記入してください。 プロダクト名 [_____] Ver. [____ . ____]</p>	
<p>障害メッセージ：（ActiveX 版や Windows が表示するメッセージ）</p> <p><input type="checkbox"/> ActiveX 版のエラーメッセージ メッセージ番号 [_____] メッセージ内容 [_____]</p> <p><input type="checkbox"/> Windows エラーメッセージ メッセージ内容 [_____]</p>	
<p>ダンプ等：（以下の資料は必ず添付してください）</p> <p><input type="checkbox"/> ActiveX 版のログ（注1）</p> <p><input type="checkbox"/> ホスト側の回線トレース</p> <p><input type="checkbox"/> ネットワークマネージャのトレースダンプ(注2)</p> <p><input type="checkbox"/> ダンプ採取不可 理由 [_____]</p>	
<p>その他の資料：</p> <p><input type="checkbox"/> ActiveX 版の画面コピー</p> <p><input type="checkbox"/> ActiveX 版の印刷結果</p> <p><input type="checkbox"/> その他 [_____]</p>	
<p>備考：（その他、何かお気づきの点がありましたら記入してください）</p>	

(注1)

1. ActiveX 版のログ採取方法

ActiveX 版のログファイルは、以下の①または②の方法で採取します。

① 障害発生のタイミングが限定できない場合

ActiveX 版を使用している場合は、サーバ側の詳細ログを採取する為にスナップショットダンプを採取した後に ETOSWEB SERVER ActiveX 版を終了させて下さい。

② 障害発生のタイミングが限定される場合(画面が乱れる等)

スナップショットダンプを採取する (Ctrl+@キーを押下あるいはツールバーのログ採取ボタンをクリックしてください)

※スナップショットダンプを採取した場合は、スナップショットを採取した直後に、採取した全てのログファイルを別のディレクトリ等に退避してください。

ActiveX 版を終了すると、スナップショットダンプで採取したログファイルが上書きされてしまいます。

①または②の動作を実行すると、ActiveX 版インストールディレクトリの“LOG”ディレクトリにログファイルが作成されます。

このディレクトリ配下に格納されている全てのログファイルと PG ファイル、ETS ファイル、および PGD ファイルを zip 等で圧縮してコピーしてください。

サーバ側、クライアント側の情報をコピーして下さい。

- ・ ログファイルは以下のディレクトリ配下に格納されています。

サーバ側 : ActiveX 版インストールディレクトリの“LOG”ディレクトリ

クライアント側 : システムドライブの“¥Program Files¥ETOSWEB¥LOG”ディレクトリ

- ・ SG ファイルは以下のファイルをコピーして下さい。

サーバ側 : PG ファイル、ETS ファイル、PGD ファイル、HTM ファイル

(ActiveX 版インストールディレクトリの“PGS”ディレクトリ)

クライアント側 : PGC ファイル

(システムドライブの“¥Program Files¥ETOSWEB¥PGC”ディレクトリ)

※ログファイルを採取する前にディスクの空き容量が十分であることを確認してください(2 MB 以上)。ディスク容量が不足していると ActiveX 版がログファイルを出力できません。

2. 採取されるログファイル

ActiveX 版の起動ディレクトリ下の¥LOG ディレクトリに、以下の規則によりログファイルは作成されます。

① ETOSJX ログファイル

ファイル名 = リソース名(最大 16 文字). 拡張子

拡張子	内 容
LOx	ログトレース
FOx	関数トレース
DOx	送受信データ
KOx	キー入力データ
TOx	ETOSJX テーブル
IOx	ICP ログ
SOx	スナップショットダンプ
MOx	ウィンドウメッセージトレース
DCS	DCS のログ
DCM	DCS のウィンドウメッセージトレース
PRL	DCS プリンタのログ
PRM	DCS プリンタのウィンドウメッセージトレース

※x は何個目の ETOSJX かを示す。

② プリンタ出力(ハードコピーを除く)のログファイル

ファイル名	プリンタ制御コードの設定
WN201AXX.LOG	201 系コード/従来変換
WNGDIAXX.LOG	201 系コード/イメージ変換
WNTHRAXX.LOG	201 系コード/無変換
WNINFAXX.LOG	情処系コード

③ 分散 AP 使用時のログファイル(ActiveX 版起動ディレクトリ下の¥LOG ディレクトリ)

ファイル名	内容
ETSMMLXX.LOG	ログトレース
ETSMMLXX.TBL	分散 API テーブル
ETSMMLXX.ICP	ICP ログ

③ ETOSWEB SERVER ヒストリファイル

ファイル名	内容
ETOSHIST.LOG	ETOSWEB SERVER の動作履歴トレース

④ GW Server のログファイル

ファイル名	内容
GWSRVM.LOG	ログトレース
GWSRVE.LOG	エラーログ
GWSRVSXX.LOG	クライアント詳細ログ

⑤ GW Client のログファイル

ファイル名	内容
リソース名 XXX.LOG	クライアント回線ログ
リソース名：(最大 16 文字)	

(注 2)

- ・ネットワークマネージャのトレースファイル採取方法

ネットワークマネージャの動作トレースおよび、データトレースを採取します。これらのトレースファイルの採取はネットワークマネージャの「運用管理ツール」から行います。

- ① 動作トレースを採取するには、あらかじめ、メニュー「運用」－「動作トレースの開始」を選択しておき、エラー発生時に「動作トレースの終了」を選択します。
- ② データトレースを採取するには、あらかじめ、データトレースを採取する回線を選択して [回線操作]－[データトレースの開始]を選択し、[開始] ボタンをクリックしておき、エラー発生時に [データトレースの終了] を選択します。

(詳しくはネットワークマネージャのマニュアルを参照してください)

付録 D コード変換テーブル

ここでは、コード変換テーブルの使用方法について説明します。

D.1 コード変換テーブルとは

コード変換テーブルは、ホスト側から送られる日本語コード(JIPS)を端末側の日本語コード(シフト JIS)に変換する規則と、端末側の日本語コード(シフト JIS)をホスト側へ送る日本語コード(JIPS)に変換する規則を定義したファイルです。コード変換テーブルを作成するためには、コード変換テーブル作成ツールを使用します。

D.2 文字コードについて

JIPS とは、JIS78 と呼ばれる JIS コードに漢字 IN(1A70₁₆)、漢字 OUT(1A71₁₆)を加えた文字コードを表します。コード変換テーブルを定義する上では、JIPS と JIS(JIS78)は同じ意味を表します。

端末側の文字コードであるシフト JIS は、MS-DOS や Windows 3.1 では JIS78 を元にした文字コードでしたが、本製品で使用する OS では通常、JIS90(厳密には JIS2004)を元にした文字コードを示します(ただし JIS78 のフォントも選択可能)。

ホスト側の文字コードが JIS78 であるのに対して、端末側(Windows)の標準は JIS90 となることから、JIS78 と JIS90 の差分を定義したコード変換テーブルを使用する必要があります。ただし、コード変換テーブルを使用する場合でも、JIS90 で字形変更された一部の漢字については、JIS90 の字形のままとなります。

コード変換テーブルを作成する場合、JIS78 フォントまたは JIS90 フォントを使用することが可能ですが、上記の特徴を考慮した上でどちらのフォントを使用するかを選択してください。

- ① JIS78 フォントを使用する利点
 - ・ JIS78 と JIS90 の差分を定義する必要がない。
 - ・ 従来ホストで使用していた JIS78 特有の字体が利用できる。
- ② JIS90 フォントを使用する利点
 - ・ JIS78 フォントを持つソフトウェアを導入する必要がない。
 - ・ Windows 標準の字体が利用できる。

D.3 コード変換テーブルの使用目的

(1) JIS90 環境でホストと通信が可能

ホストでは、JIS78 のフォントを使用しているため、原則として端末側もホスト側に合わせて JIS78 のフォント(F A フォント)を使用する必要があります。しかし、コード変換テーブルを使用する(テーブルの新規作成時に JIS90 を選択する)ことにより、JIS78 と JIS90 で置き換えのあった文字が対応付けられ、JIS90 のフォント(MS フォント等)での運用が可能となります。

なお、コード変換テーブル新規作成時の既定値では、JIS78 と JIS90 の字体の差分については置換されません。JIS78 と完全に一致させるには、JIS78 の字体を個別にユーザ外字として作成した上で、コード変換テーブルによる変換規則を定義する必要があります。

(2) 3,760 文字の外字を利用可能

コード変換テーブルを使用することにより、端末側では二種類のフォント(標準フォント、拡張フォント)が使用可能となります。フォント毎に外字を用意すれば、 $1,880 \times 2 = 3,760$ 文字の外字が利用可能となります。

(3) ホストとのデータ交換を詳細に制御可能

コード変換テーブルにより、ホスト \leftrightarrow 端末間の文字の変換を1文字単位で定義可能です。これにより、特定の文字(例えば G1 文字全て)を全て同じ文字(例えば全角スペース)に置き換えることが可能となります。

D.4 コード変換テーブルの有効範囲について

(1) コード変換テーブルの定義が有効となる機能

下記に示す機能ではコード変換テーブルを利用可能です。

- ・ 画面表示(テキスト、グラフ文字)
- ・ 画面送信(テキスト)
- ・ プリンタ出力(N5200系印刷で移行外字選択時、および無変換印刷選択時を除く)
- ・ オフライン印刷プレビュー
- ・ COMI-2 パスファイル転送

(2) コード変換テーブルの定義が無効となる機能

下記に示す機能は、ホストと送受信する場合の文字コード体系が規定されていないため、コード変換テーブルを利用できません(コード変換テーブルが設定されている場合でも無視されます)。

- ・ プリンタ出力(N5200系印刷で移行外字選択時、および無変換印刷選択時)
- ・ オフライン印刷プレビュー
- ・ COMI-2 パスバイナリファイル転送
- ・ UA パスファイル転送
- ・ 分散処理

D.5 コード変換テーブルを使用する流れ

コード変換テーブルは、次の手順で使用します。

(1) コード変換規則を定義する準備

コード変換規則を定義する前に、以下の準備が必要です。

- ・ 変換規則の定義が必要な文字コードを抽出します。
- ・ 端末側で使用するJISコード(JIS78 または JIS90)を決めます。
- ・ 使用する標準フォントを決めます。
- ・ 表示する字体が標準フォントに含まれているか確認し、必要に応じて字体を外字に定義します。
- ・ 2種類のフォントを使用する場合や、必要な外字数が1,880文字を越える場合、使用する拡張フォントを決めます。

(2) コード変換テーブルの作成

上記で準備したコード変換規則の定義やフォントの定義を行います。コード変換テーブルの作成方法については、**操作ガイド「コード変換テーブルを作成する」**を参照してください。

(3) コード変換テーブルの設定

① 画面送受信および COMI-2 パス処理

ETOSJX-PG でコード変換テーブル(ファイル)を指定します。コード変換テーブルの指定方法については、「**5.7.4 コード変換テーブルを設定する**」を参照してください。

付録 E N5200 系コード対応プリンタ

N5200 系コードの印刷を行う場合、以下に掲載する PC-PTOS 対応プリンタが必要です。

ETOSJX シリーズ (<http://www.nec.co.jp/pfsoft/etosjx/>)

－動作環境

－サポートプリンター一覧

－[PC-PTOS 対応プリンタ](#)

なお、9 ポイント文字の印刷は、掲載されているページプリンタでのみ印刷が可能です(シリアルプリンタでは印刷できません)。

※ 9 ポイント文字の印刷については、「10.1 9 ポイント文字の印刷設定」を参照してください。

<注意事項>

- (1) N 型番のプリンタ (N11xx と N78xx) は、Express5800 サーバに接続されている場合に、ネットワークプリンタとして利用可能です。PC には接続できません。
- (2) PR-L4050、PR-L6050A、N1153-L4050、N1153-L6050A をご使用になる場合、1999 年 7 月 1 日以降に出荷された装置である必要があります。
出荷時期が不明な場合は、プリンタファームウェアのレビジョンをご確認ください。
【サポート対象プリンタのファームウェア (FW) レビジョン】
プリンタ FW は、以下のレビジョン以降のものが該当します。
PR-L4050、N1153-L4050 : レビジョン 12.41 以降
PR-L6050A、N1153-L6050A : レビジョン 10.35 以降
注意 プリンタ FW は、小数点以下 2 桁が版数を表します。
- (3) PR-L2050、PR-L2900C、PR-L4050、PR-L6050A、PR-L8200、PR-L8200N、PR-L8400N、PR-L8500N については、プリンタファームウェアのアップデートが必要です。詳細はプリンタ側にご確認ください。
- (4) PR-D700EX は ETOSWEB SERVER のサポートプリンタではありません。